

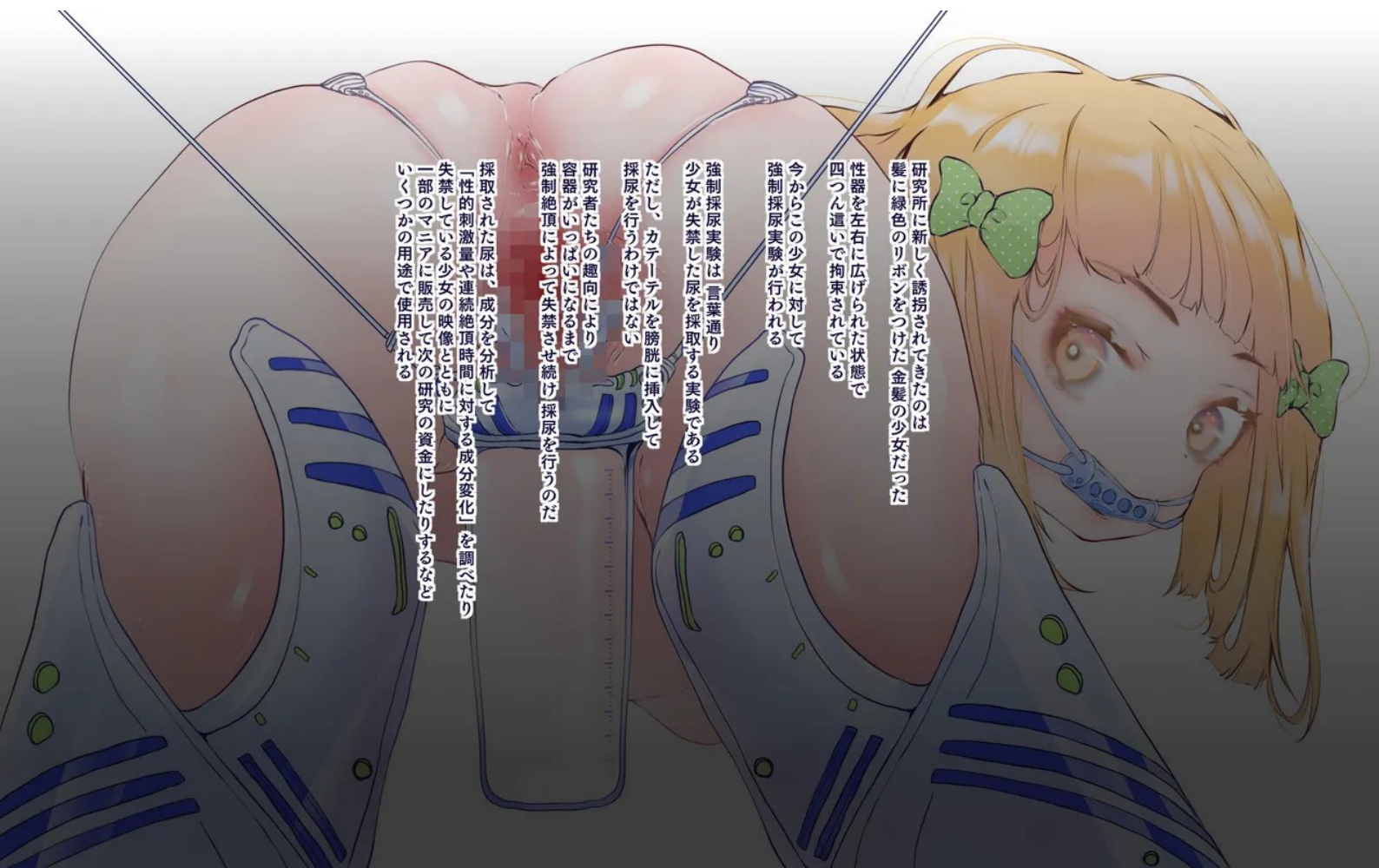
拘束器具責物GG集

少女誘拐実験13

強制採尿実験編

S y o u j o Y u k e i J i k k e n
A K A R I K O U B O U





研究所に新しく誘拐されてきたのは
髪に緑色のリボンをつけた金髪の少女だった

生殖器を左右に広げられた状態で
四つん這いで拘束されている

今からこの少女に対して
強制採尿実験が行われる

強制採尿実験は言葉通り
少女が失禁した尿を採取する実験である

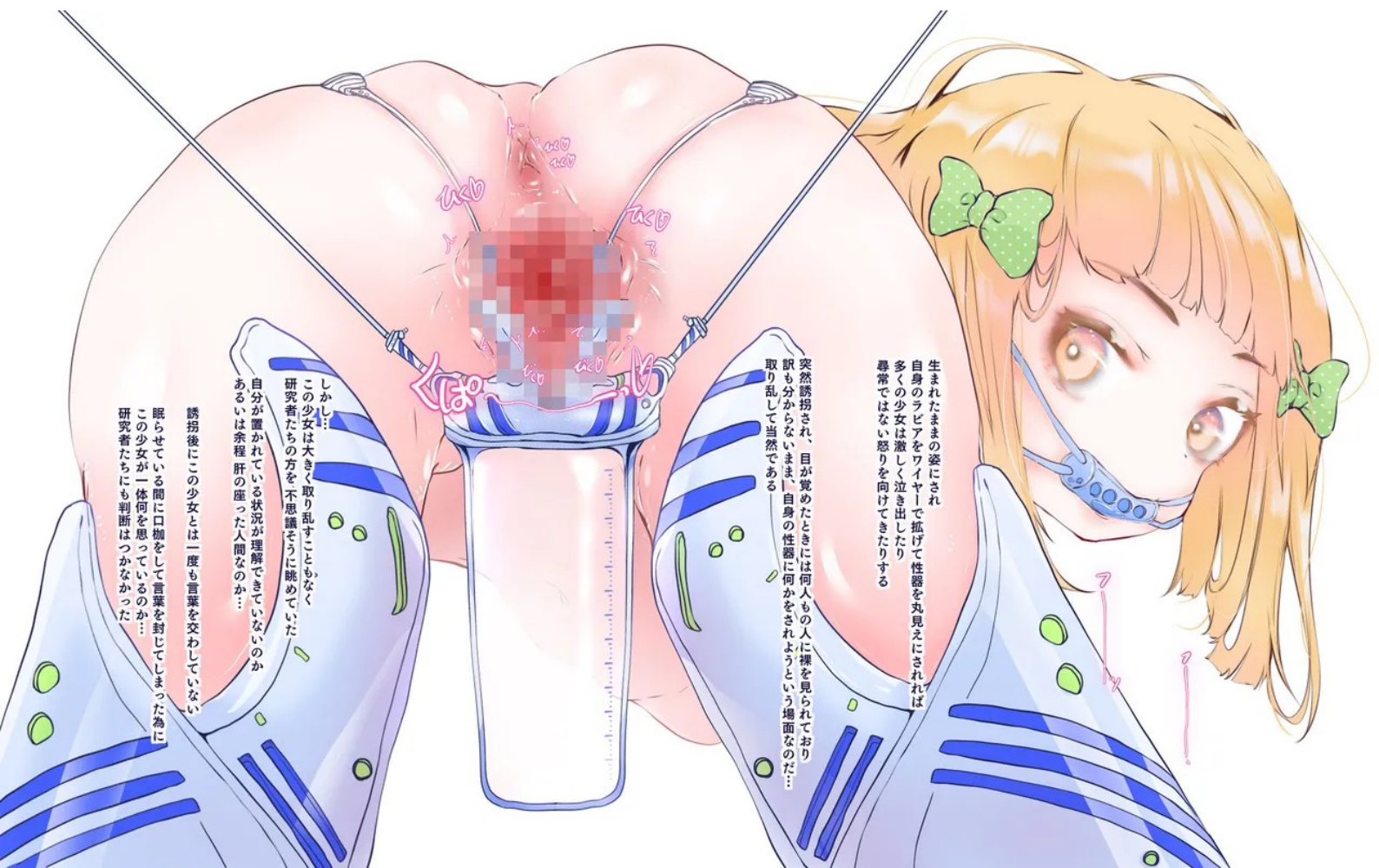
ただし、カテーテルを膀胱に挿入して
採尿を行うわけではない

研究者たちの趣向により
容器がいつばいになるまで

強制絶頂によって失禁させ続け採尿を行うのだ

採取された尿は、成分を分析して
「性的刺激量や連続絶頂時間に対する成分変化」を調べたり

失禁している少女の映像とともに
一部のマニアに販売して次の研究の資金にしたりするなど
いくつかの用途で使用される

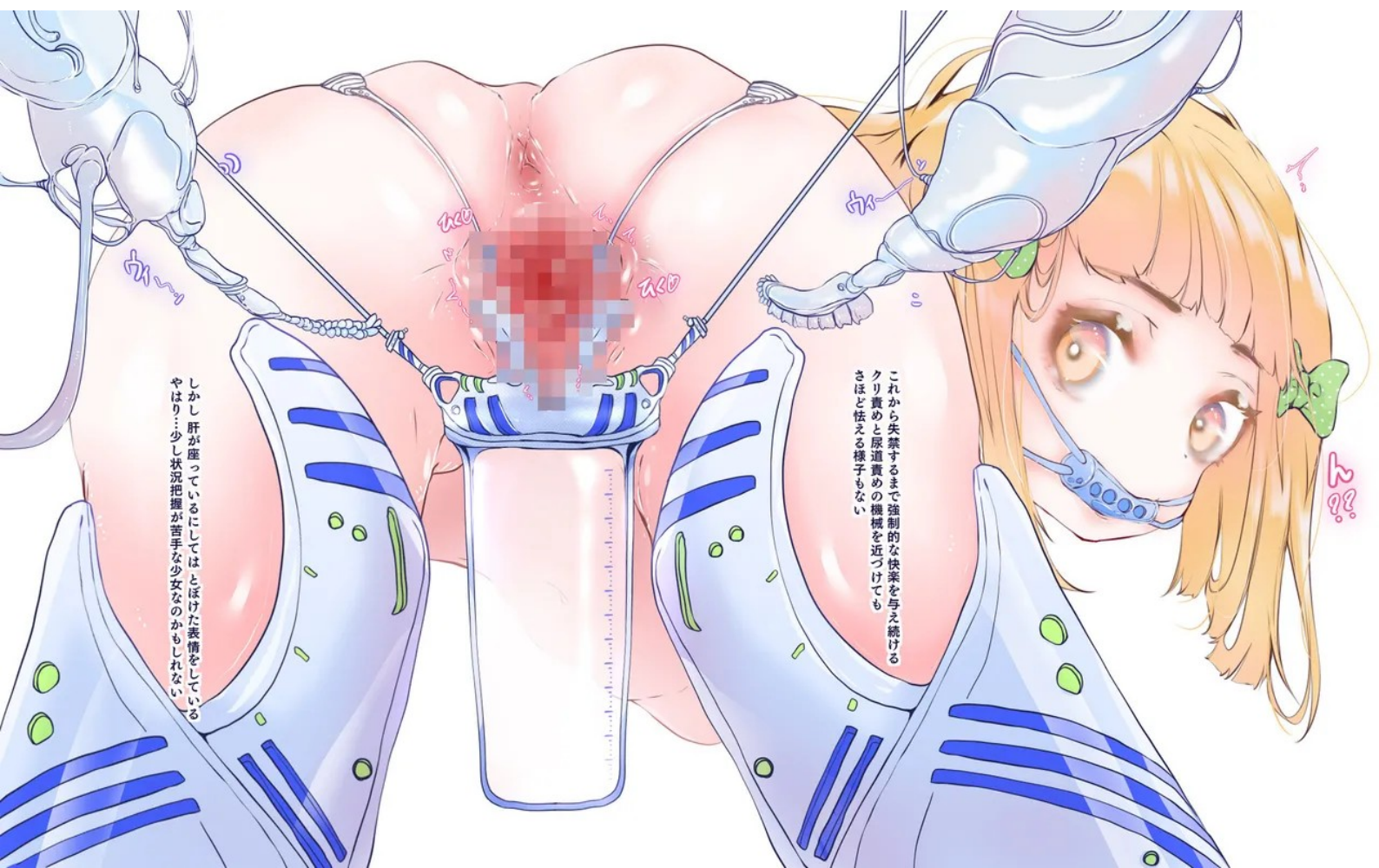


生まれたままの姿にされ
自身のラビアをワイヤーで括げて性器を丸見えにされれば
多くの少女は激しく泣き出したり
尋常ではない怒りを向けてきたりする

突然誘拐され、目が覚めたときには何人もの人に裸を見られており
取も分からないまま、自身の性器に何かをされようという場面なのだ！
取り乱して当然である

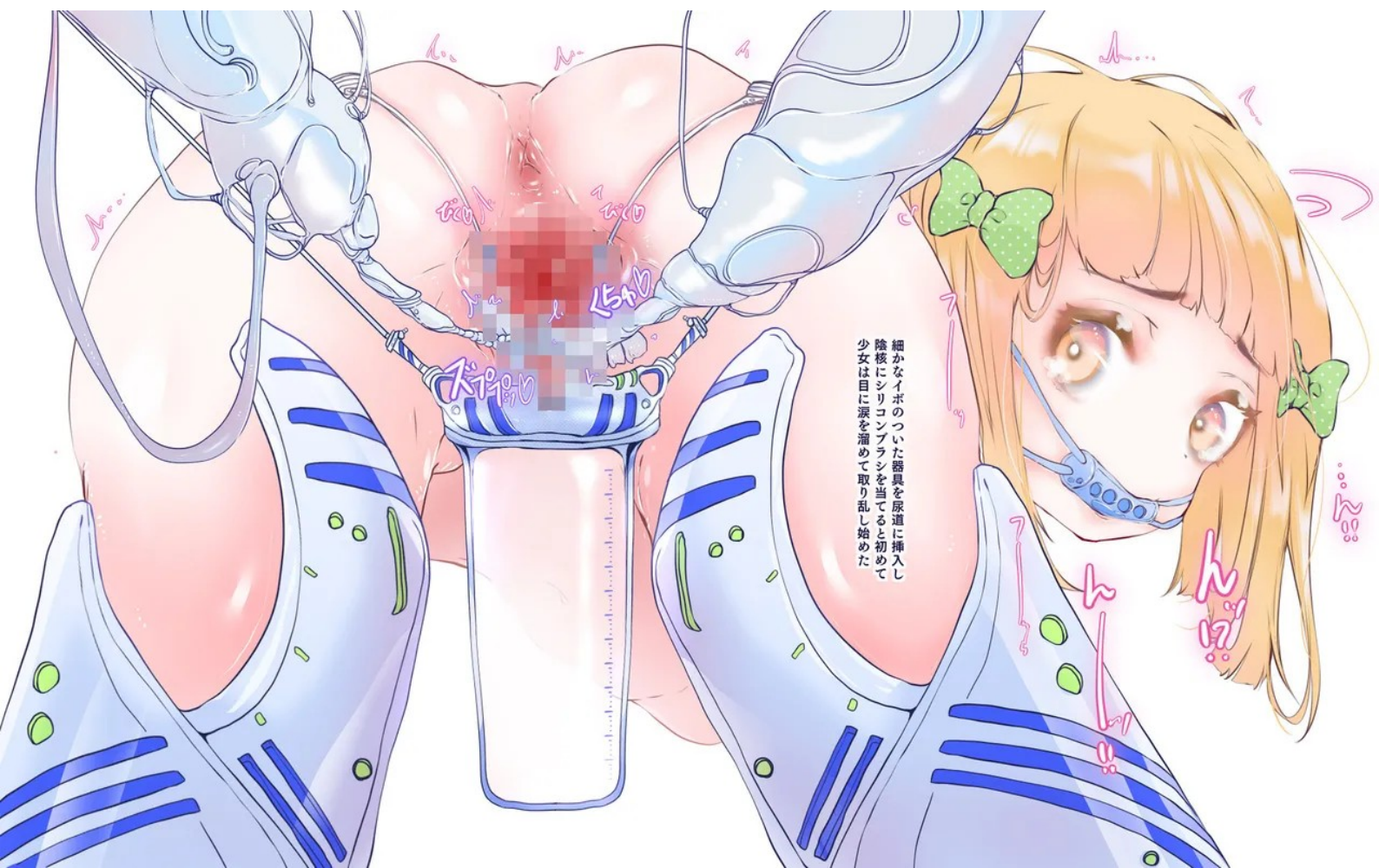
しかし！
この少女は大きく取り乱すこともなく
研究者たちの方を不思議そうに眺めていた
自分が置かれている状況が理解できていないのか
あるいは余程肝の座った人間なのか…

誘拐後にこの少女とは一度も言葉を交わしていない
眠らせている間に口枷をして言葉を封じてしまった為に
この少女が一体何を思っているのか…
研究者たちにも判断はつかなかった

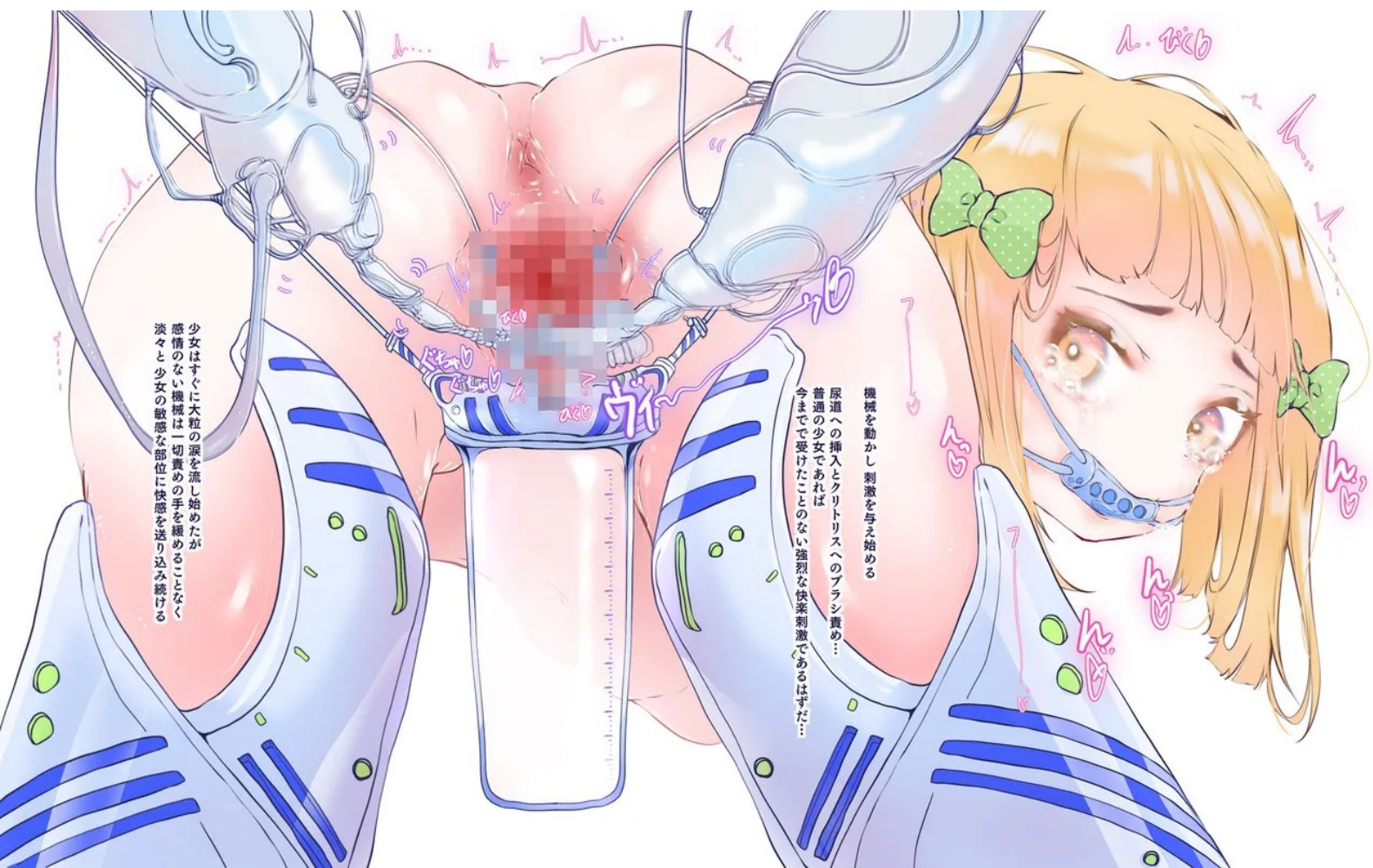


しかし肝が座っているにしてはとほげた表情をしている
やはり...少し状況把握が苦手な少女なのかもしれない

これから失禁するまで強制的な快楽を与え続ける
くり貫めと尿道貫めの機械を近づけても
さほど怯える様子もない

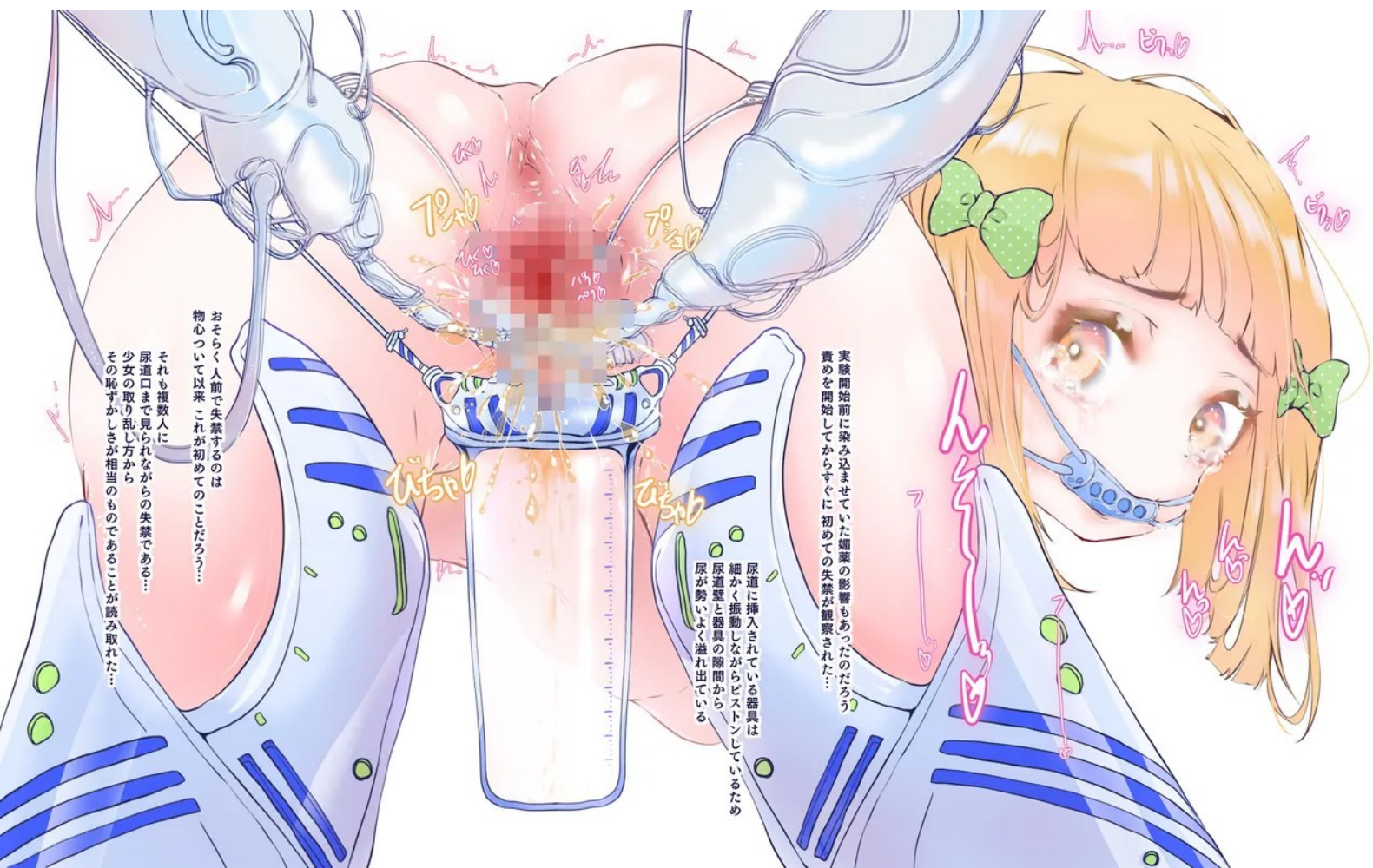


細かなイボのついた器具を尿道に挿入し
陰核にシリコンプラグを当てると初めて
少女は目に涙を溜めて取り乱し始めた



少女はすぐに大粒の涙を流し始めたが
感情のない機械は一切責めの手を緩めることなく
淡々と少女の敏感な部位に快感を送り込み続ける

機械を動かし刺激を与え始める
尿道への挿入とクリトリスへのブラシ責め：
普通の少女であれば
今までで受けたことのない強烈な快楽刺激であるはずだ！

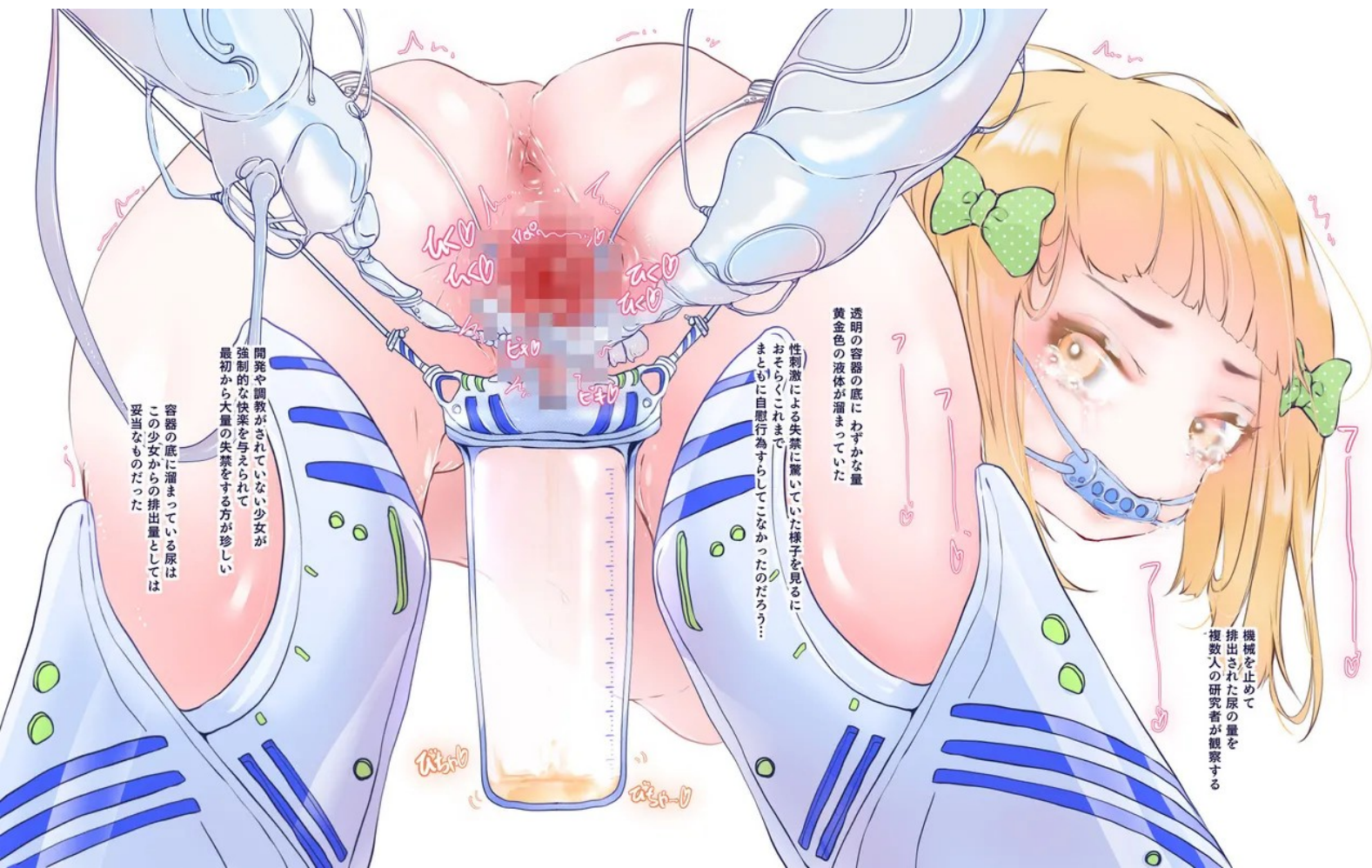


実験開始前に染み込ませていた燐葉の影響もあったのだろうか
責めを開始してからすぐに初めての失禁が観察された...

尿道に挿入されている器具は
細かく振動しながらピストンしているため
尿道壁と器具の隙間から
尿が勢いよく溢れ出ている

おそらく人前で失禁するのは
物心ついて以来、これが初めてのことだろう...

それも複数人に
尿道口まで見られながらの失禁である...
少女の取り乱し方から
その恥ずかしさが相当のものであることが読み取れた...



開発や調教がされていない少女が
強制的な快楽を与えられて
最初から大量の失禁をする方が珍しい
容器の底に溜まっている尿は
この少女からの排出量としては
妥当なものだった

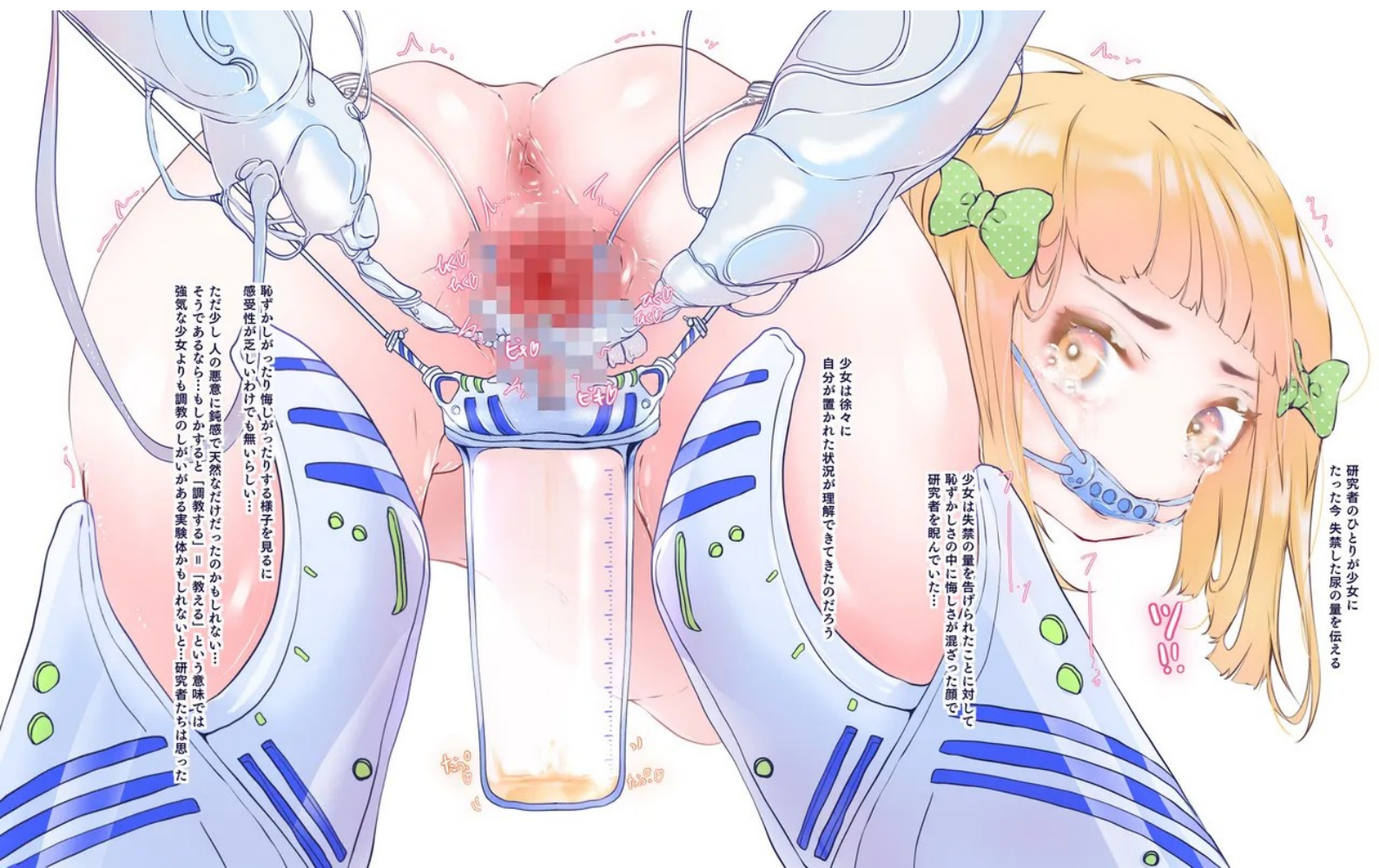
透明の容器の底にわずかな量
黄金色の液体が溜まっていた

性刺激による失禁に驚いていた様子を見るに
おそらくこれまで
まともに自慰行為すらしてこなかったのだろう…

機械を止めて
排出された尿の量を
複数人の研究者が観察する

ぐわん

ぐわん

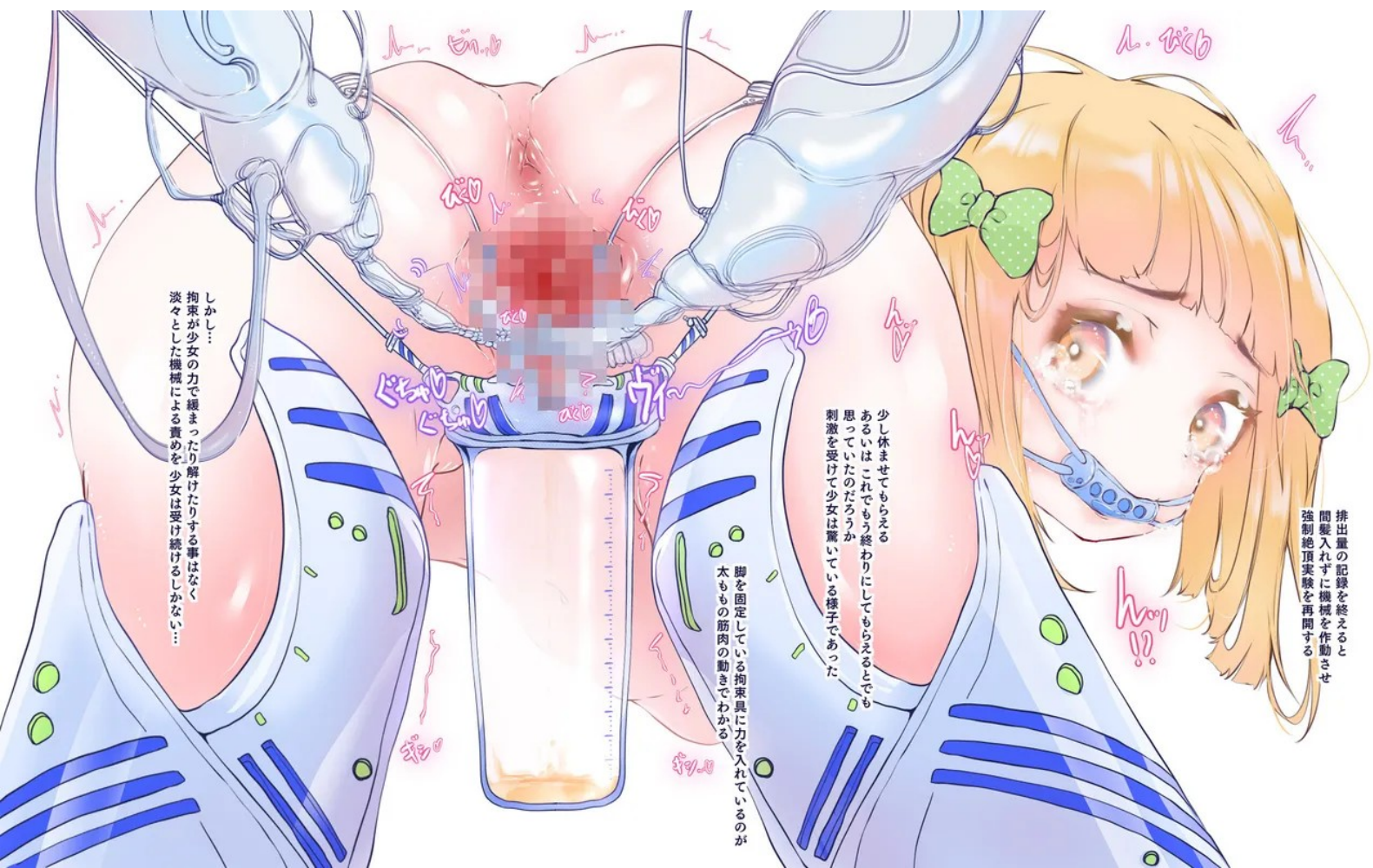


研究者のひとりが少女に
たった今失禁した尿の量を伝える

少女は失禁の量を告げられたことに対して
恥ずかしさの中に悔しさが混ざった顔で
研究者を睨んでいた！

少女は徐々に
自分が置かれた状況が理解できてきたのだろう

恥ずかしがったり悔しがったりする様子を見るに
感受性が乏しいわけでも無いらしい！
ただ少し人の悪意に鈍感なだけだったのかもしれない！
そうであるなら…もしかすると「調教する」＝「教える」という意味では
強気な少女よりも調教のしがいがある実験体かもしれない…研究者たちは思った



しかし…
拘束が少女の力で緩まったり解けたりする事はなく
淡々とした機械による責めを少女は受け続けるしかない…

少し休ませてもらえる
あるいはこれでもう終わりにしてもらえども
思っていたのだろうか
刺激を受けて少女は驚いている様子であった

脚を固定している拘束具に力を入れているのが
太ももの筋肉の動きでわかる

排出量の記録を終えると
間髪入れずに機械を起動させ
強制絶頂実験を再開する

んー ぴゅん

んー ぴゅん

んー

んー

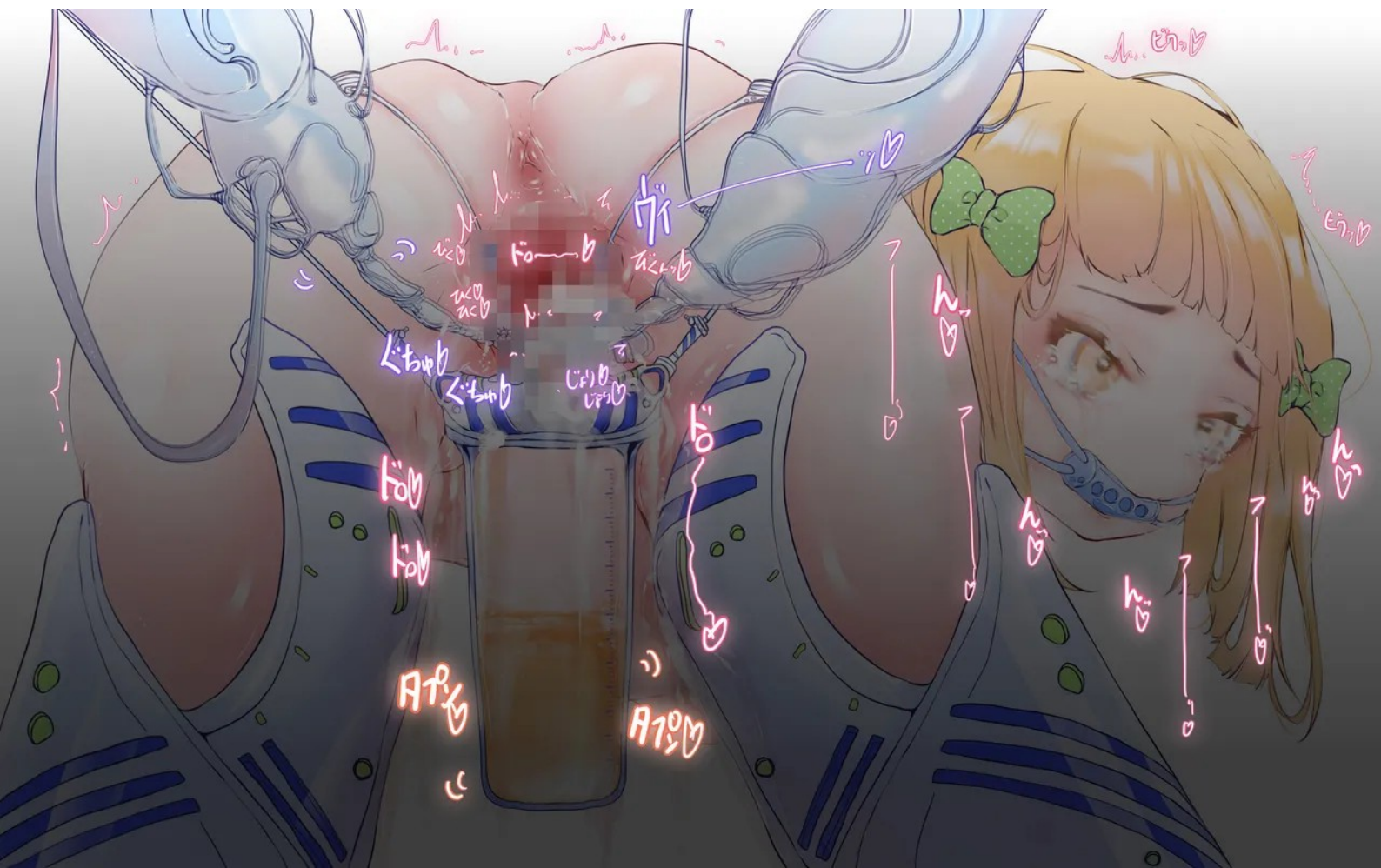
んー

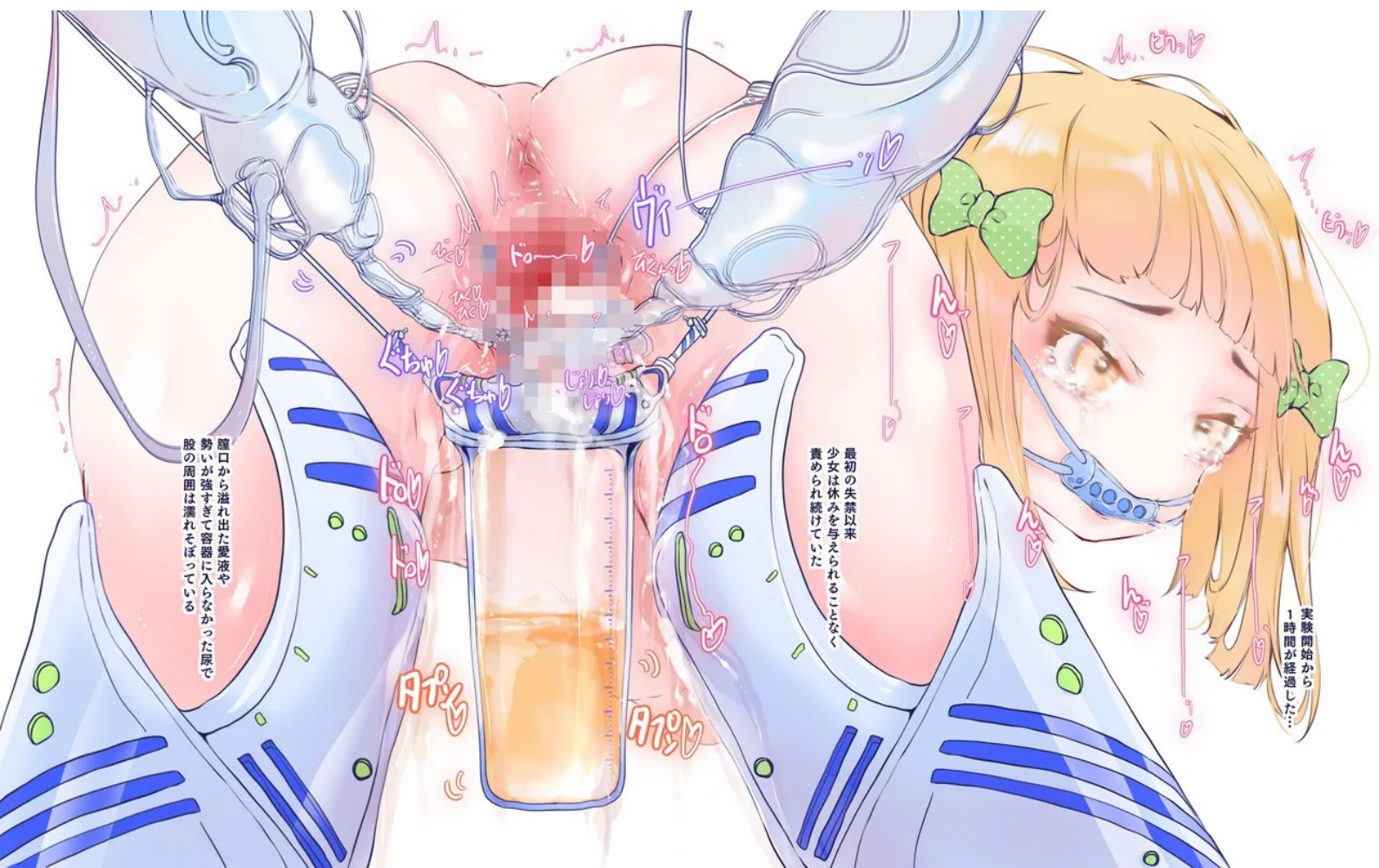
んー!!

んー

んー

んー

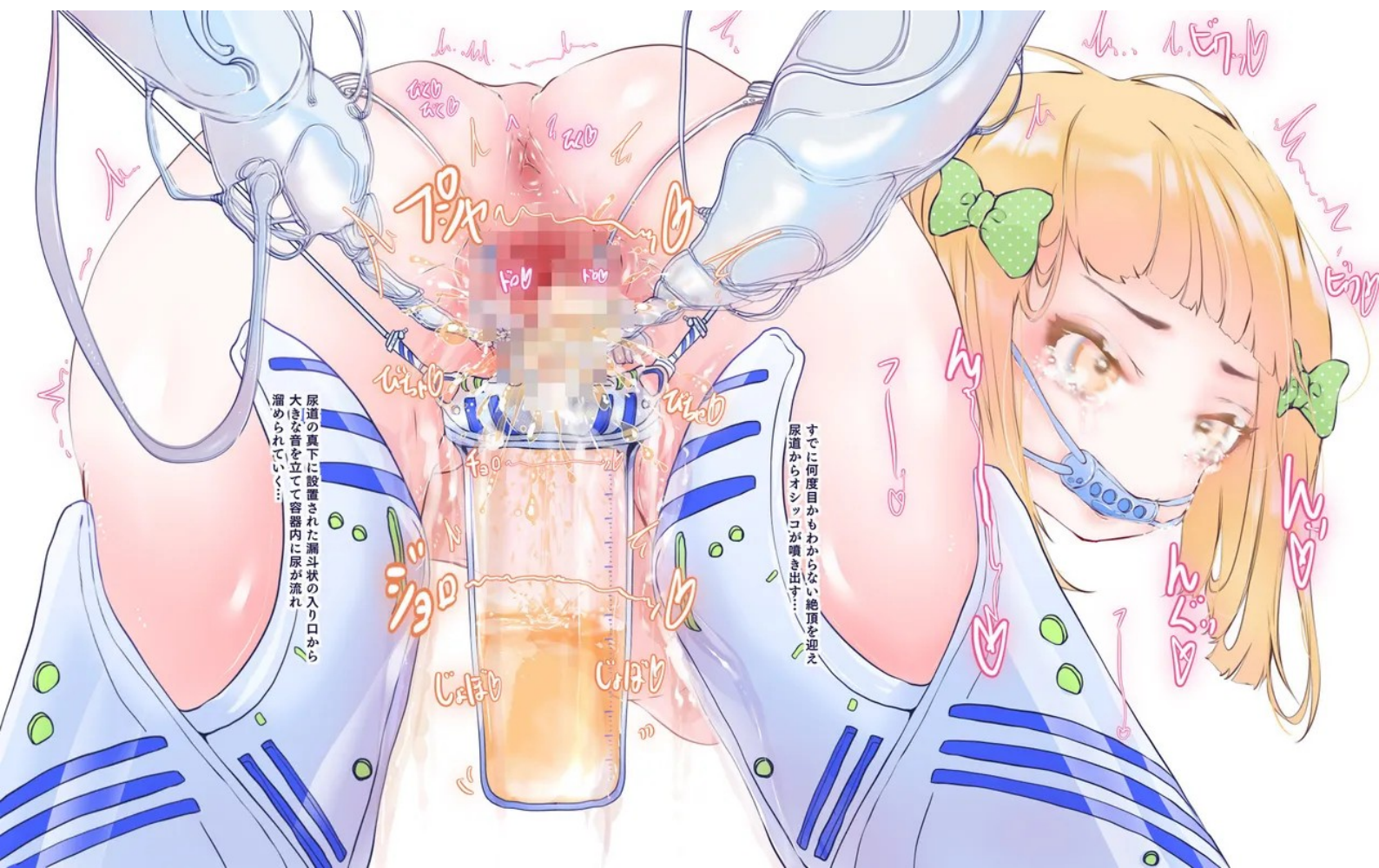




腫口から溢れ出した液体や
勢いが強すぎて容器に入らなかった尿で
股の周囲は濡れそぼっている

最初の失禁以来
少女は休みを与えられることなく
責められ続けていた

実験開始から
1時間が経過した！



尿道の真下に設置された漏斗状の入り口から
大きな音を立てて容器内に尿が流れ
溜められていく...

すでに何度目かもわからない絶頂を迎え
尿道からオシッコが噴き出す...

1:0

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

1:00

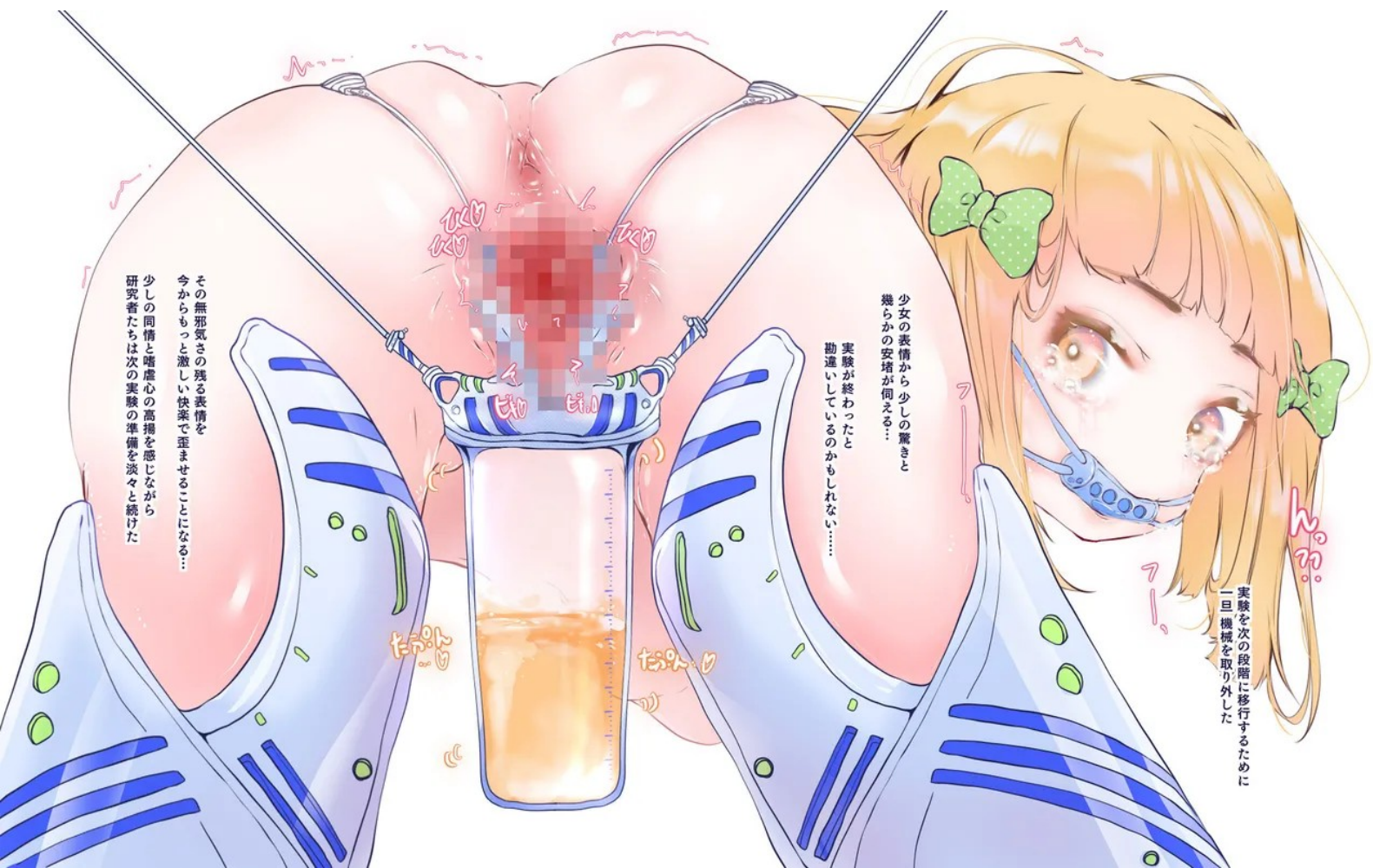
1:00

1:00

1:00

1:00

1:00



その無邪気さの残る表情を
今からもっと激しい快楽で歪ませることになる…
少しの同情と暗虚心の高揚を感じながら
研究者たちは次の実験の準備を淡々と続けた

少女の表情から少しの驚きと
幾らかの安堵が伺える…
実験が終わったと
勘違いしているのかもしれない…

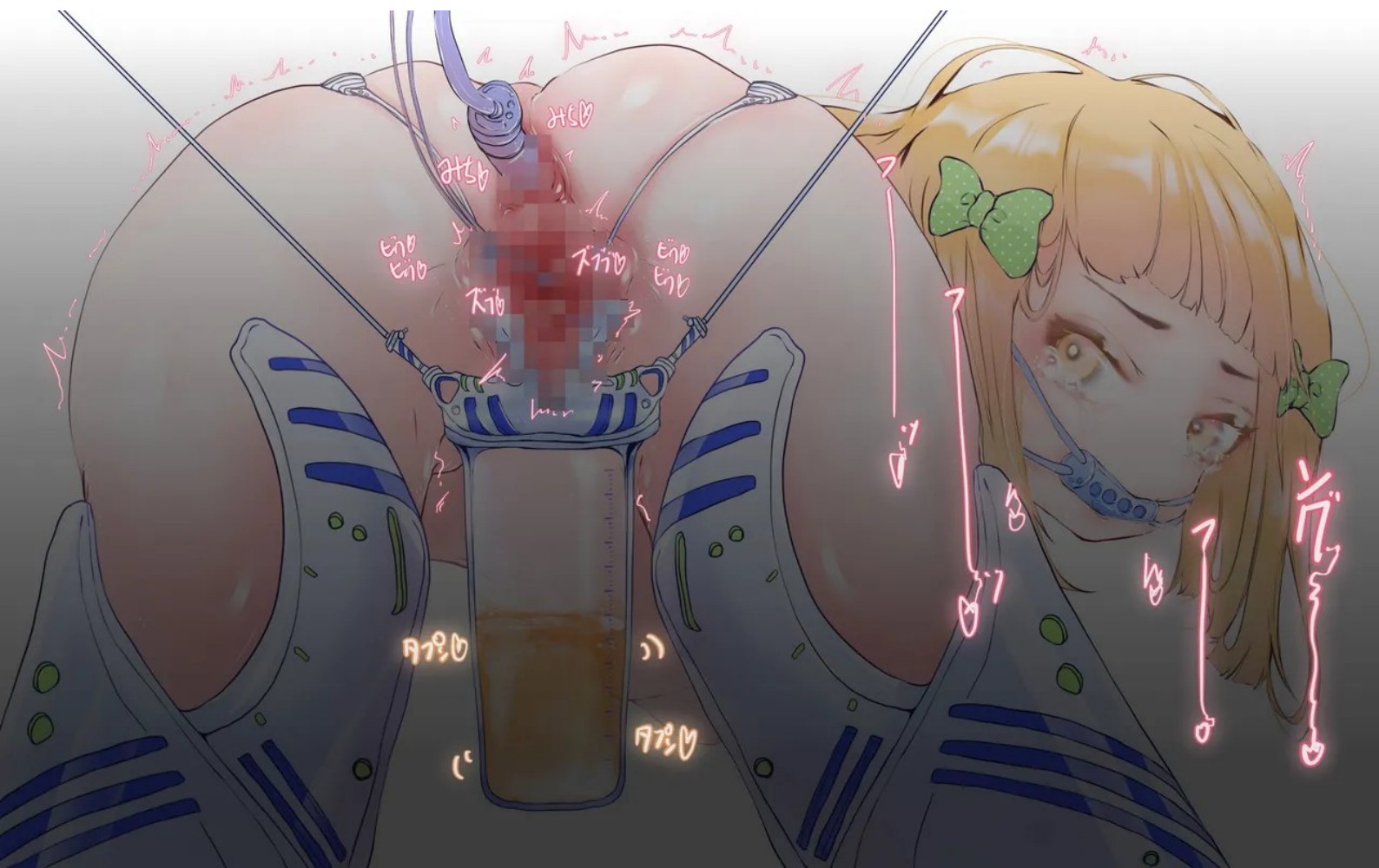
実験を次の段階に移行するために
一旦機械を取り外した

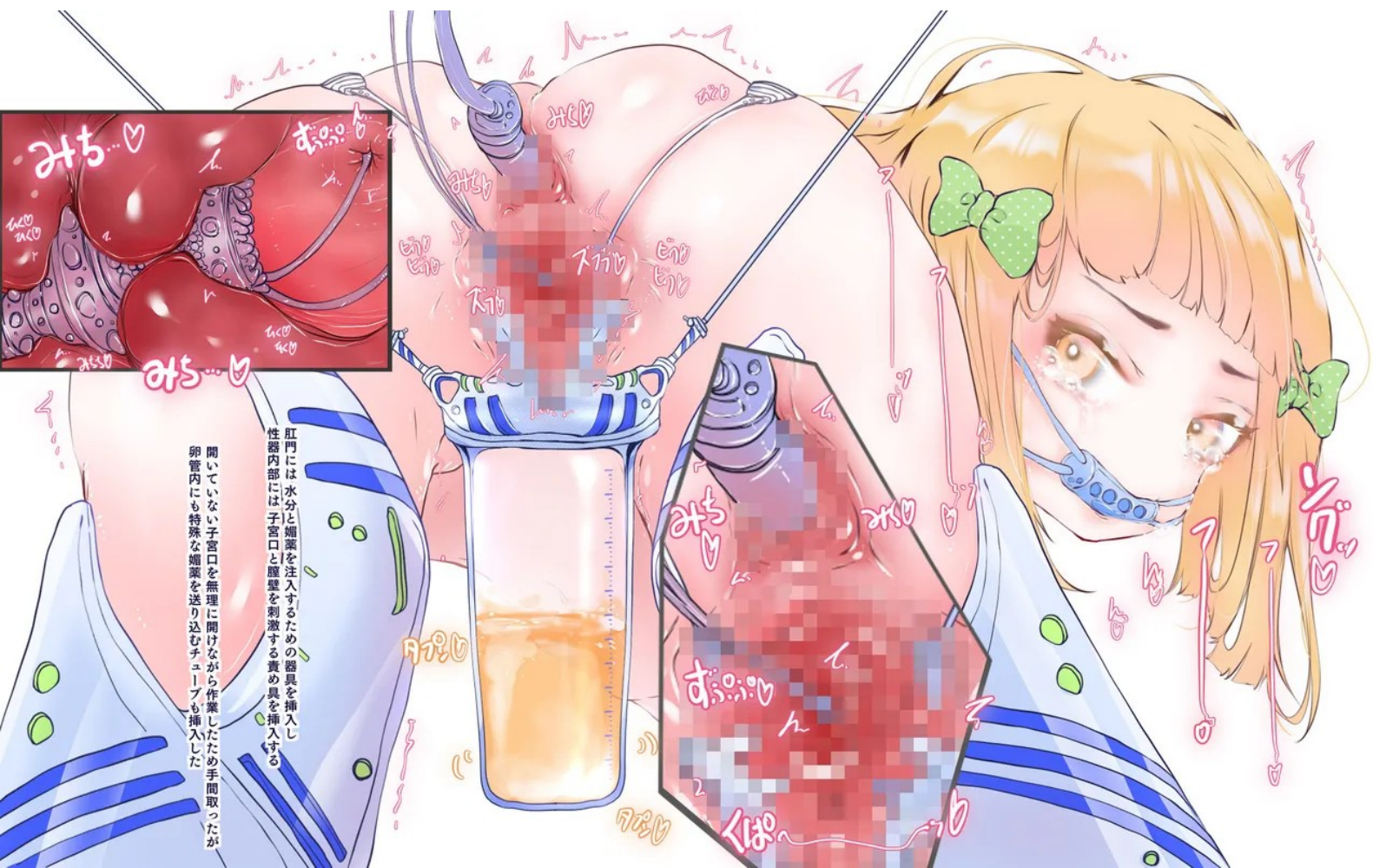
ん？

？！

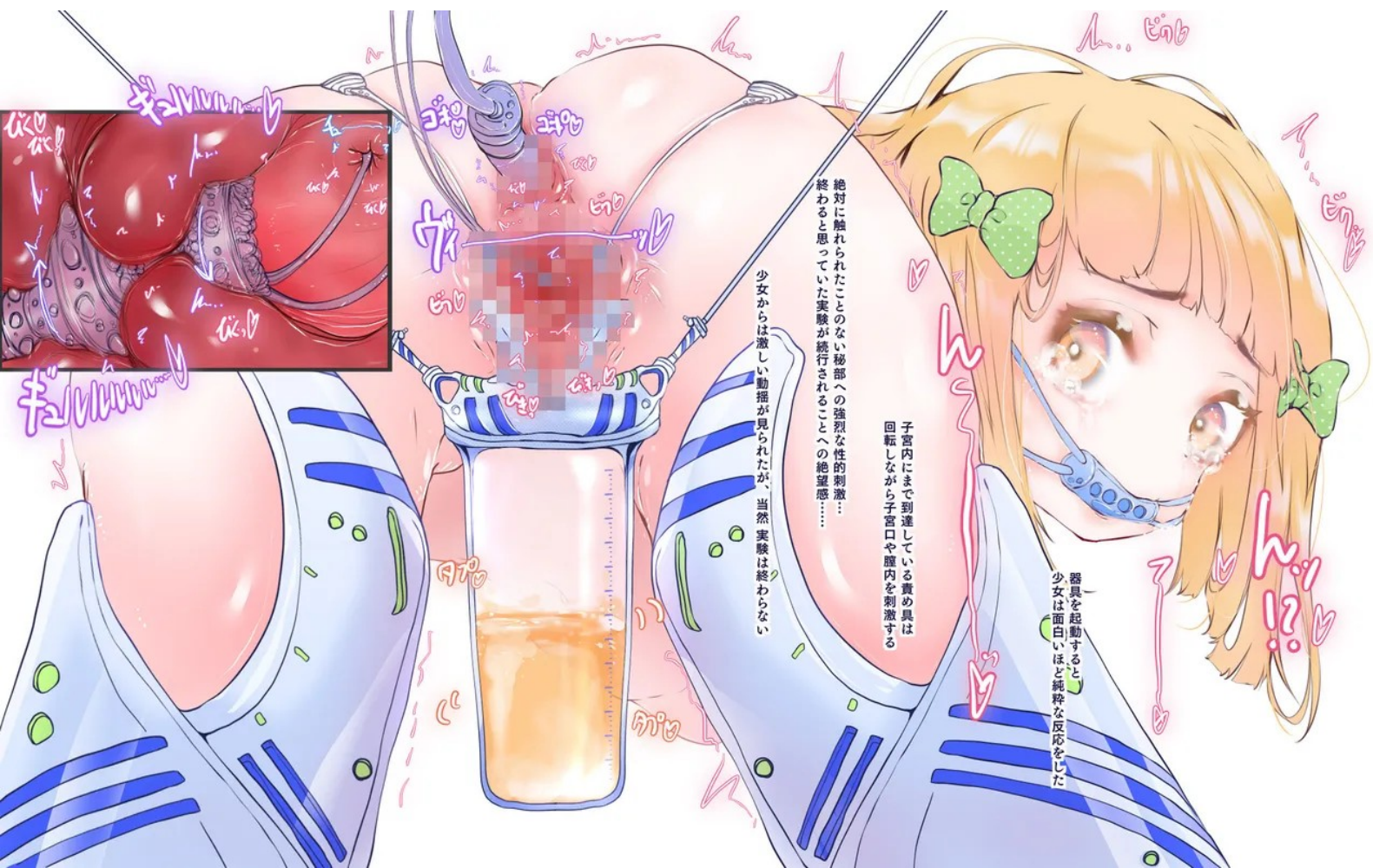
たぷん

たぷん





肛門には水分と媚薬を注入するための器具を挿入し
性器内部には子宮口と膣壁を刺激する責め具を挿入する
開いていない子宮口を無理に開けながら作業したため手間取ったが
卵管内にも特殊な媚薬を送り込むチューブも挿入した



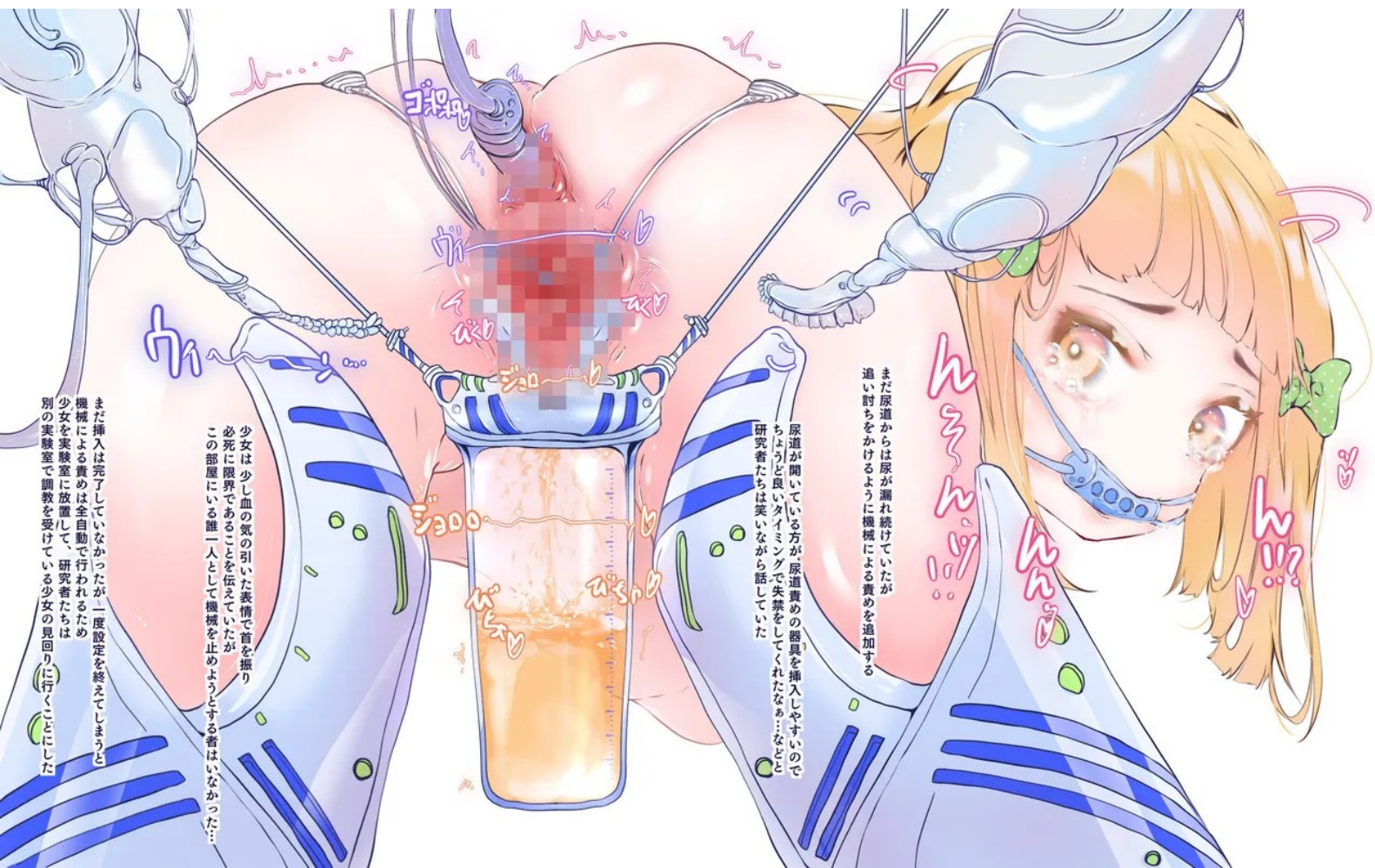
絶対に触られたことのない秘部への強烈な性的刺激…
終わると思っていた実験が続行されることへの絶望感…

少女からは激しい動揺が見られたが、当然実験は終わらない

子宮内にもまで到達している責め具は
回転しながら子宮口や膣内を刺激する

器具を起動すると
少女は面白いほど純粋な反応をした





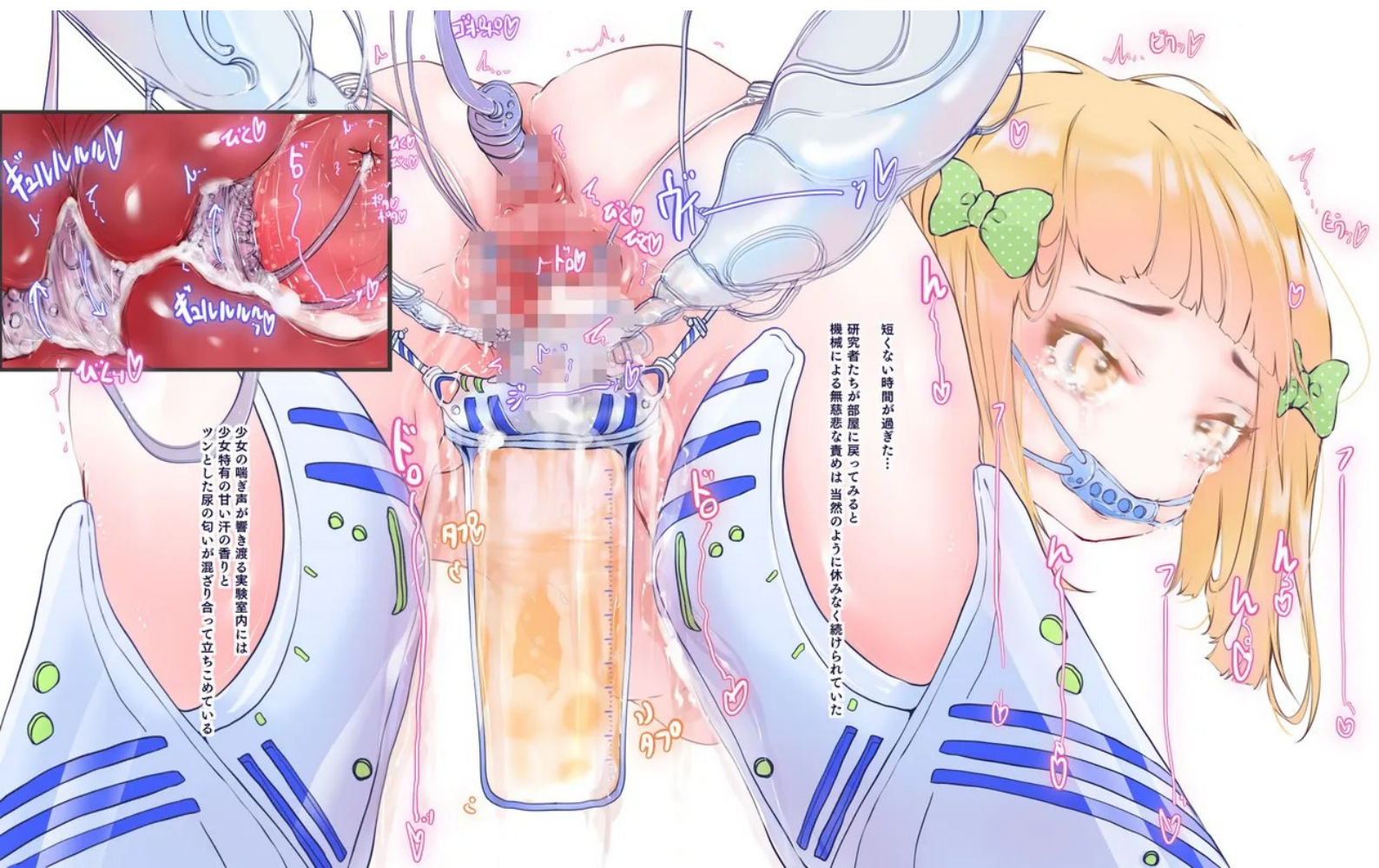
まだ尿道からは尿が漏れ続けていたが
追い討ちをかけるように機械による責めを追加する

尿道が開いている方が尿道責めの器具を挿入しやすいので
ちよつと良いタイミングで失禁をしてくれたなあ...などと
研究者たちは笑いながら話していた

少女は少し血の気の引いた表情で首を振り
必死に限界であることを伝えていたが
この部屋にいる誰一人として機械を止めようとする者はいなかった...

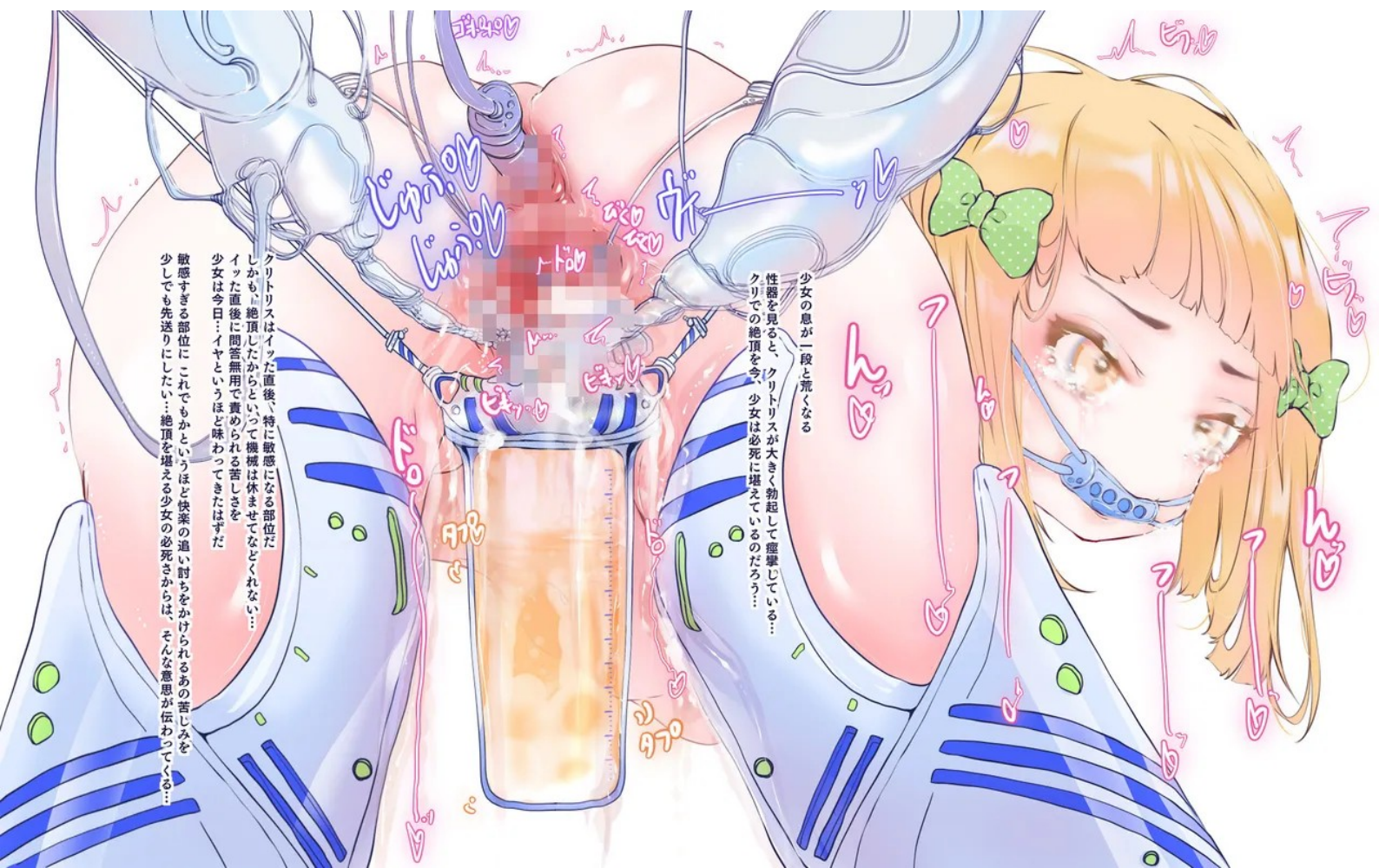
まだ挿入は完了していなかったが一度設定を終えてしまうと
機械による責めは全自動で行われるため
少女を実験室に放置して、研究者たちは
別の実験室で調教を受けている少女の見回りに行くことにした





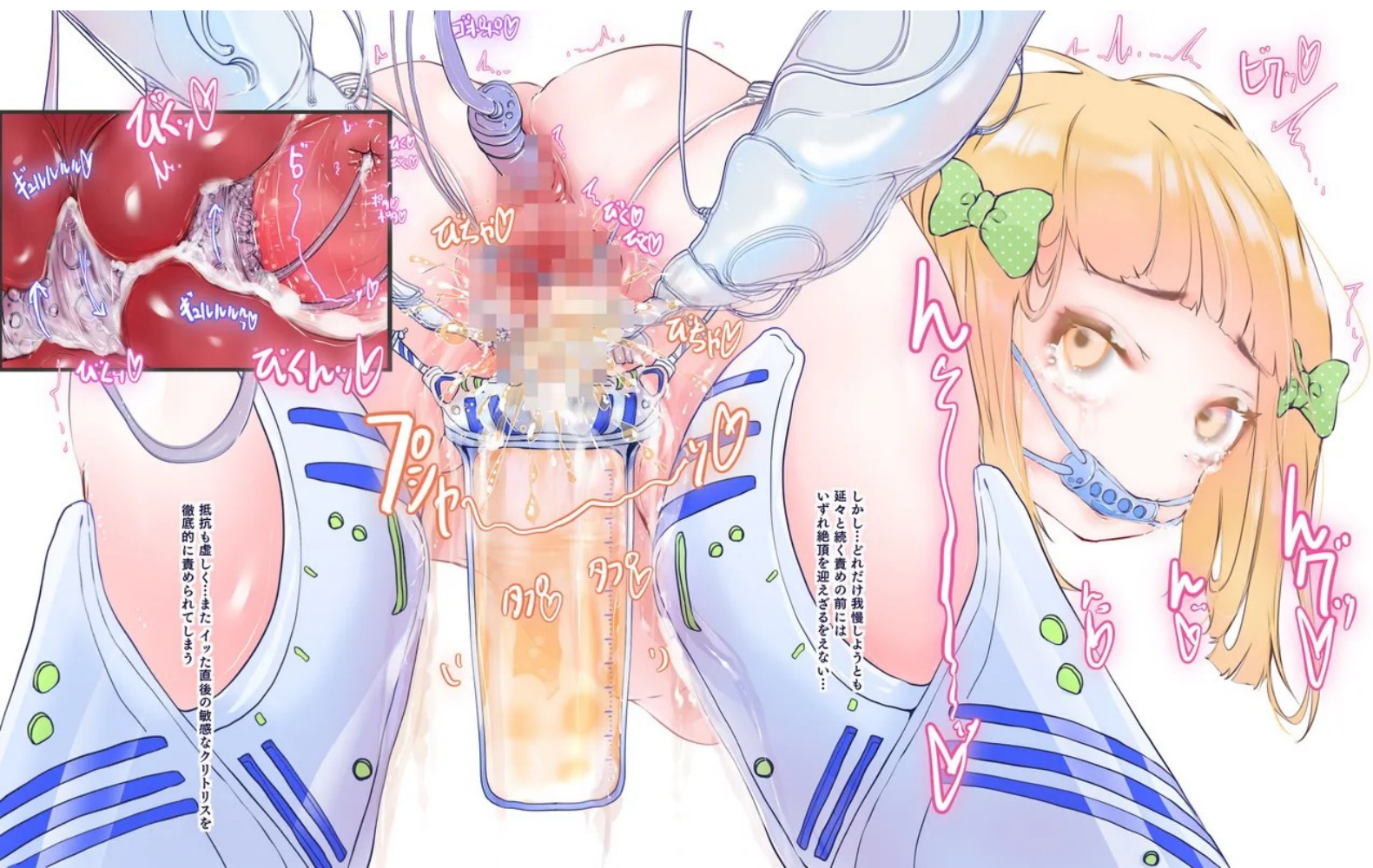
少女の喘ぎ声が響き渡る実験室内には
少女特有の甘い汗の香りと
ツンとした尿の匂いが混ざり合っ立ちまわっている

短くない時間が過ぎた！
研究者たちが部屋に戻ってみると
機械による無慈悲な責めは当然のように休みなく続けられていた



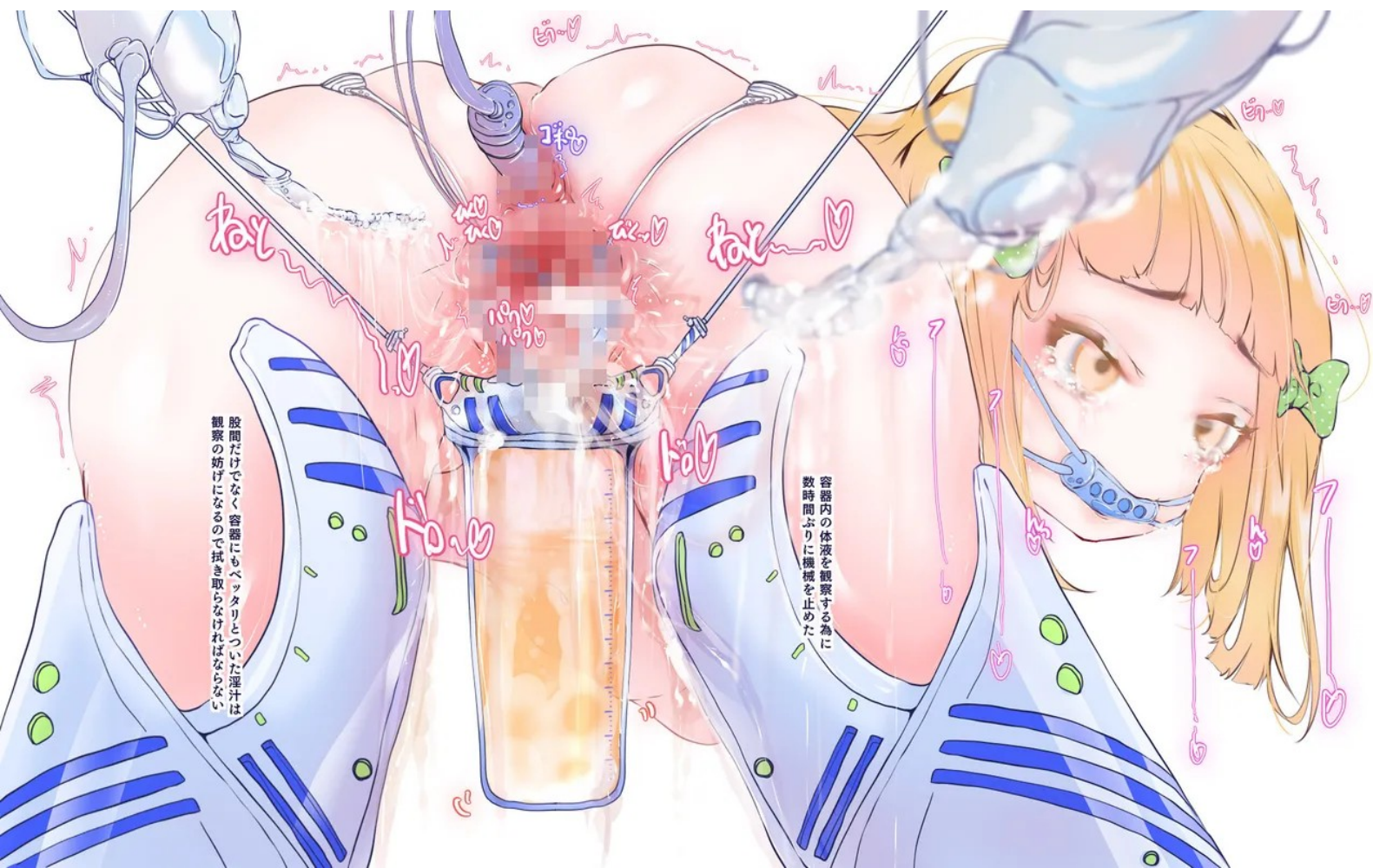
少女の息が一段と荒くなる
性器を見ると、クリトリスが大きく勃起して痙攣している……
クリトリスの絶頂を今、少女は必死に堪えているのだろう……

クリトリスはイッた直後、特に敏感になる部位だ
しかも、絶頂したからといって機械は休ませてなどくれない……
イッた直後に問答無用で責められる苦しさを
少女は今日、イヤというほど味わってきたはずだ
敏感すぎる部位に、これでもかというほど快楽の追い討ちをかけられるあの苦しみを
少しでも先送りにしたい……絶頂を堪える少女の必死さからは、そんな意思が伝わってくる……



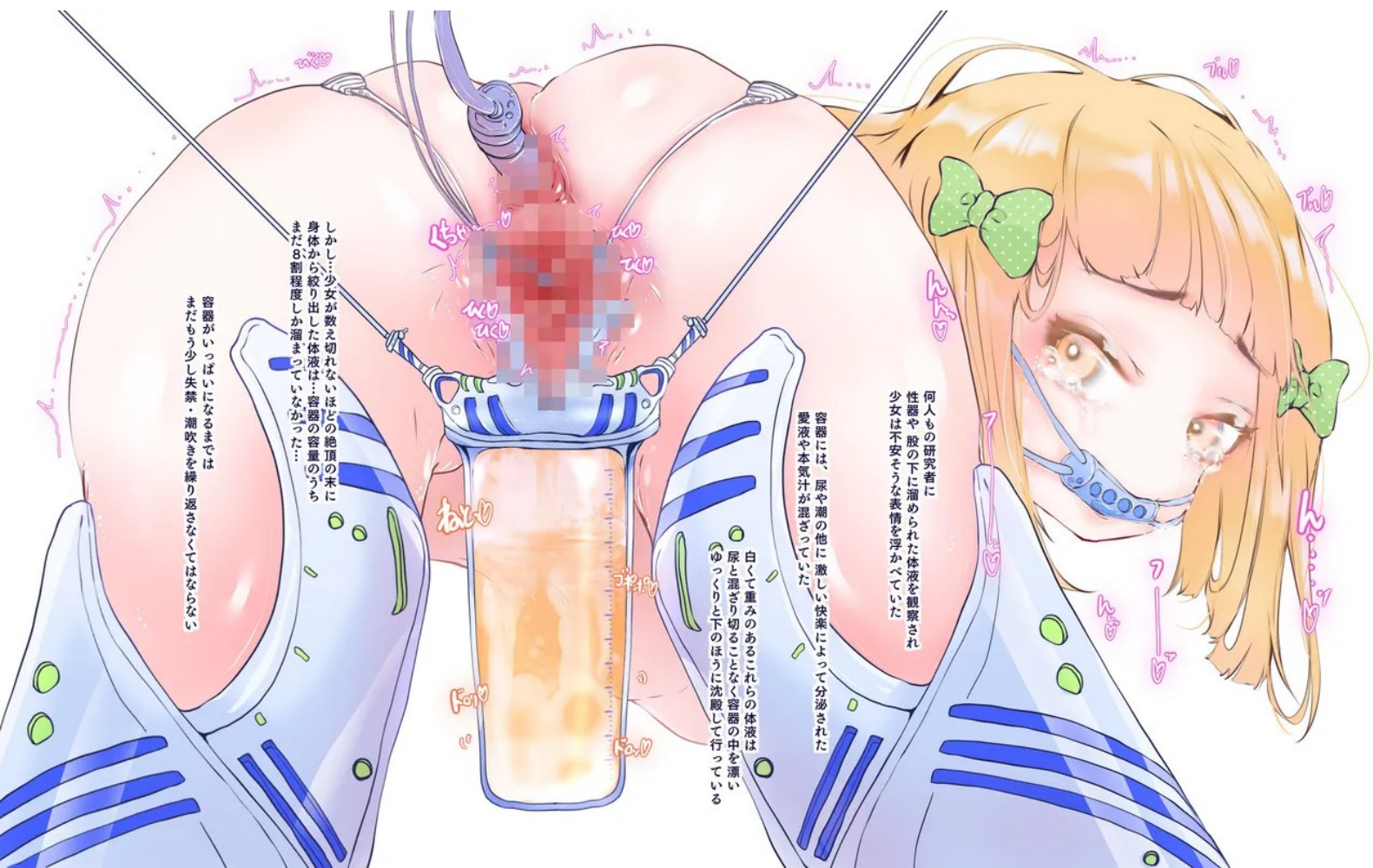
抵抗も虚しく、またイッた直後の敏感なクリトリスを徹底的に責められてしまう

しかし、とれただけ我慢しようとも延々と続く責めの前には、いずれ絶頂を迎えざるをえない...



股間だけでなく容器にもベタリついた淫汁は
観察の妨げになるので拭き取らなければならぬ

容器内の体液を観察する為に
数時間ふりに機械を止めた



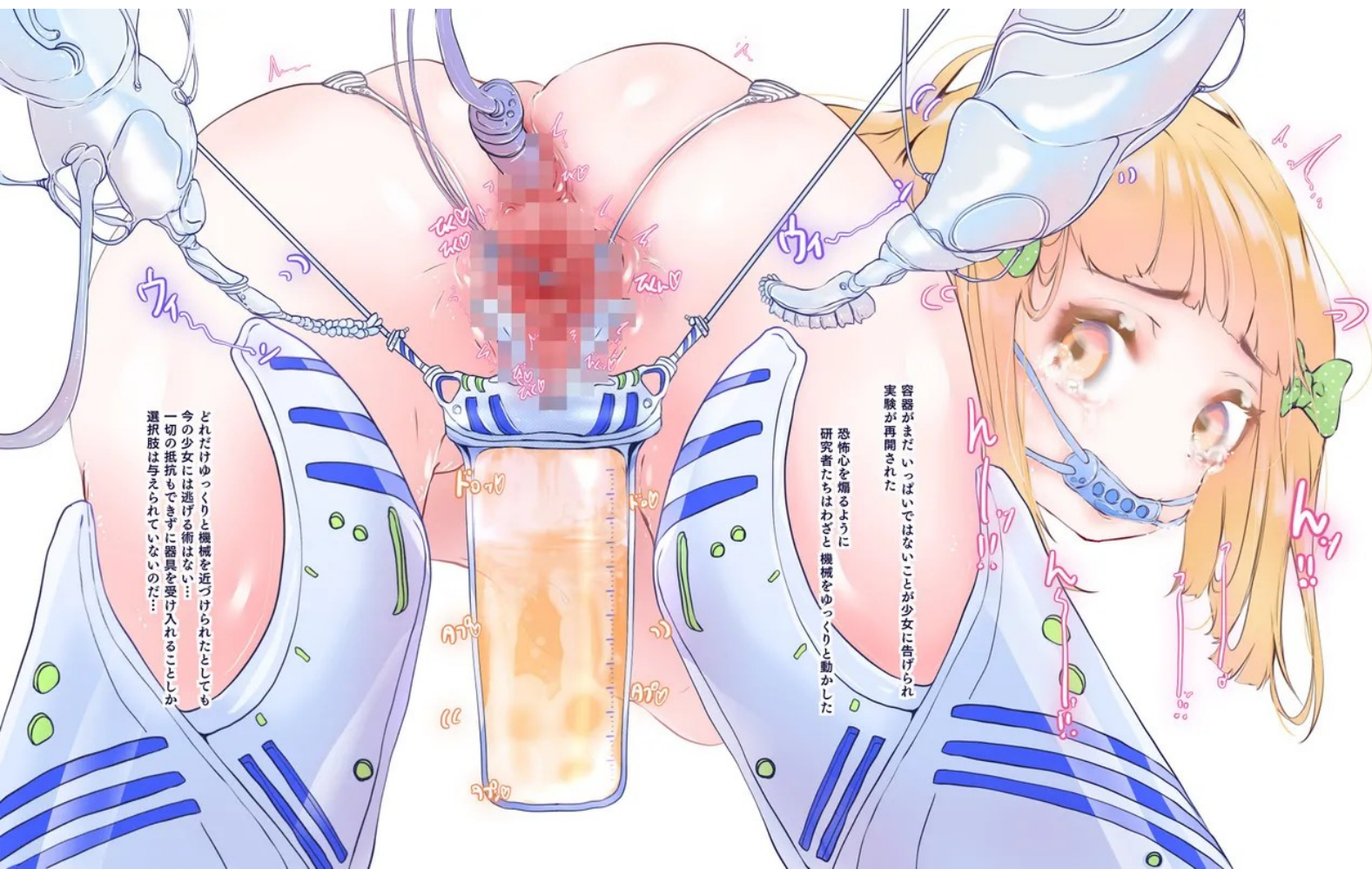
何人もの研究者に
性器や股の下に溜められた体液を観察され
少女は不安そうな表情を浮かべていた

容器には、尿や漏の他に激しい快感によって分泌された
愛液や本気汁が混ざっていた

白くて重みのあるこれらの体液は
尿と混ざり切ることなく容器の中を漂い
ゆっくりと下のほうに沈殿して行っている

しかし少女が数え切れないほどの絶頂の末に
身体から絞り出した体液は…容器の容量のうち
まだ8割程度しか溜まっていなかった…

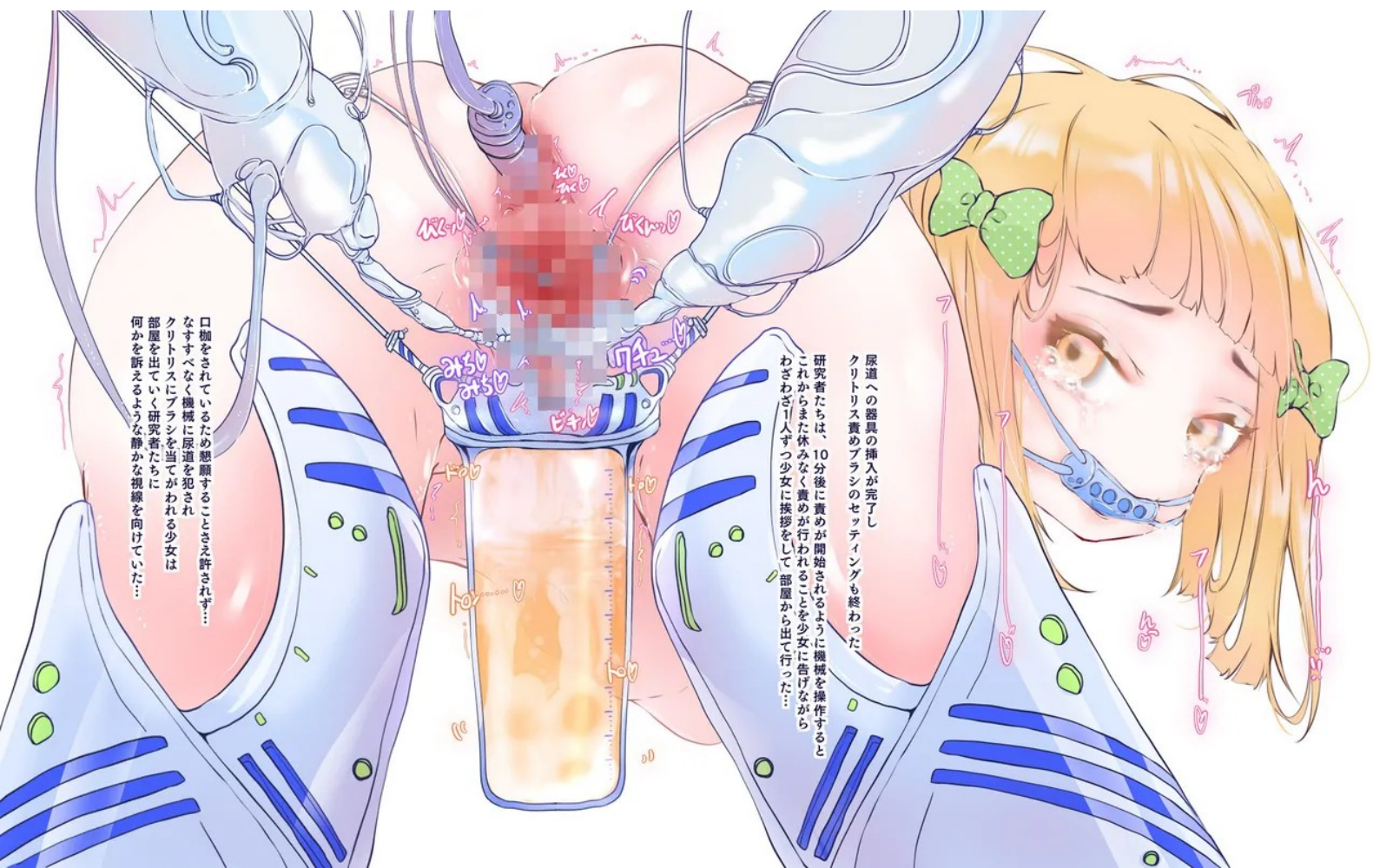
容器がいっぱいになるまでは
まだまだ少し失禁・漏吹きを繰り返さなくてはならない



容器がまだいっぱいではないことが少女に告げられ
実験が再開された

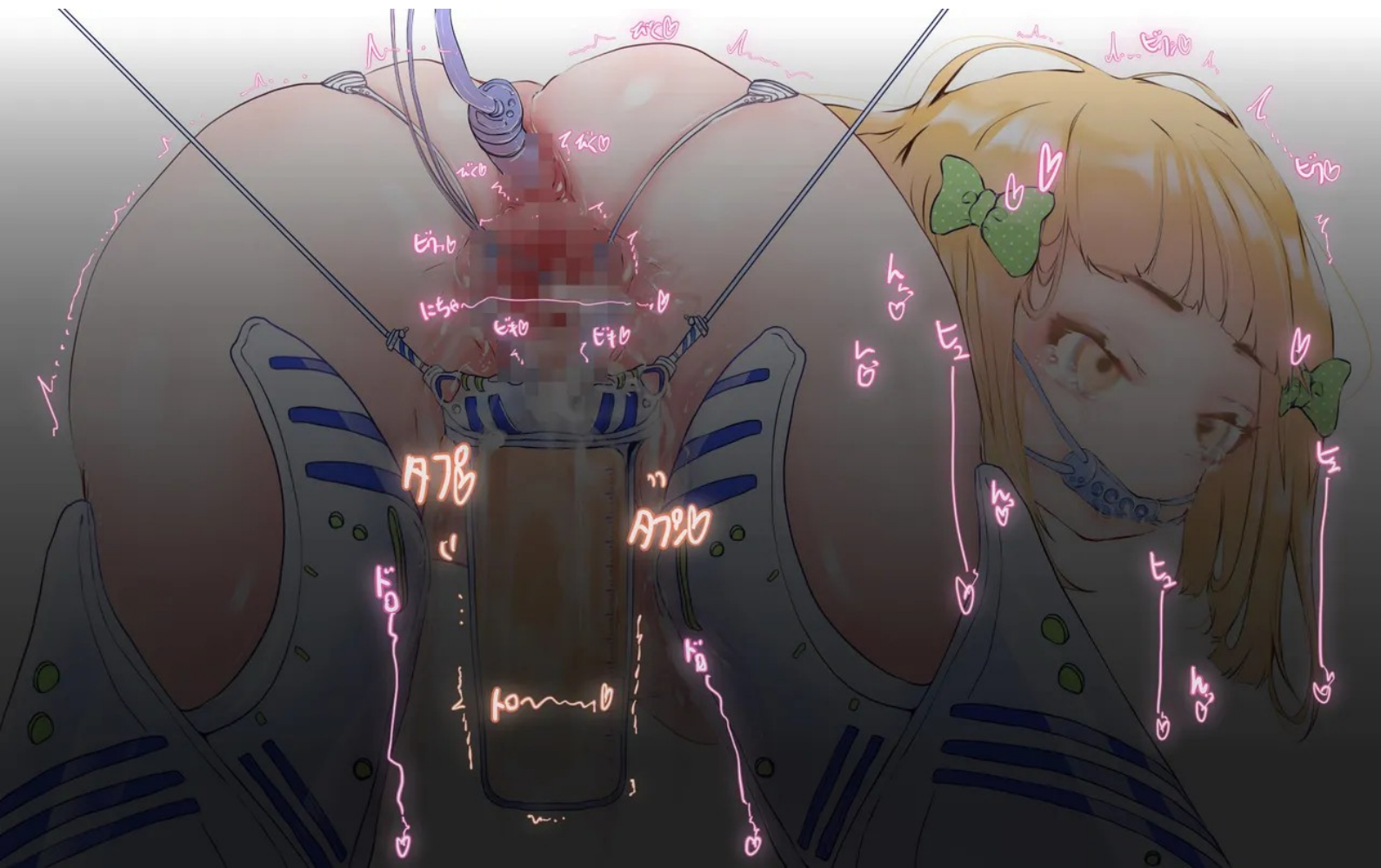
恐怖心を煽るように
研究者たちはわざと機械をゆっくりと動かした

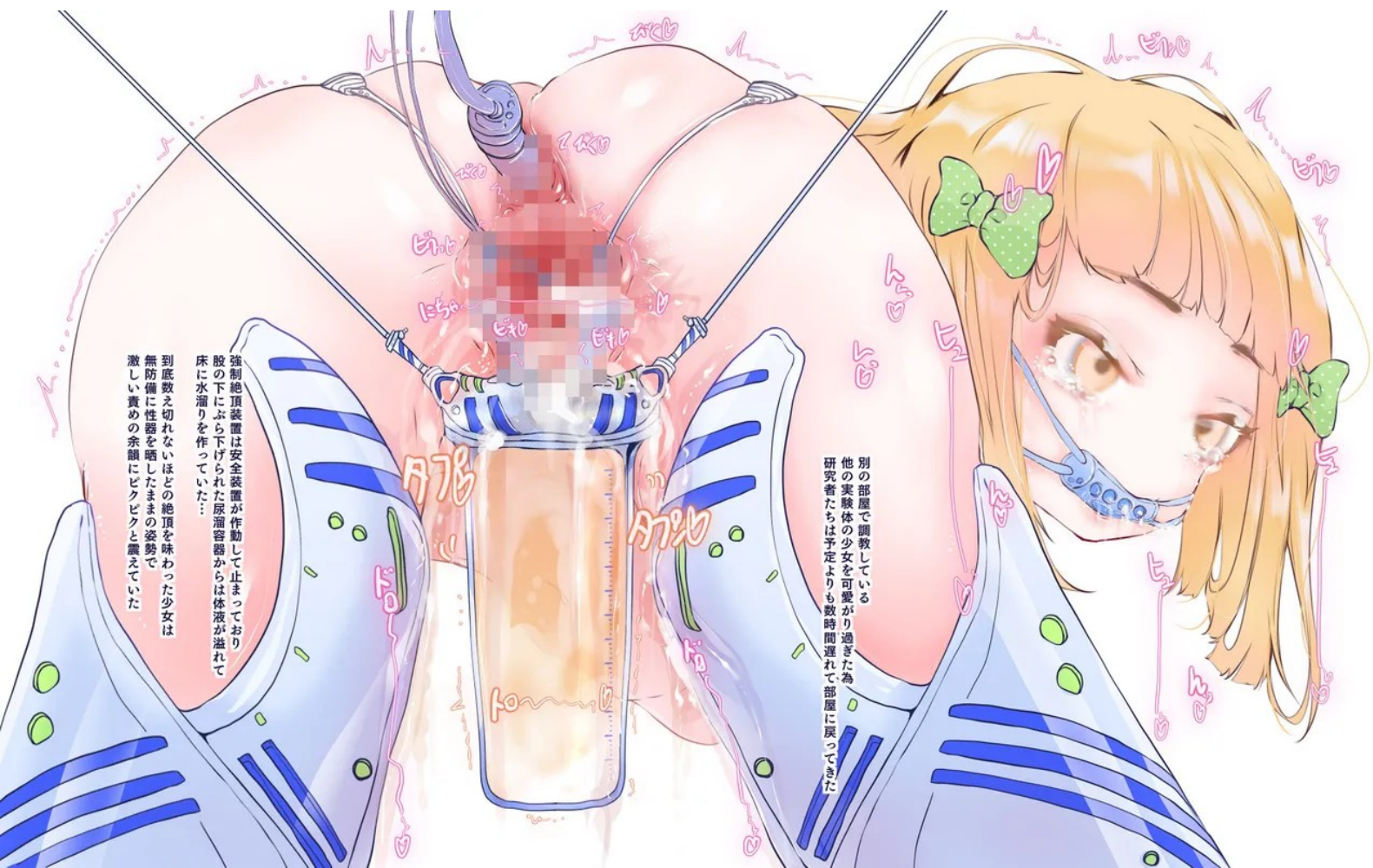
どれだけゆっくりと機械を近づけたとしても
今の少女には逃げる術はない…
一切の抵抗もできずに器具を受け入れることしか
選択肢は与えられていないのだ…



尿道への器具の挿入が完了し
クリトリス貫めブラシのセッティングも終わった
研究者たちは、10分後に貫めが開始されるように機械を操作すると
これからまた休みなく貫めが行われることを少女に告げながら
わざわざ1人ずつ少女に接吻をして部屋から出て行った...

口枷をされているため懇願することさえ許されず...
なすすべなく機械に尿道を犯され
クリトリスにブラシを当てがわれる少女は
部屋を出ていく研究者たちに
何かを訴えるような静かな視線を向けていた...

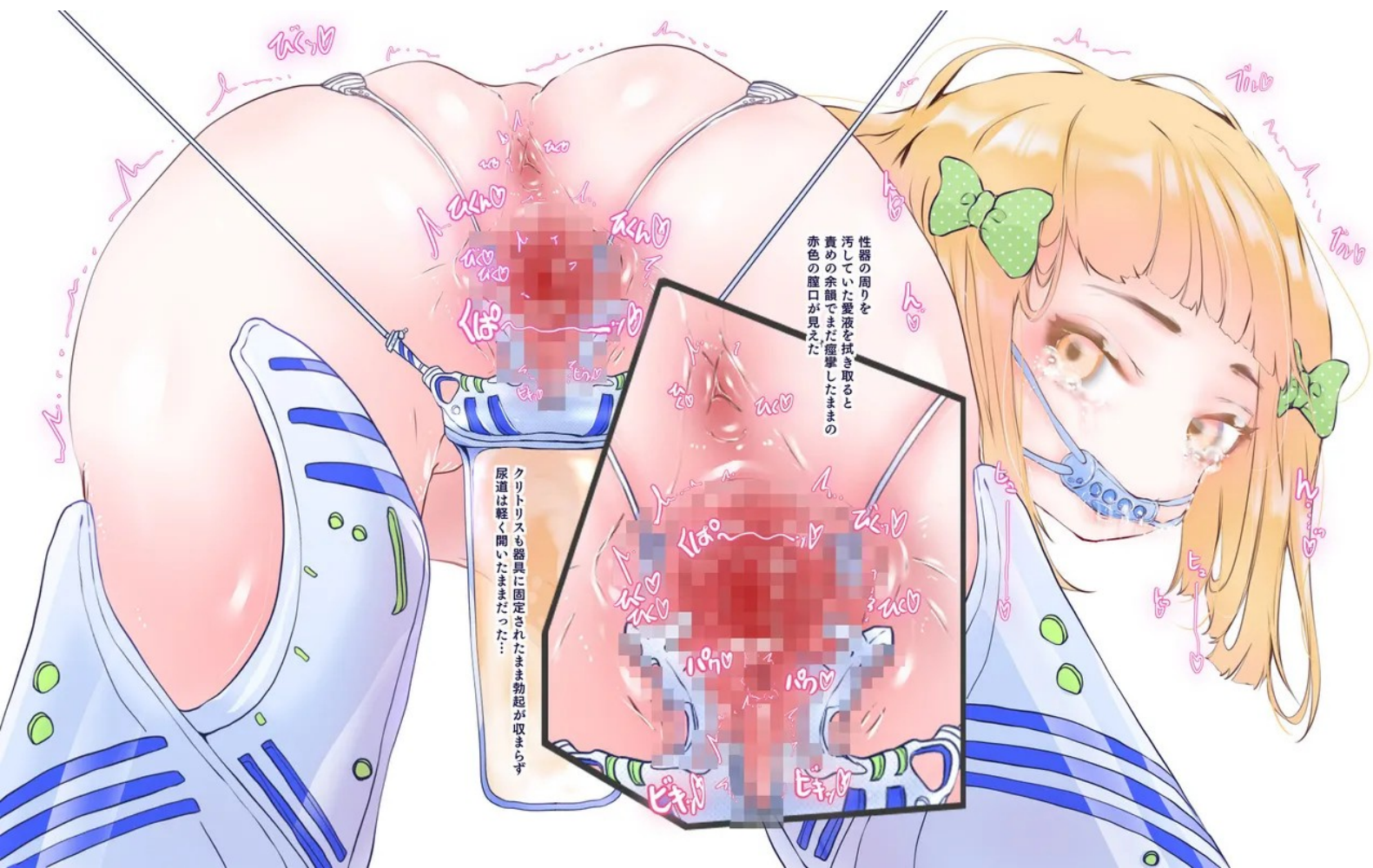




強制絶頂装置は安全装置が作動して止まっており
股の下にぶら下げられた尿溜容器からは体液が溢れて
床に水溜りを作っていた！

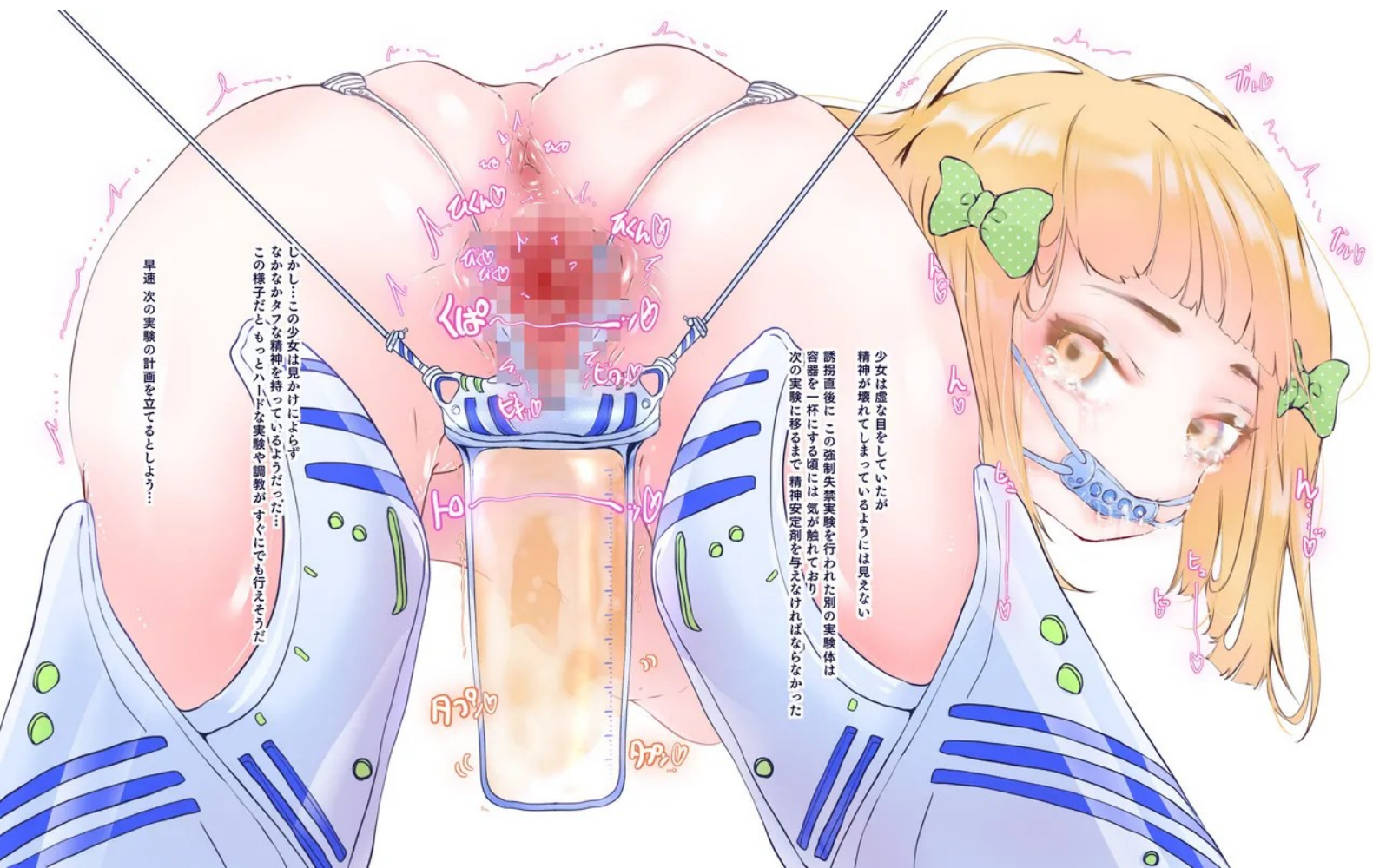
到底数え切れないほどの絶頂を味わった少女は
無防備に性を晒したままの姿勢で
激しい責めの余韻にビクビクと震えていた

別の部屋で調教している
他の実験体の少女を可愛がり過ぎた為
研究者たちは予定よりも長時間遅れて部屋に戻ってきた



性器の周りを汚していた愛液を拭き取ると責めの余韻でまだ痙攣したままの赤色の膣口が見えた

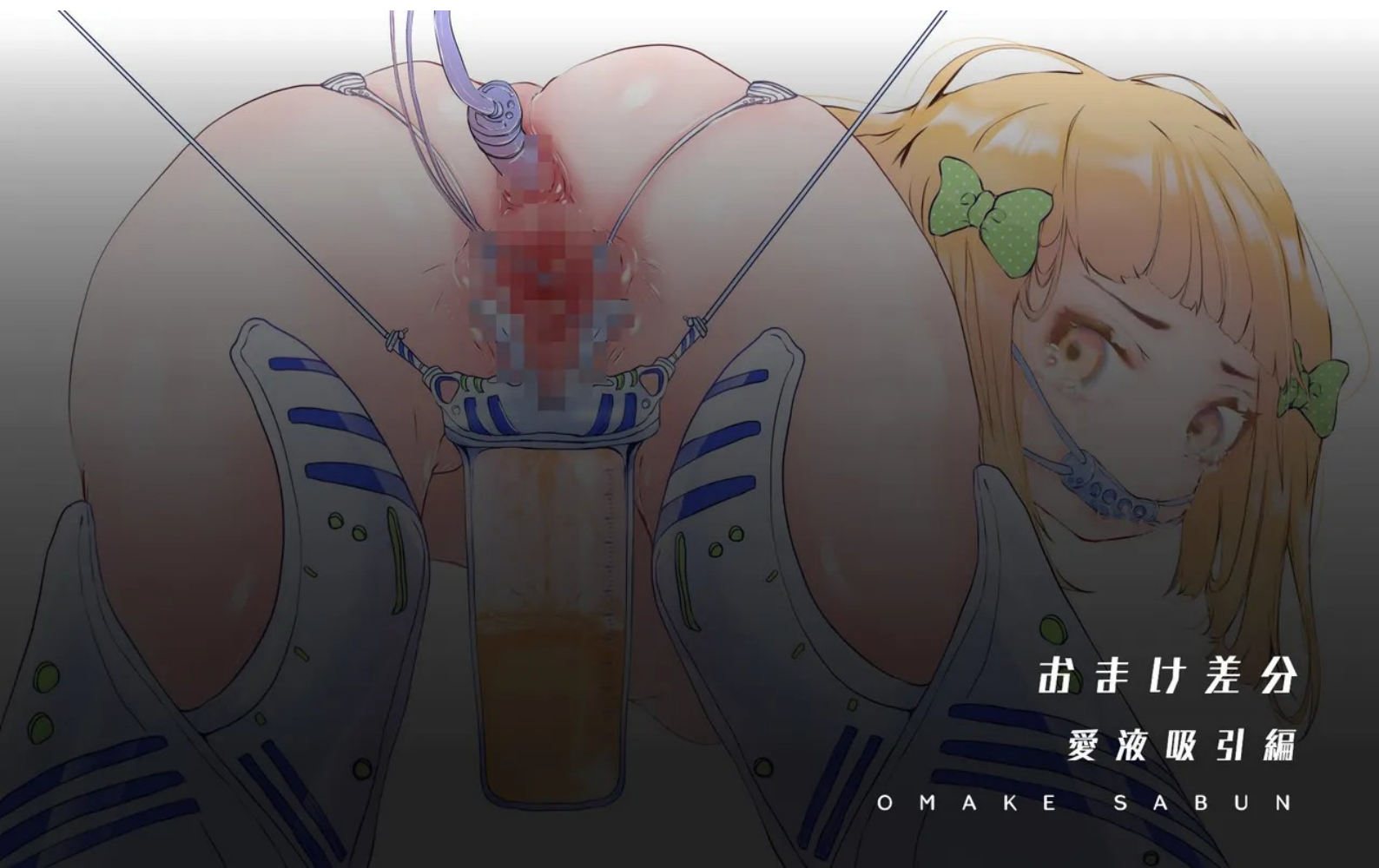
クリトリスも器具に固定されたまま勃起が収まらず尿道は軽く開いたままだった：



早速次の実験の計画を立てるとしよう...

しかし...この少女は見かけによらず
なかなかタフな精神を持っているようだ...
この様子だともっとハードな実験や調教がすぐにでも行えそうだ

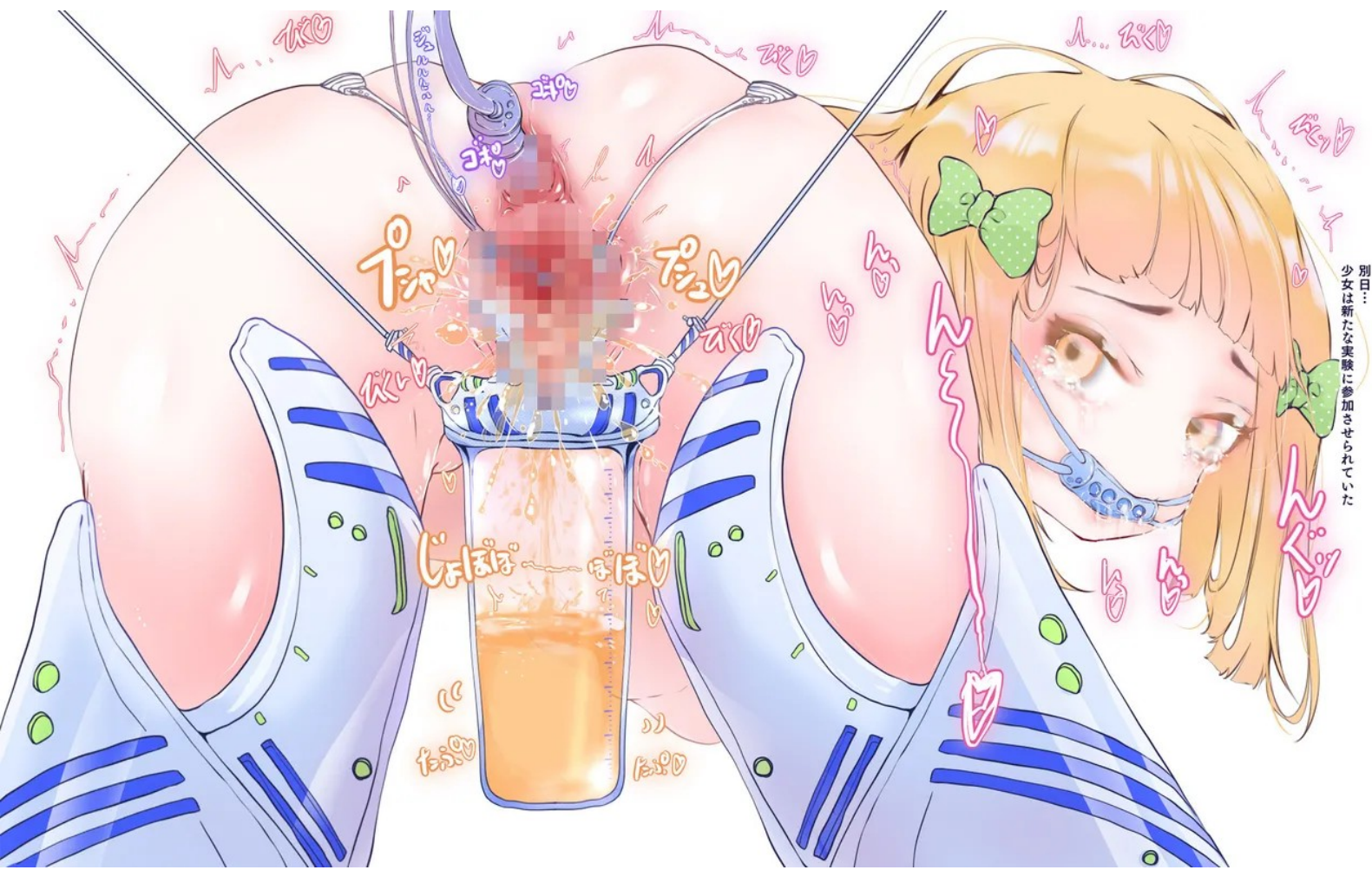
少女は虚な目をしていたが
精神が壊れてしまっているようには見えない
誘拐直後にこの強制実験を行われた別の実験体は
容器を一杯にする頃には気が触れており、
次の実験に移るまで精神安定剤を与えなければならなかった



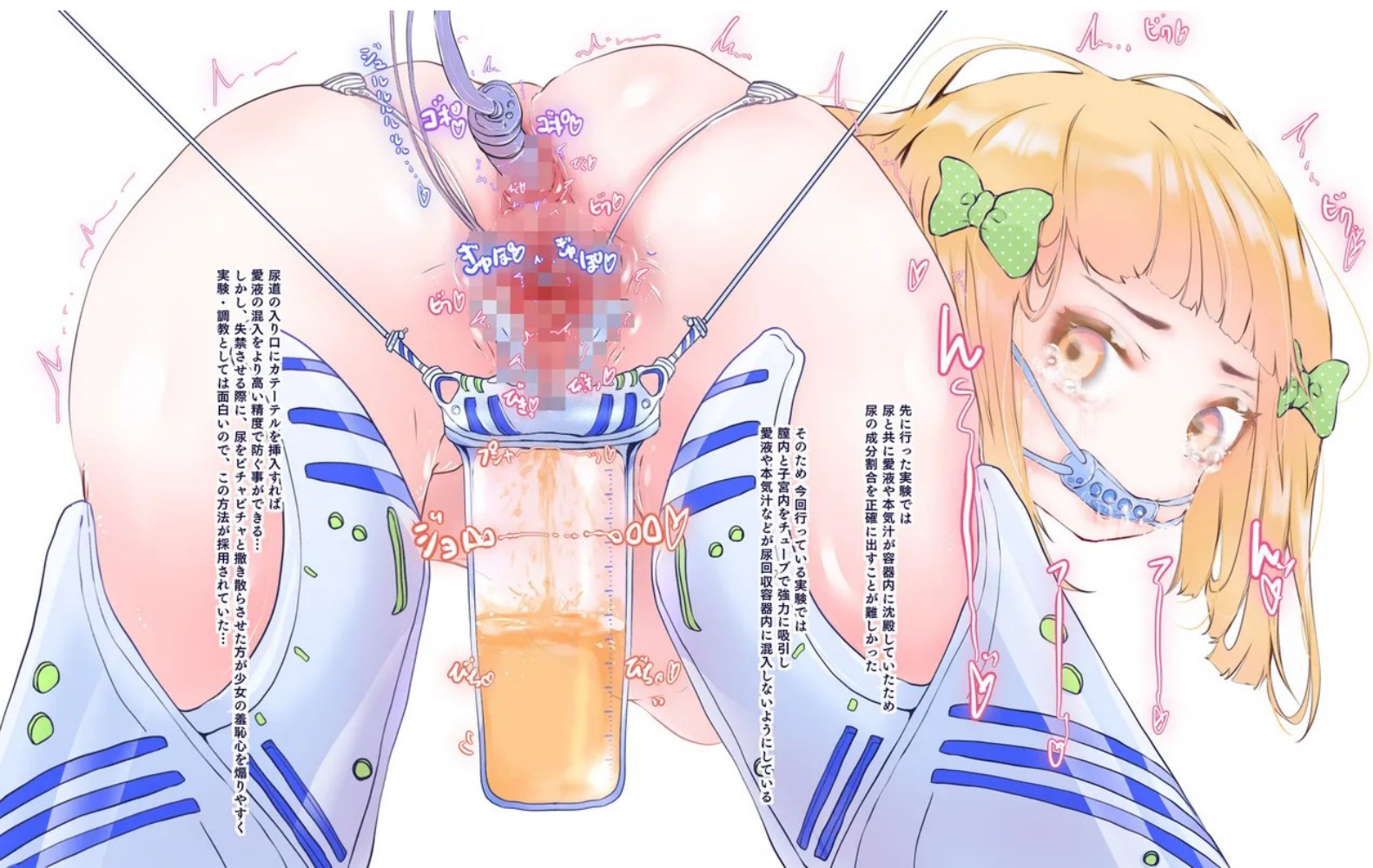
おまけ差分

愛液吸引編

O M A K E S A B U N



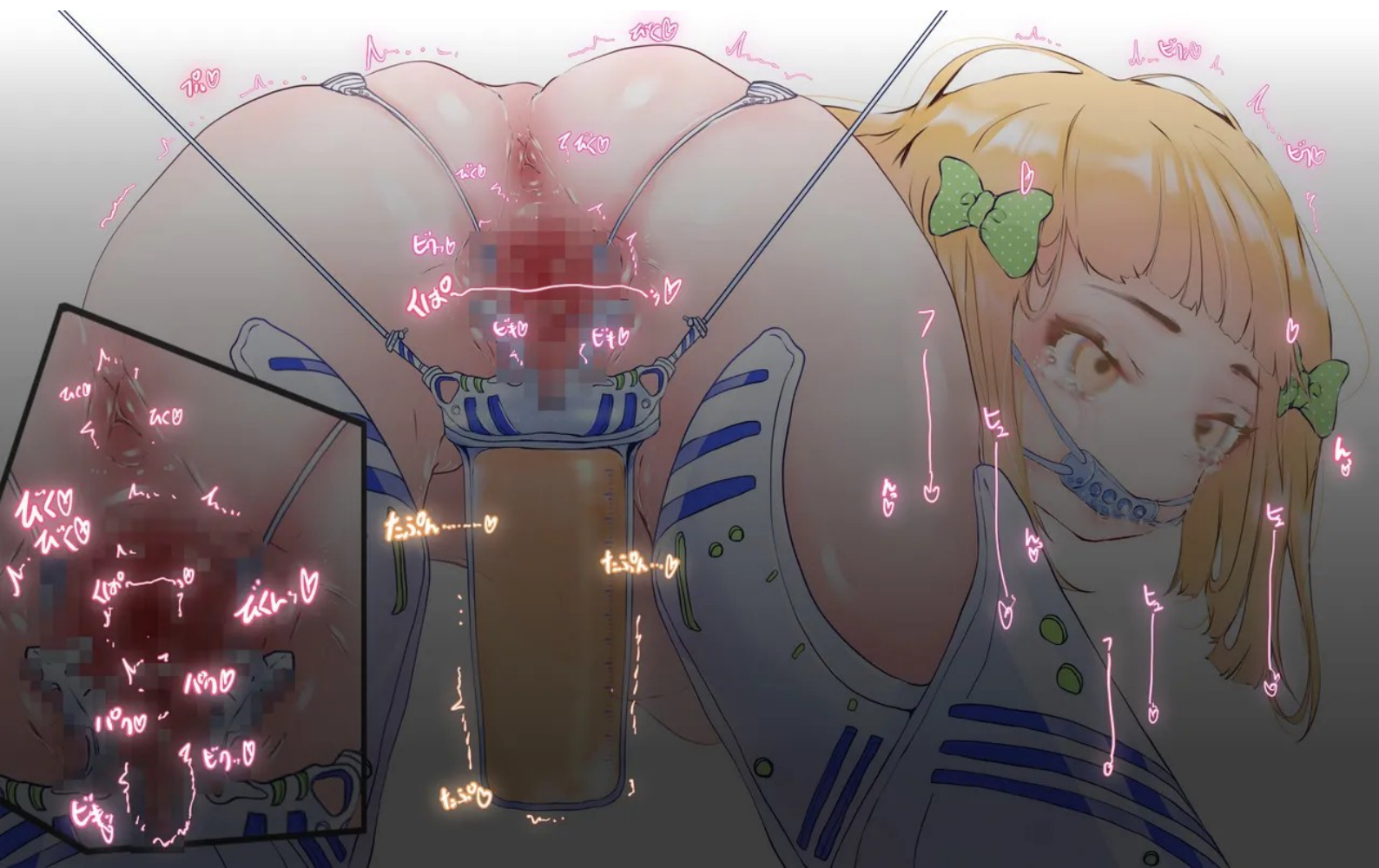
別日:
少女は新たな実験に参加させられていた



尿道の入り口にカテーテルを挿入すれば
尿の混入をより高い精度で防ぐ事ができる...
しかし、失禁させる際に、尿をビチャビチャと撒き散らさせた方が少女の羞恥心を煽りやすく
実験・調教としては面白いので、この方法が採用されていた...

先に行った実験では
尿と共に愛液や本気汁が容器内に沈殿していたため
尿の成分割合を正確に出すことが難しかった

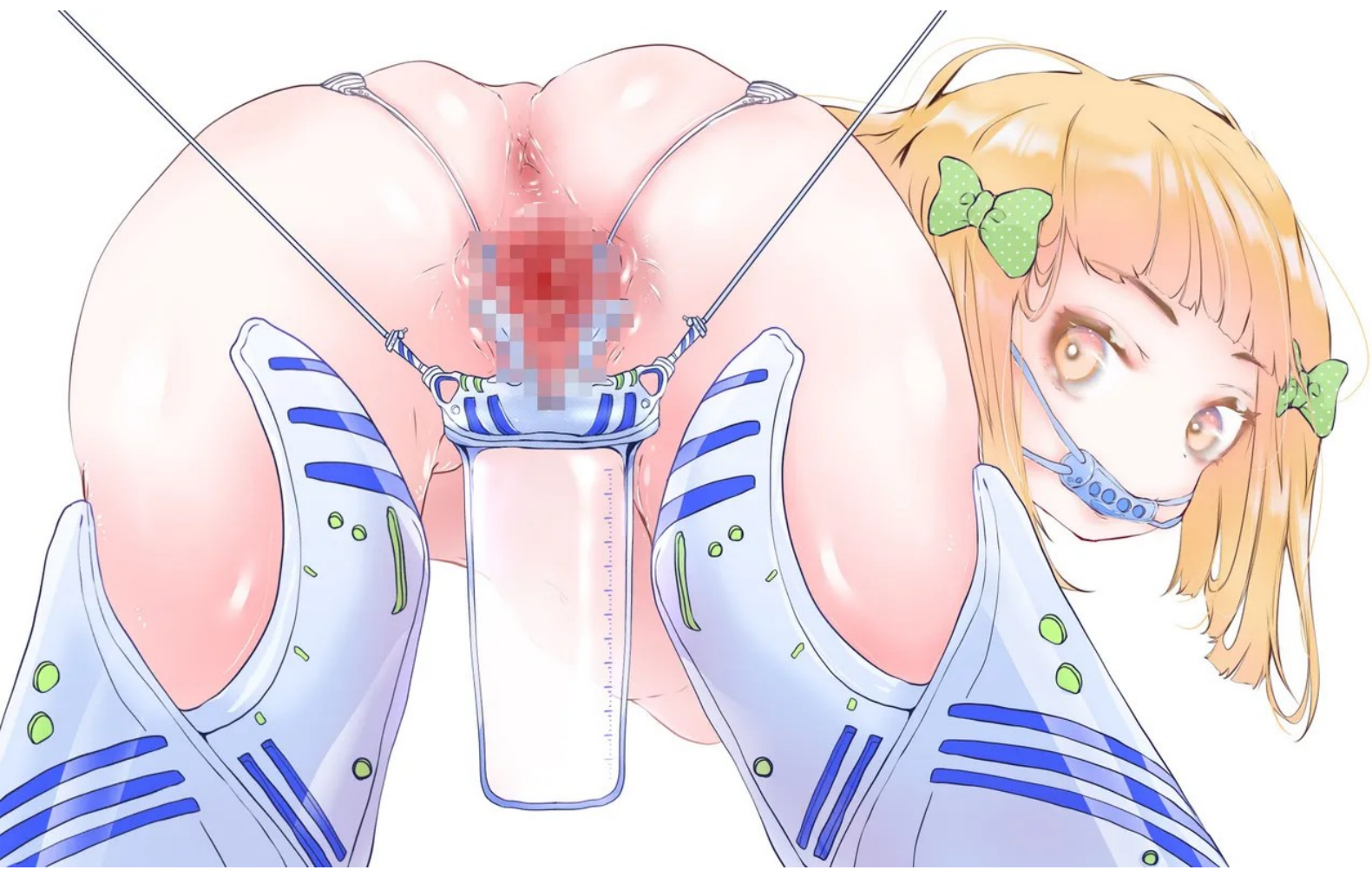
そのため今行っている実験では
膈内と子宮内をチューブで強力に吸引し
愛液や本気汁などが尿回収容器内に混入しないようにしている

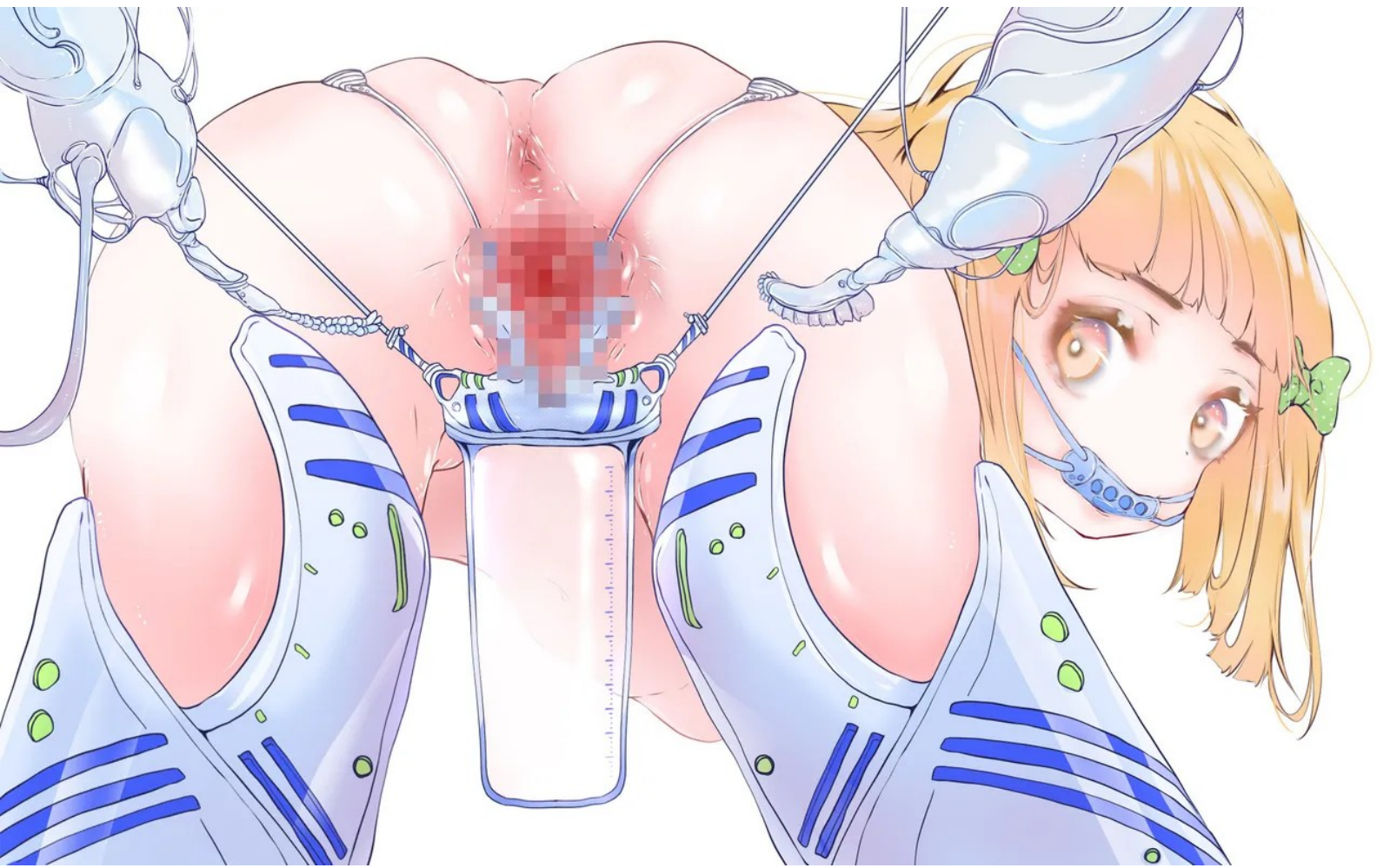


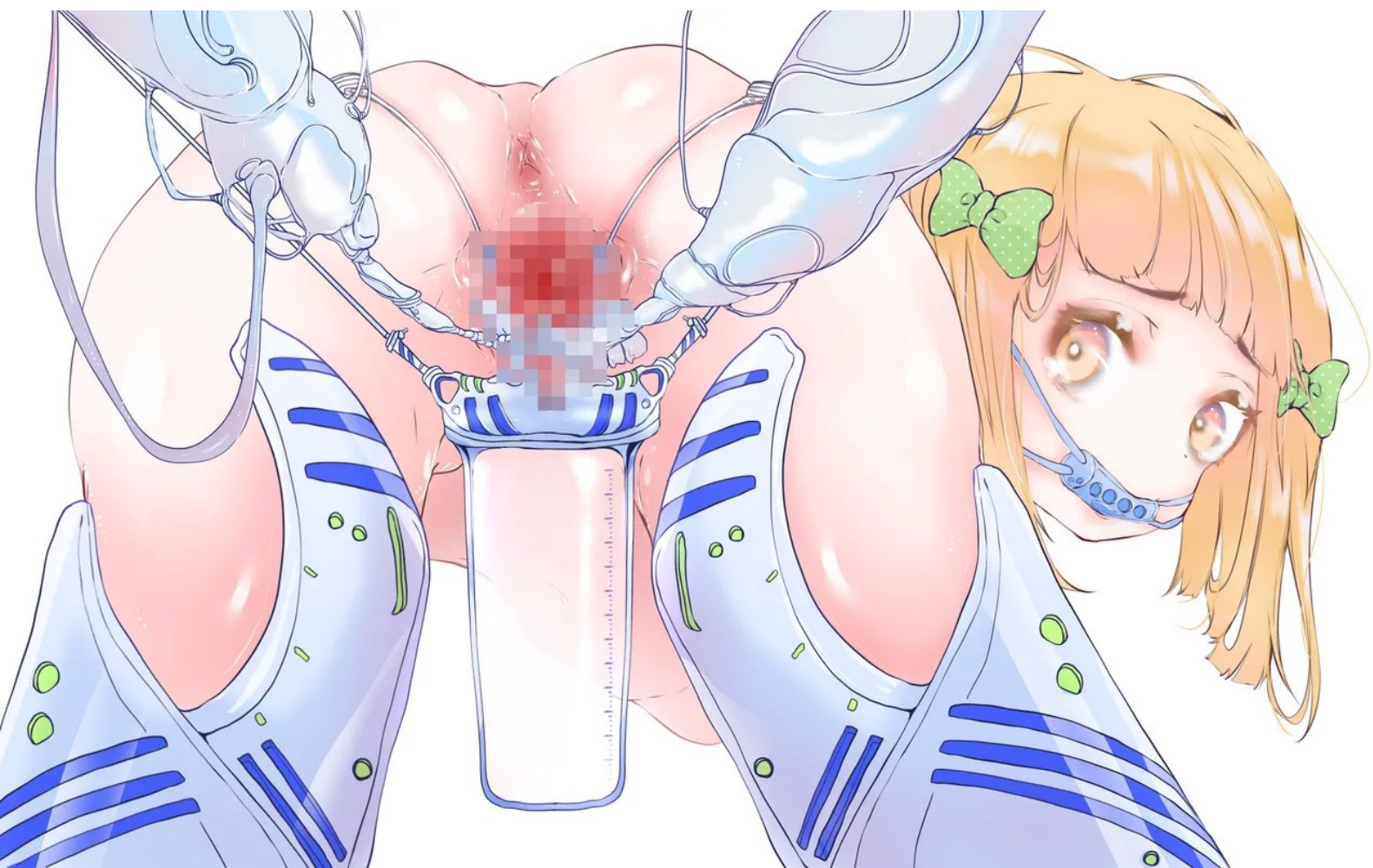


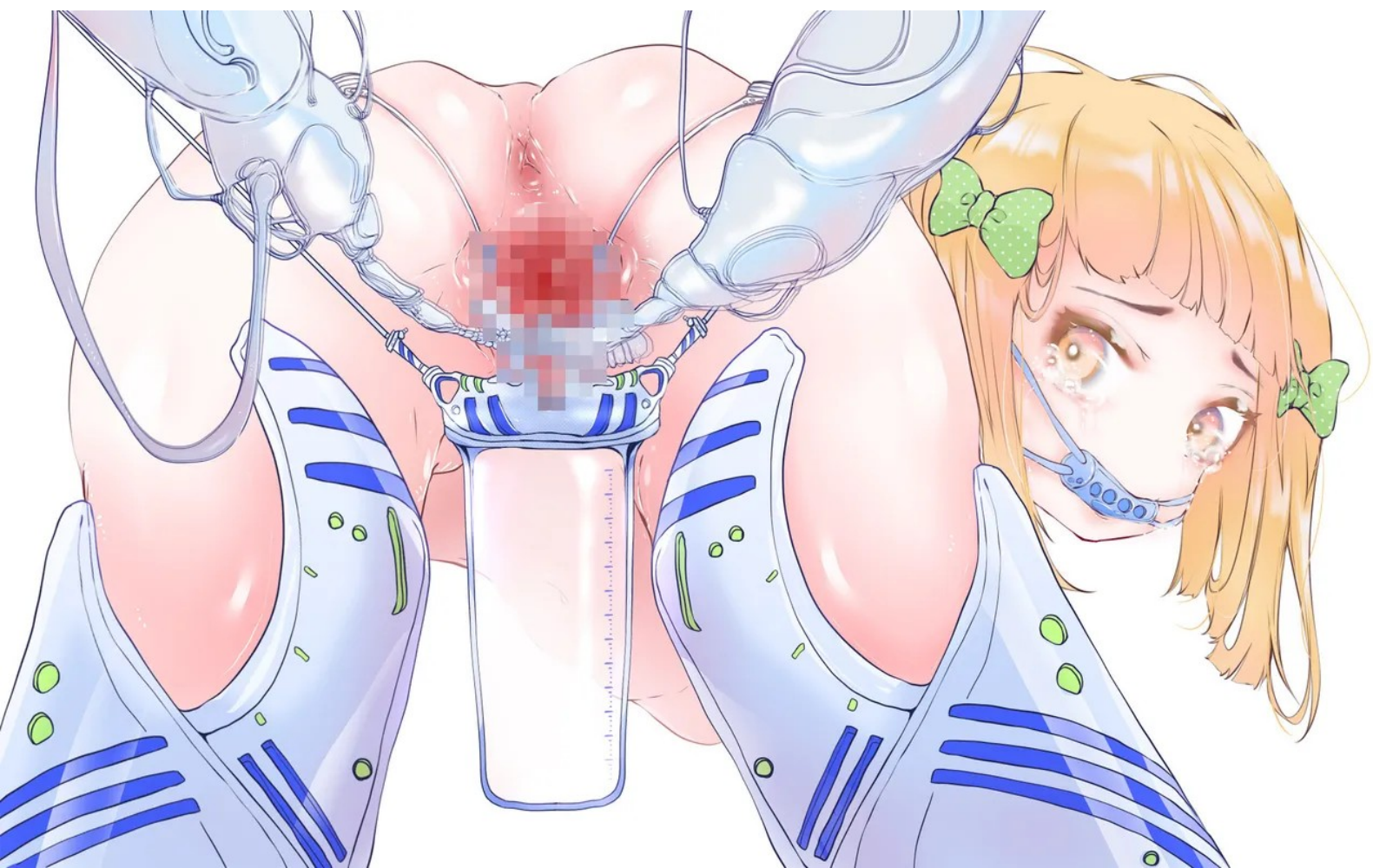
臍内を強く吸引し続けたため、臍口からナカを覗いてみると赤く腫れてしまっているようであった
「挿入り軟膏を塗ってケアをしておけば良いだろう」「むしろ少し腫れているくらいが感度も高まり、別の実験もしやすいかもしれない」
研究者たちは少女に対してそう言い、少女の目の前でパイプに挿入軟膏を塗り始めた！

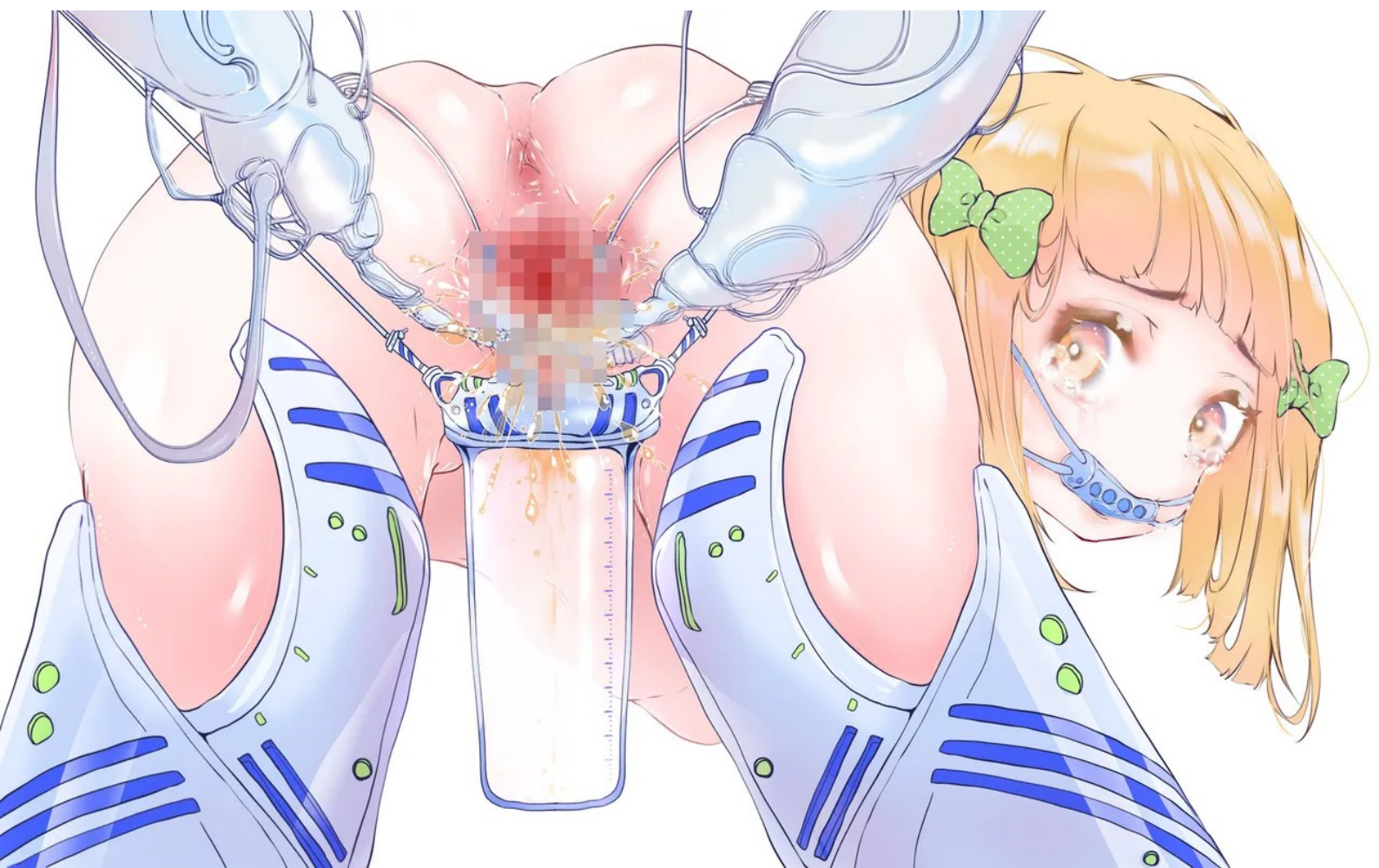
結果として、容器内には純度の高い尿と漏が回収できた

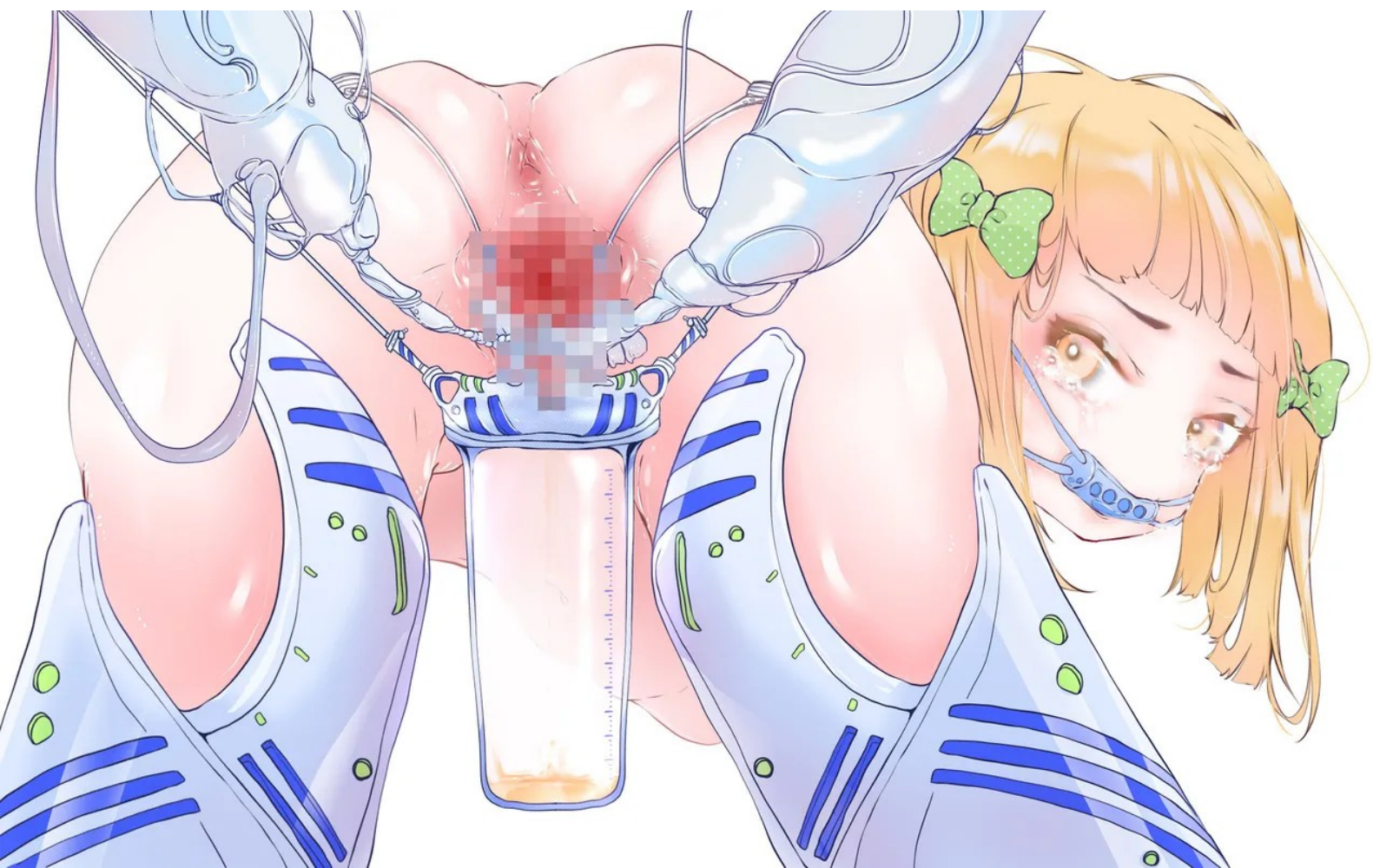


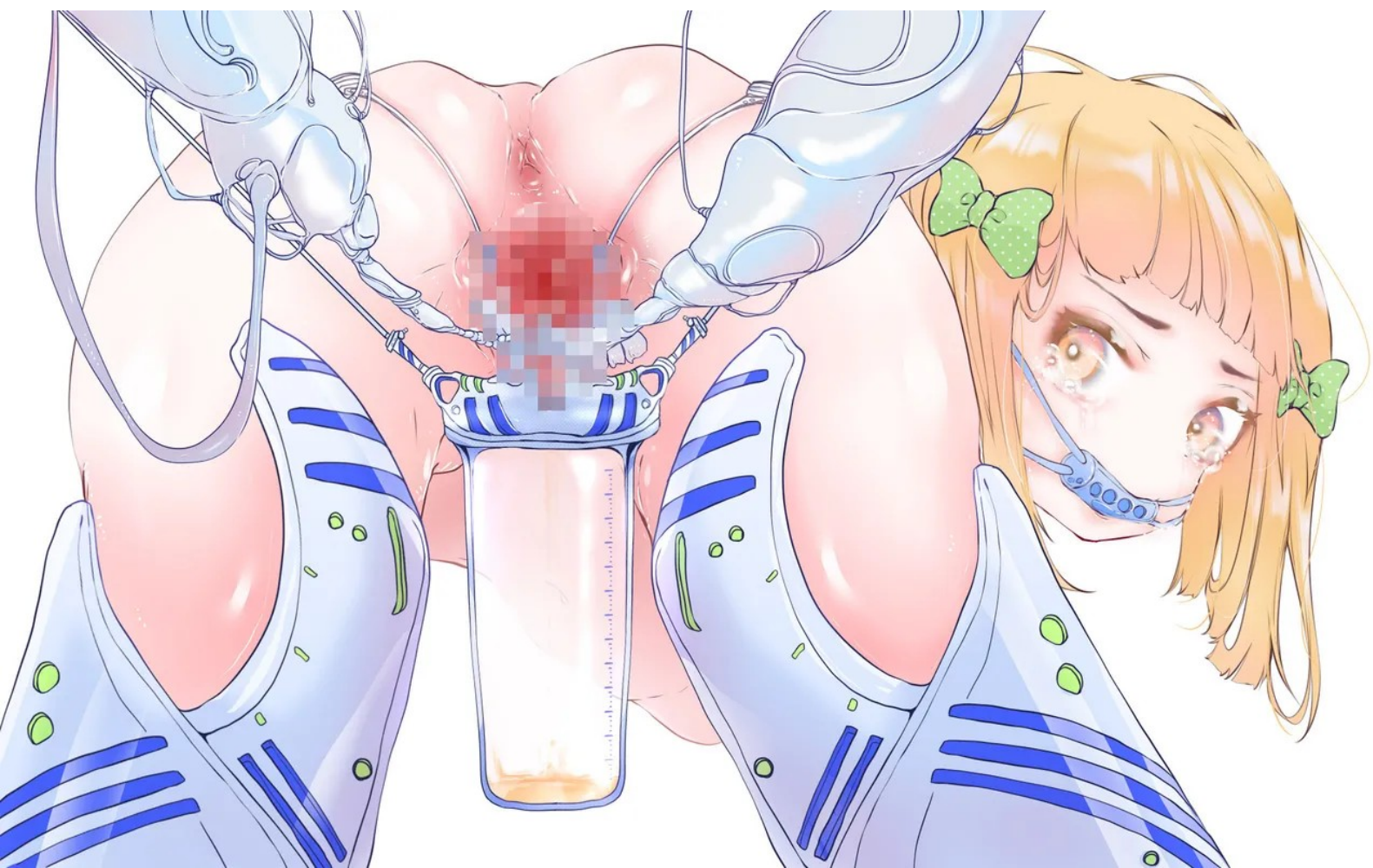


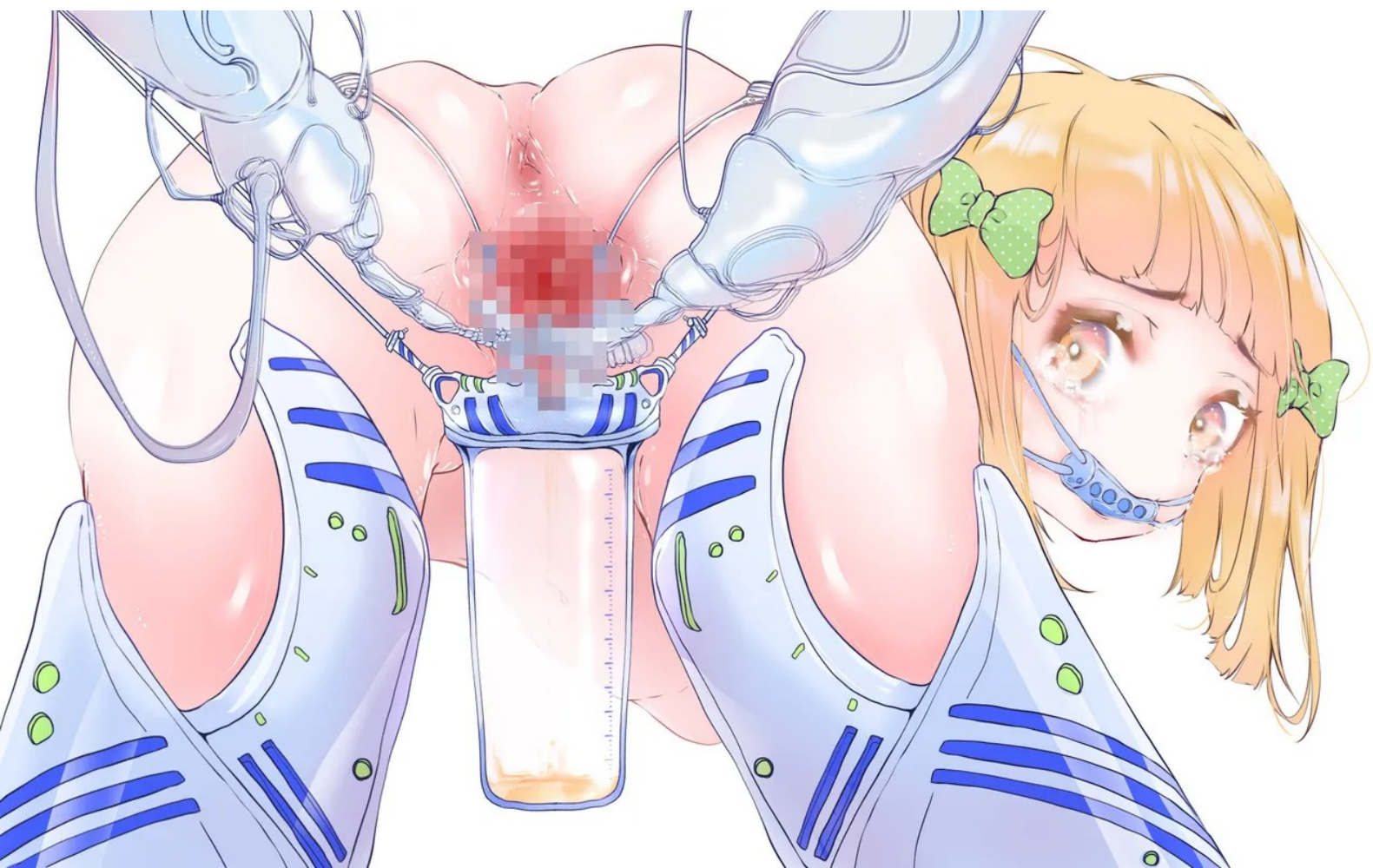


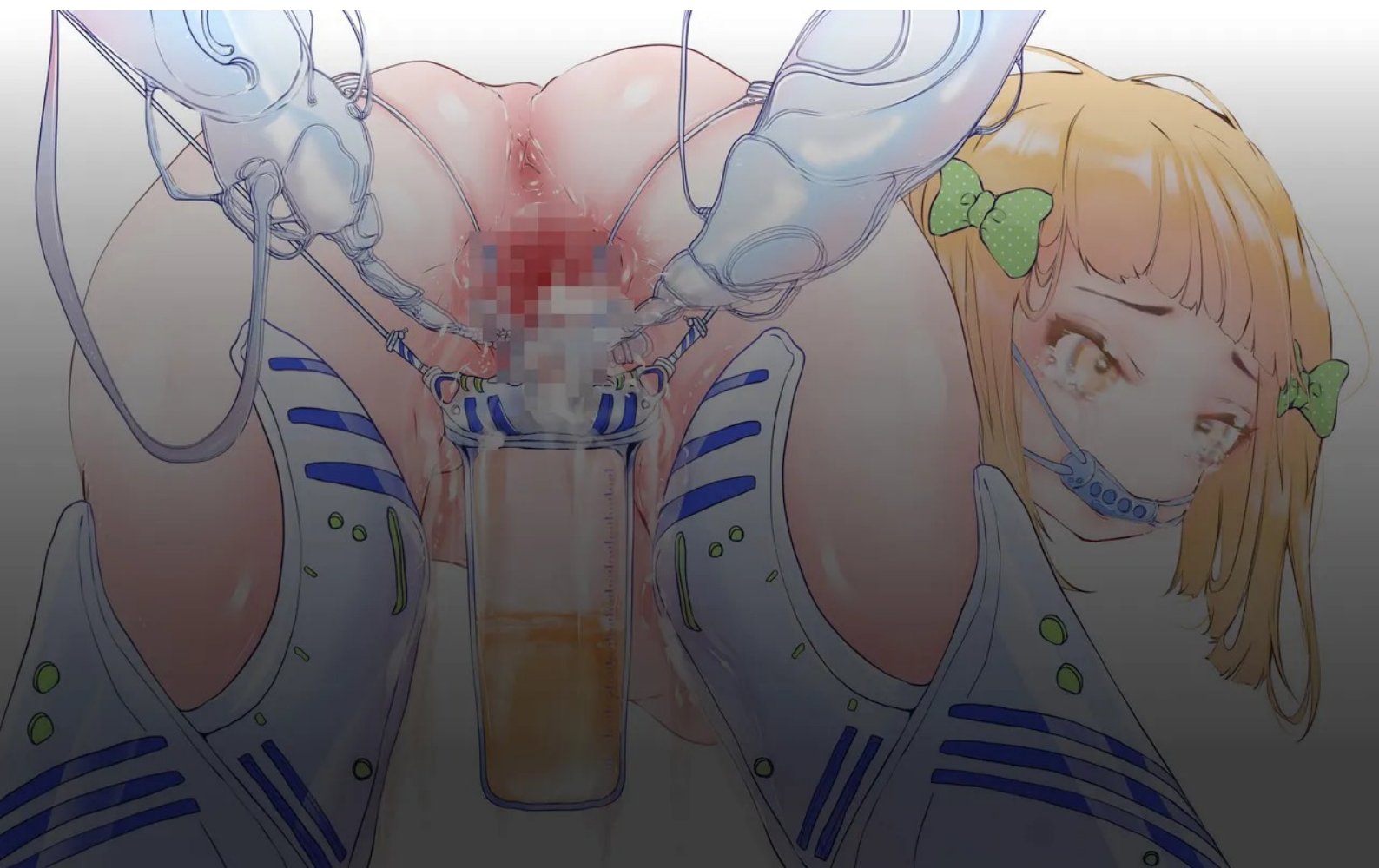


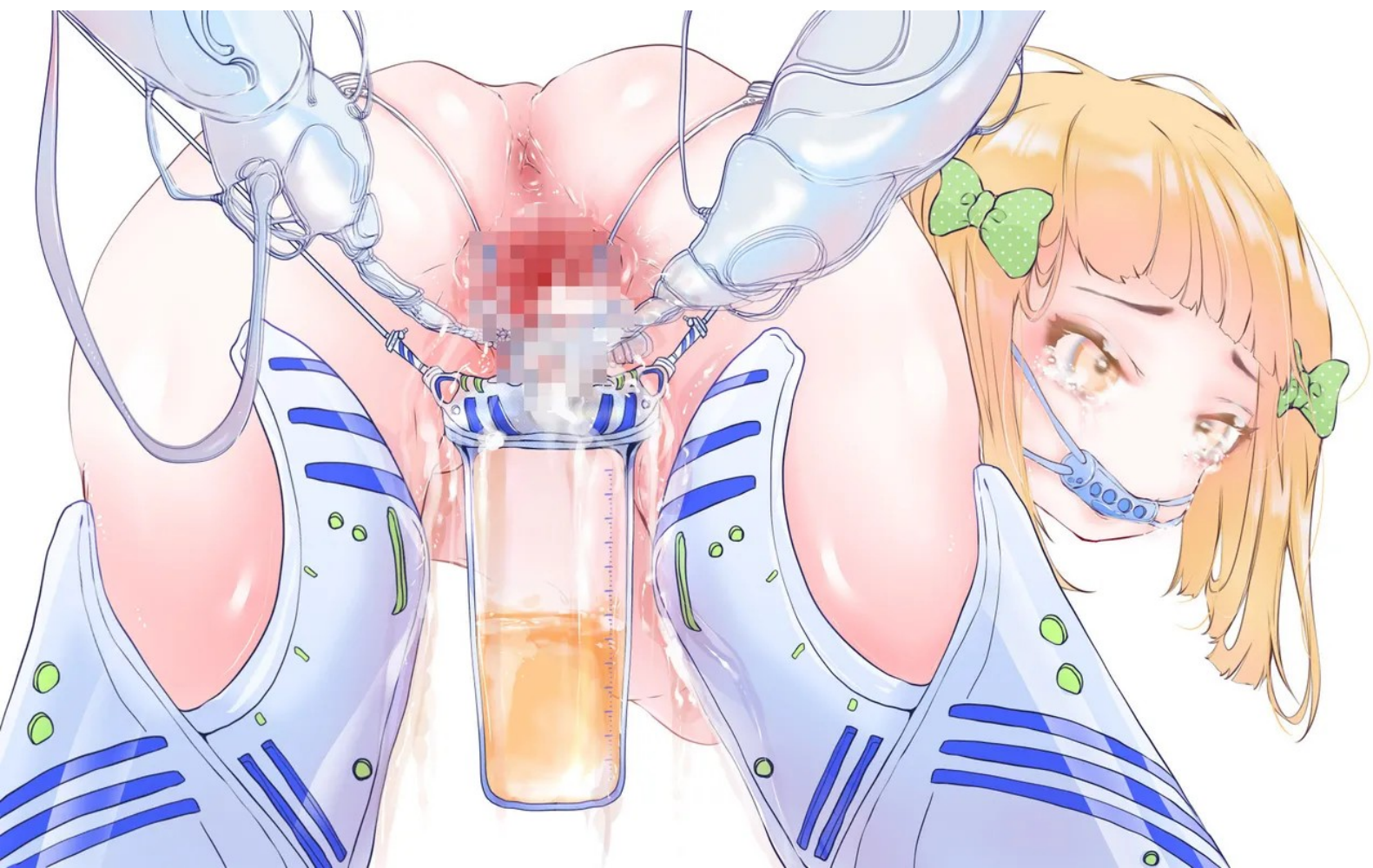


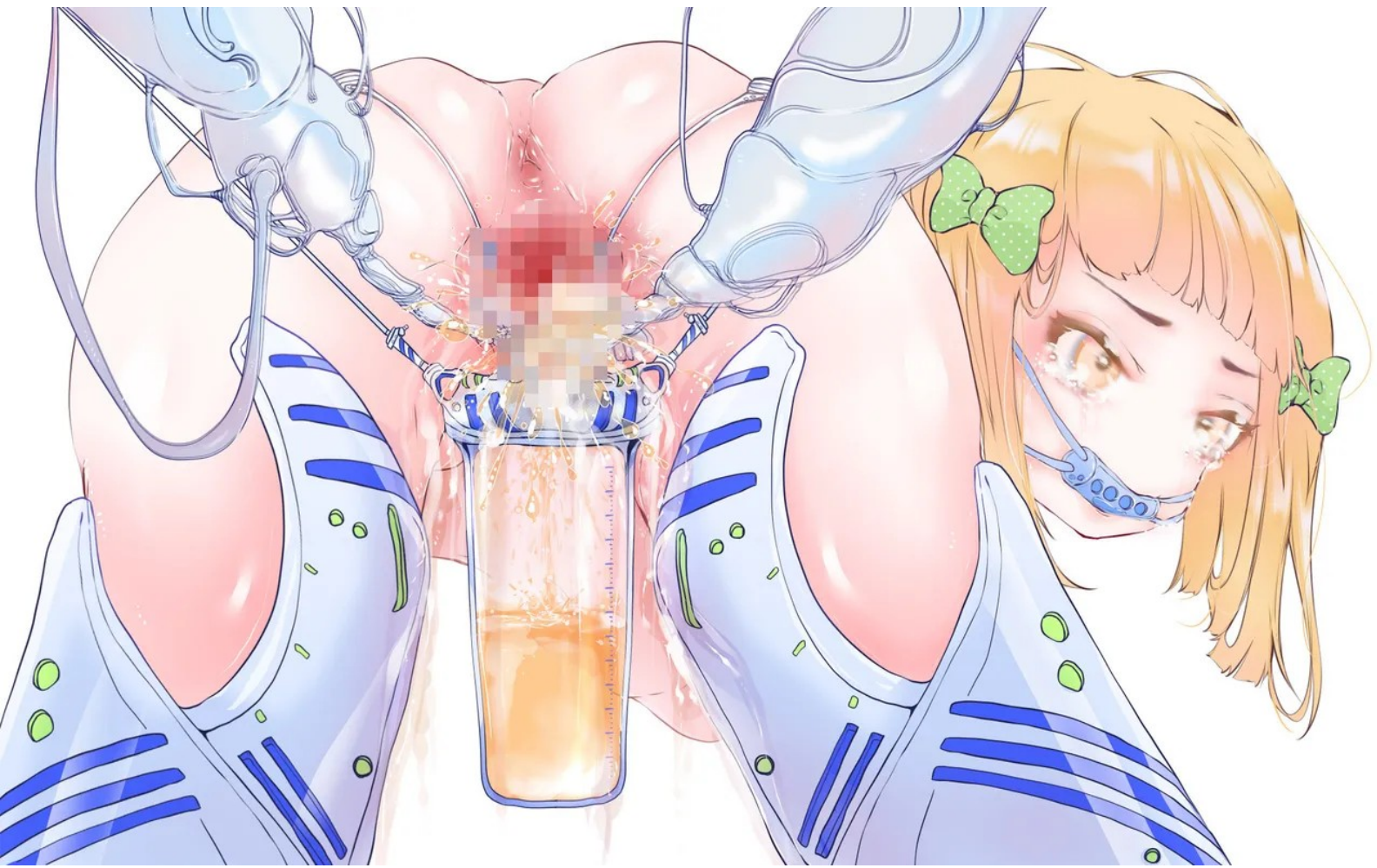


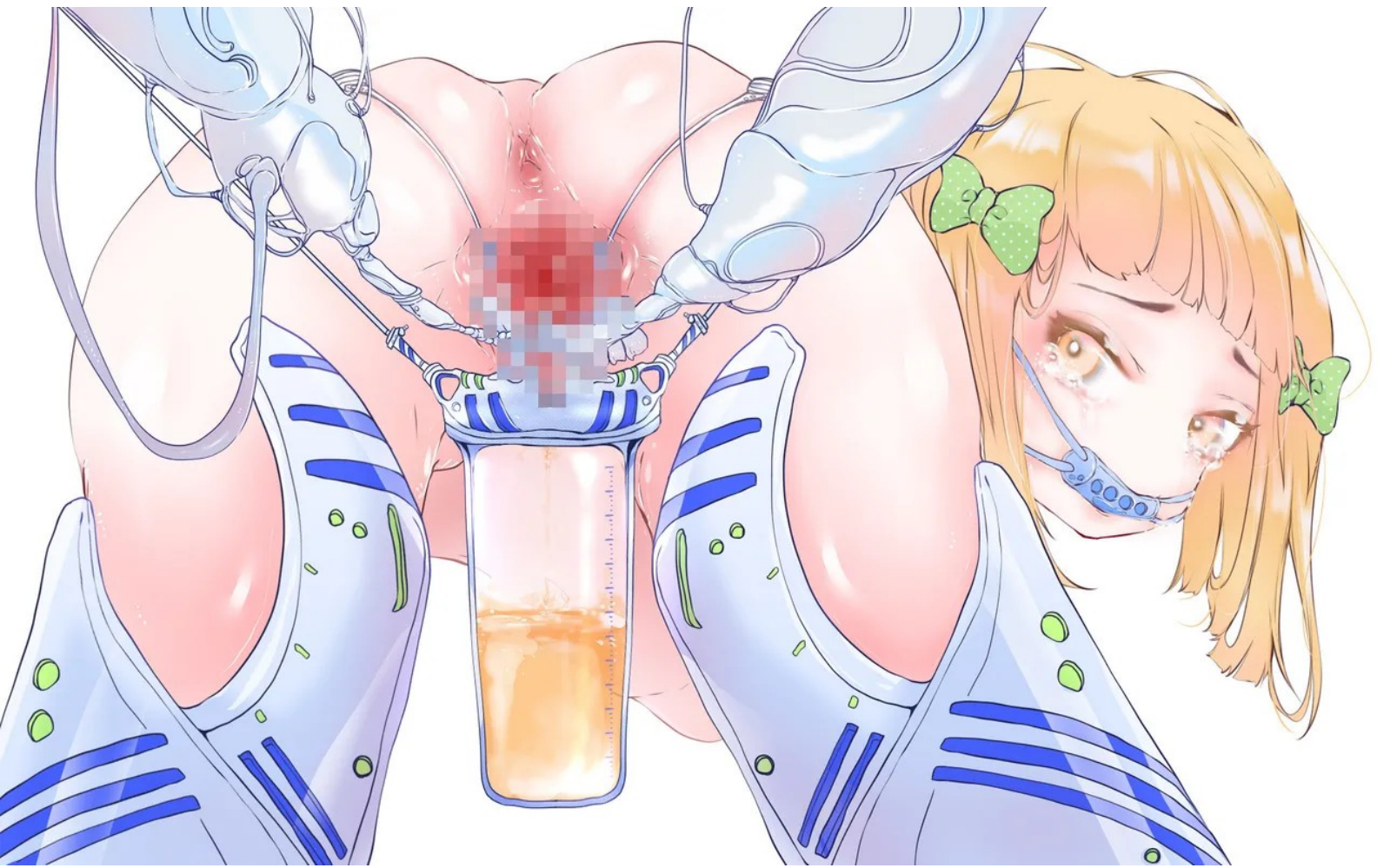


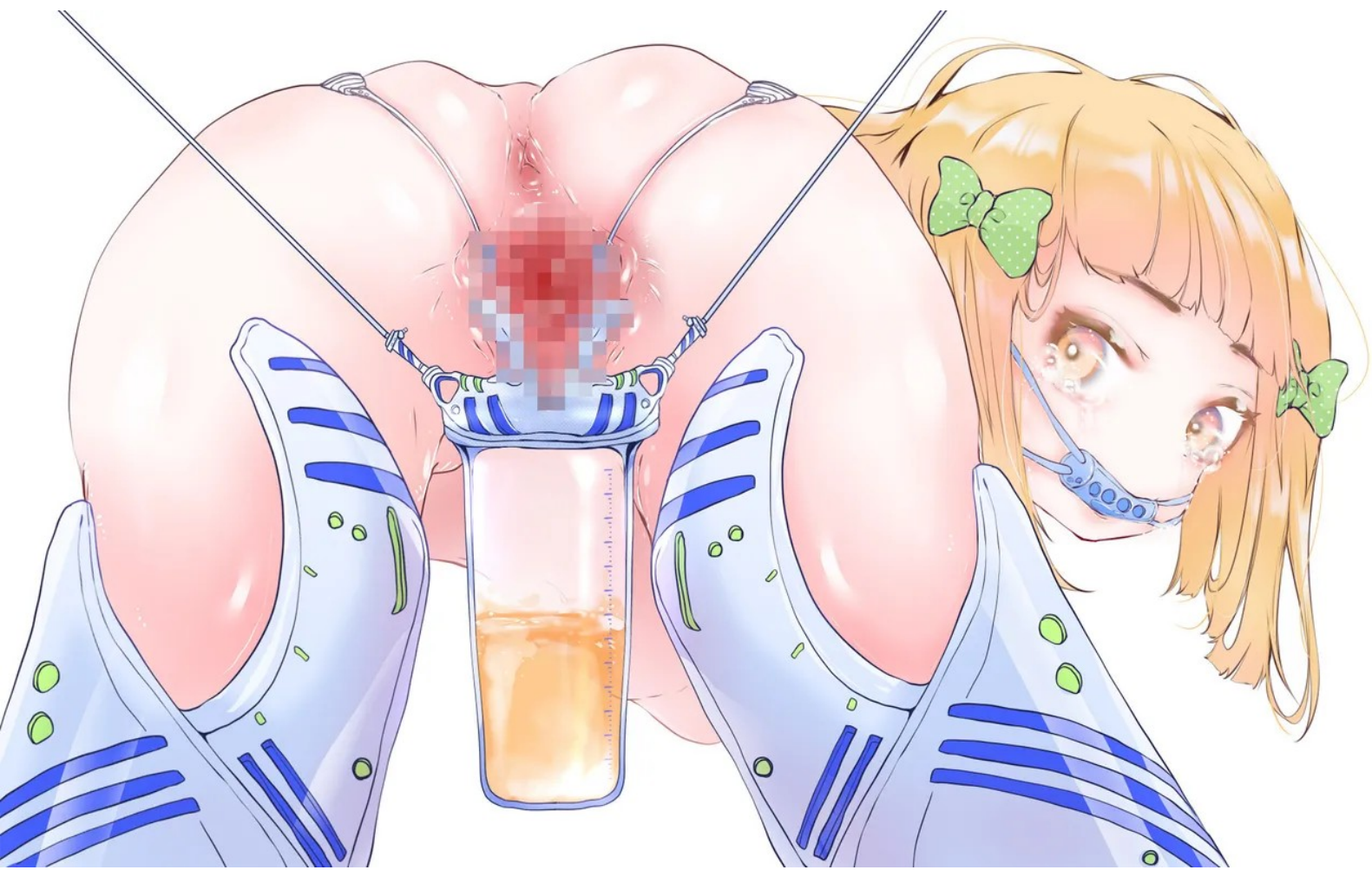


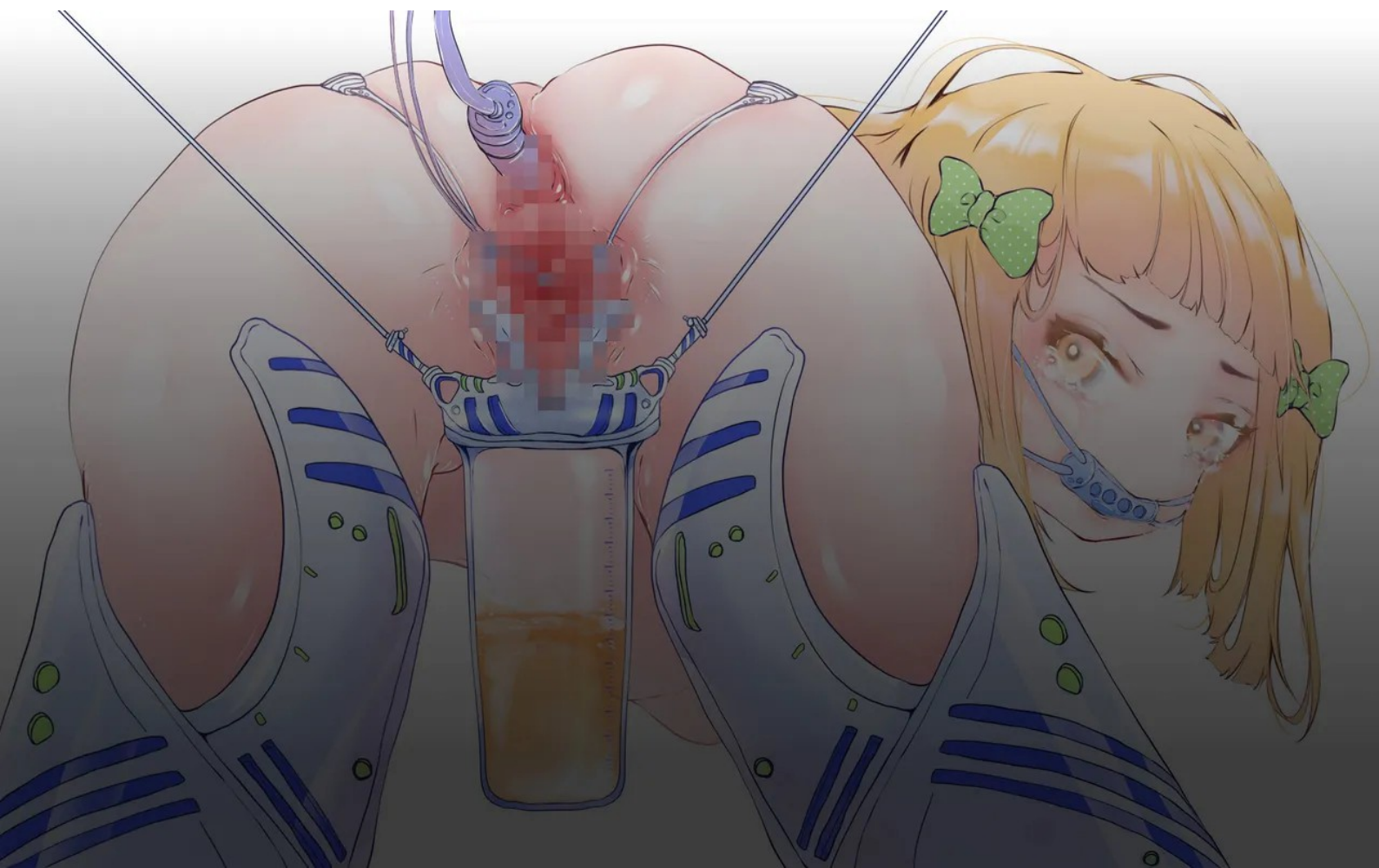


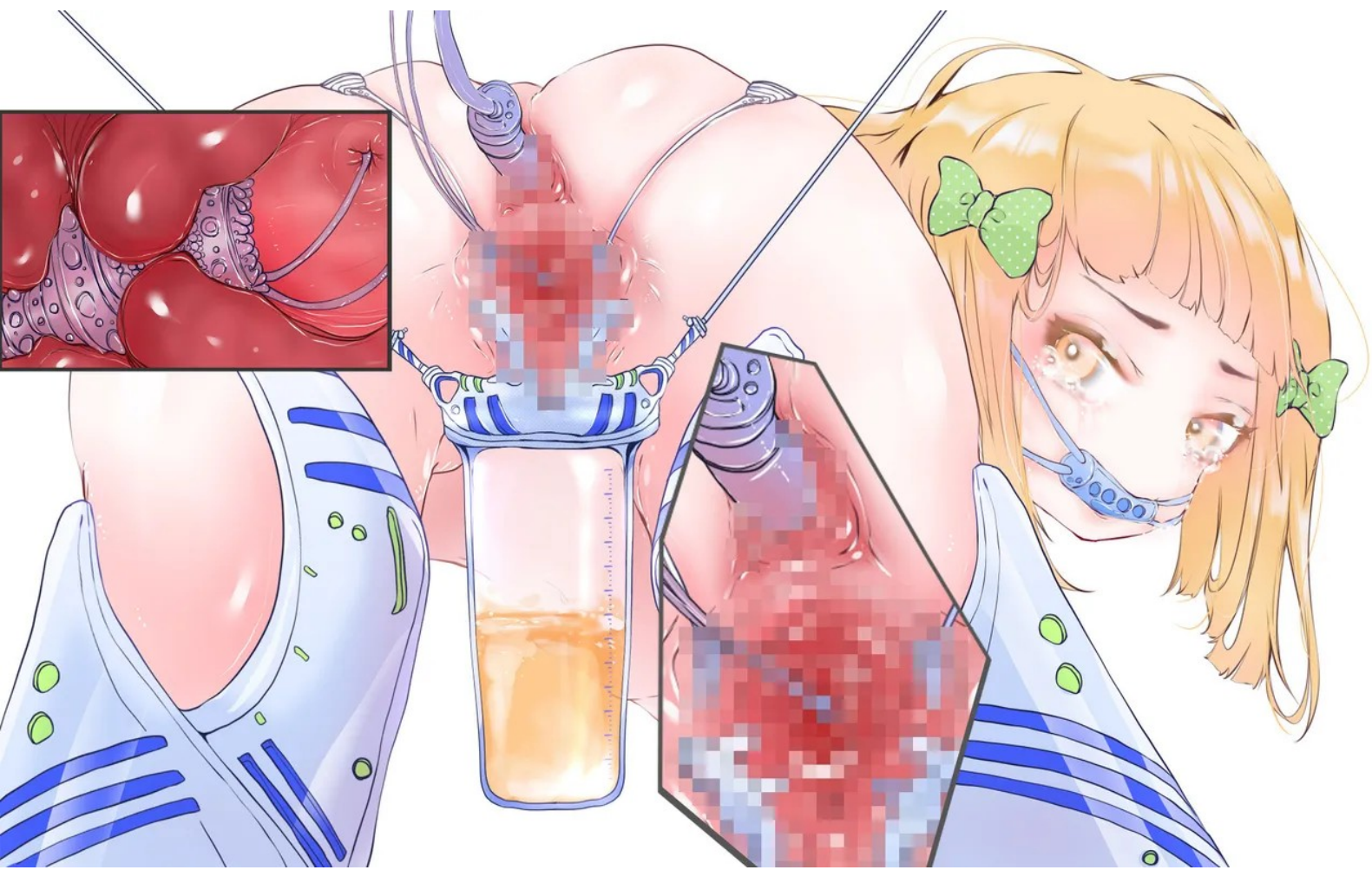


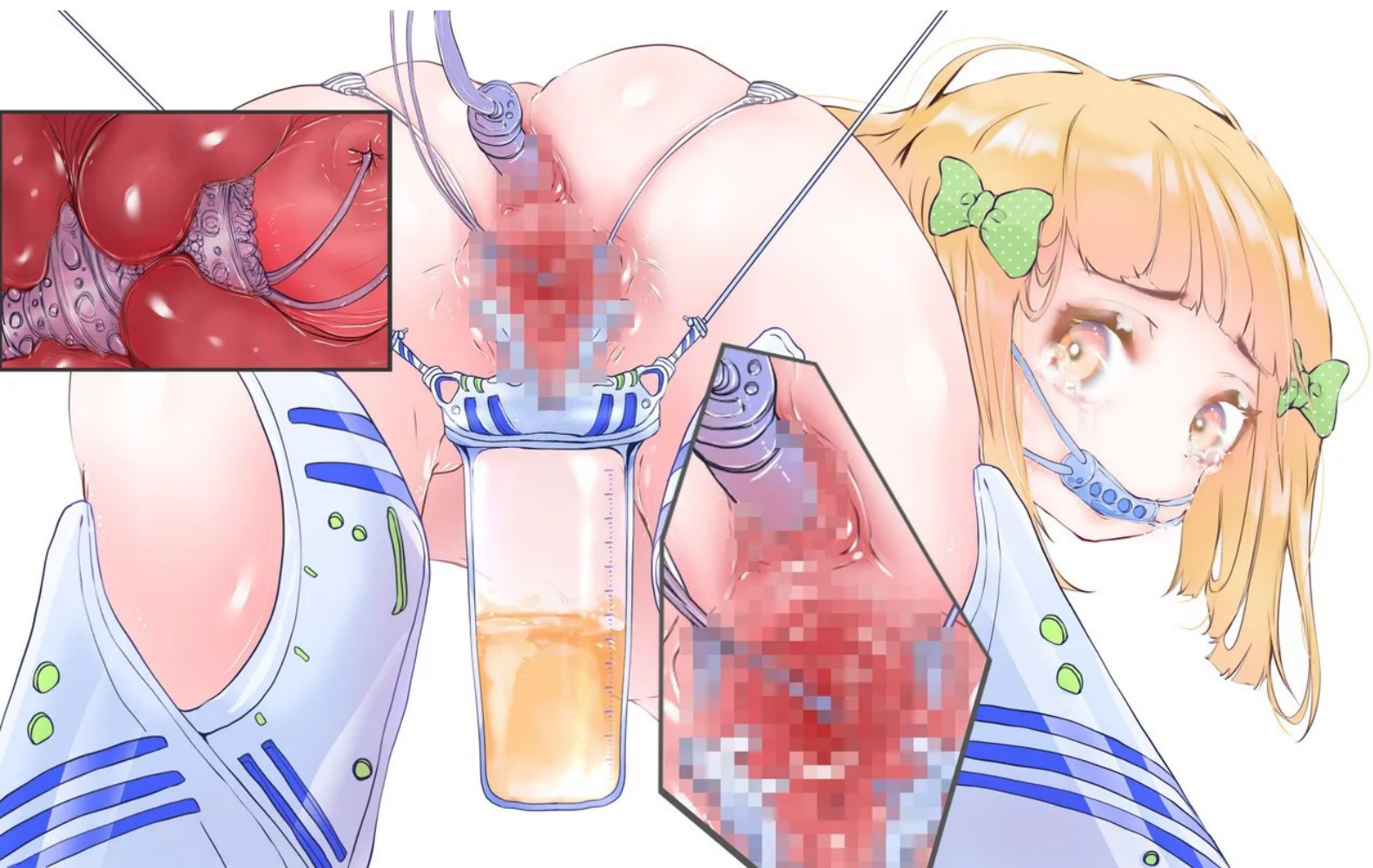


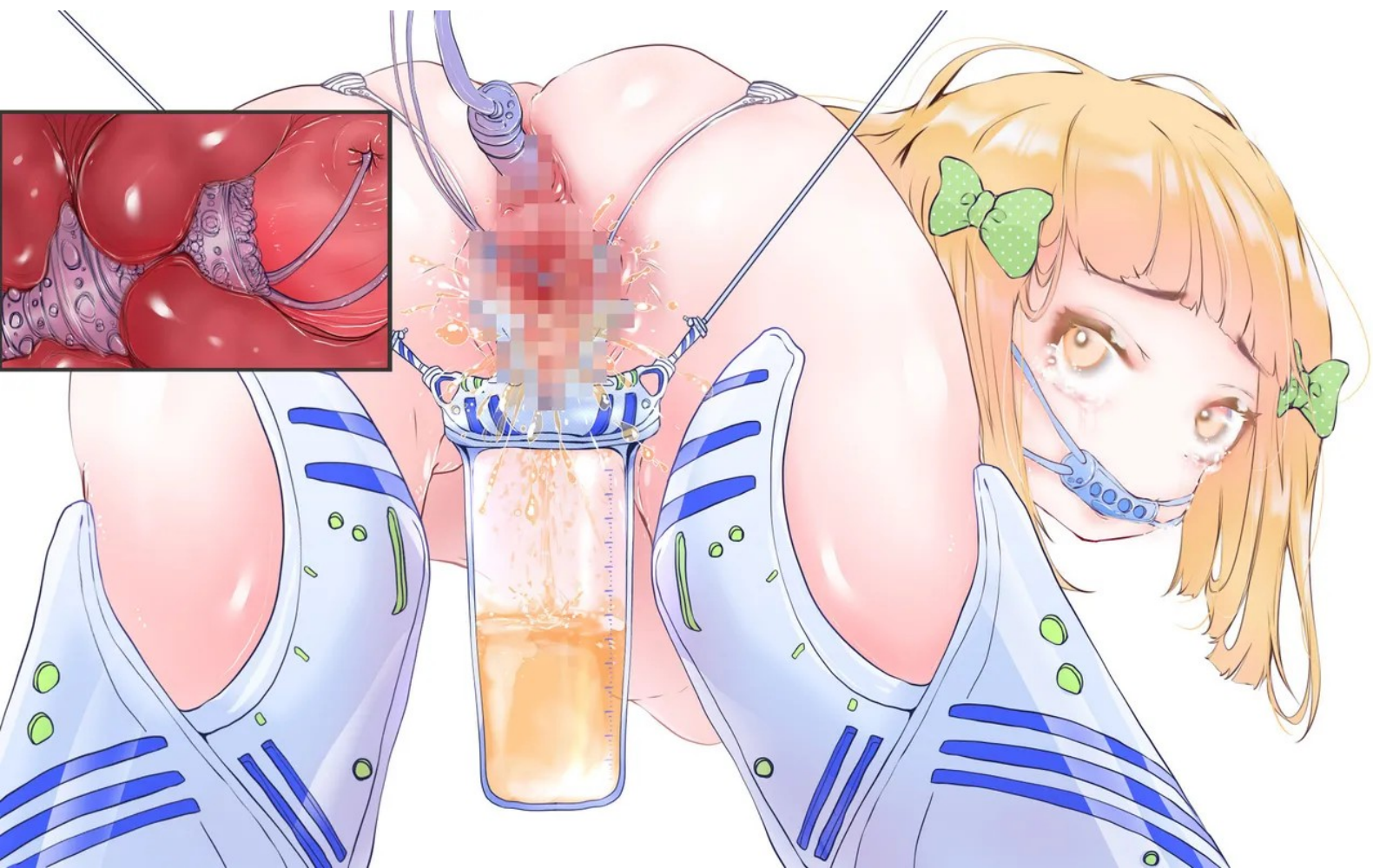


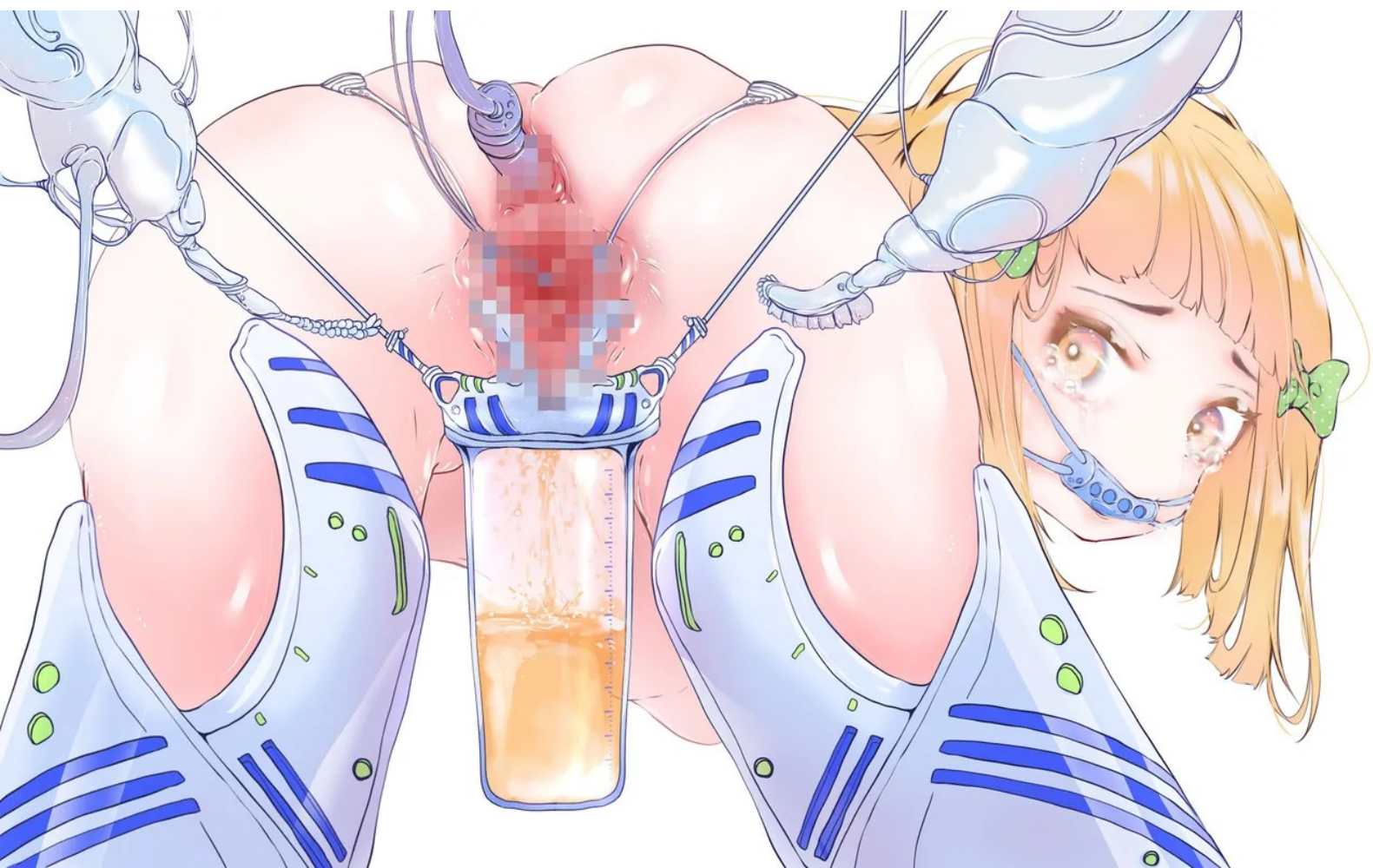


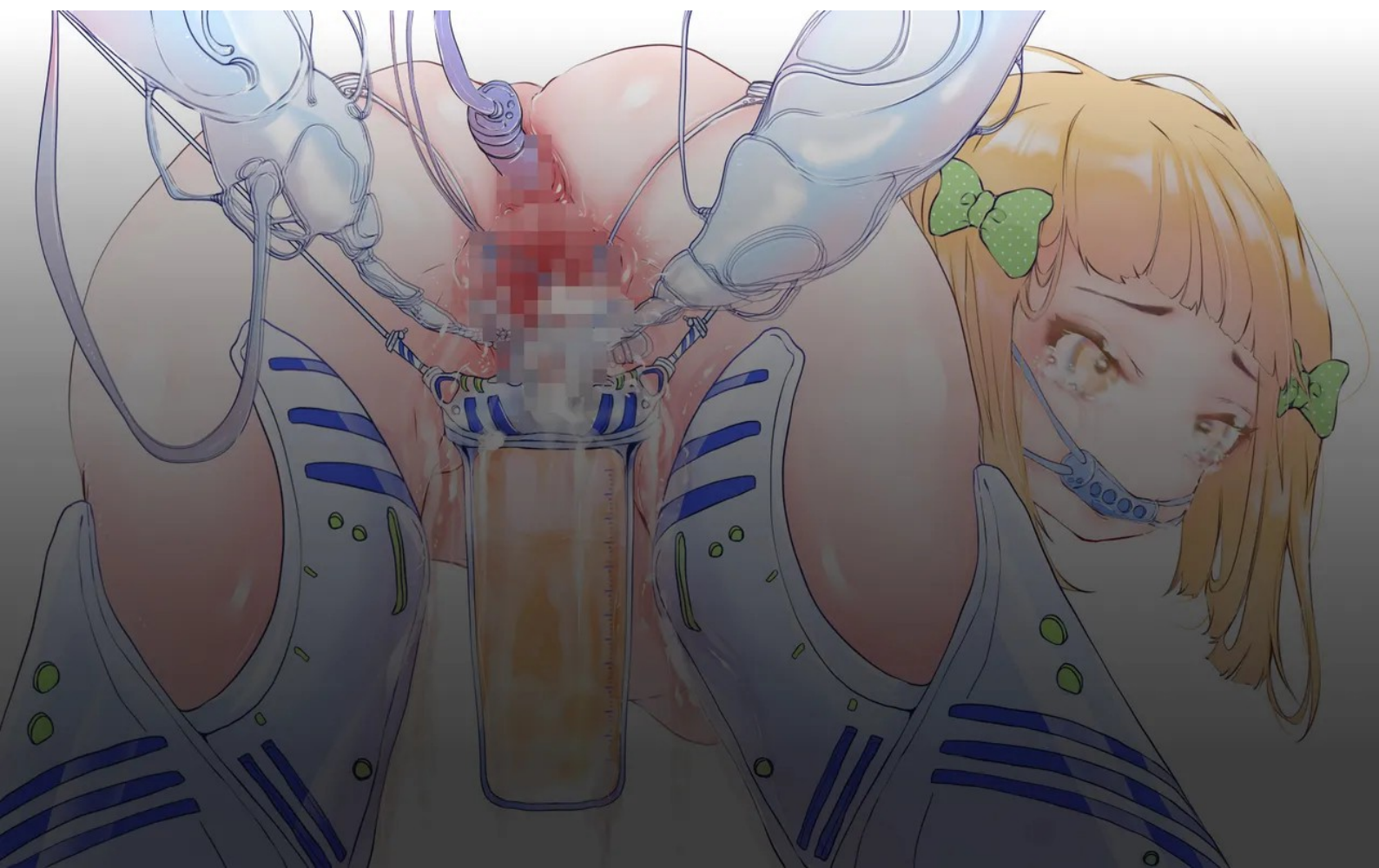


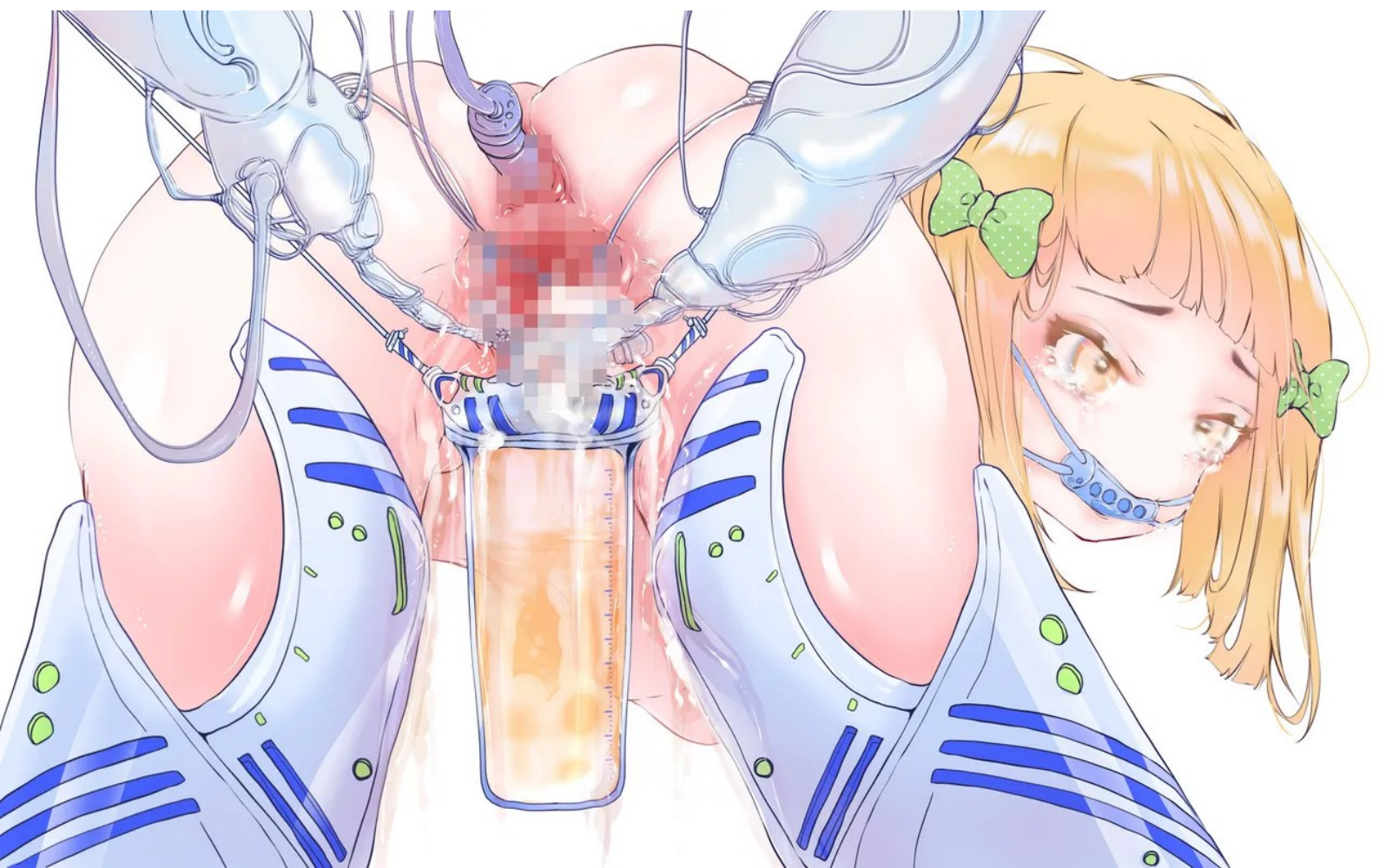


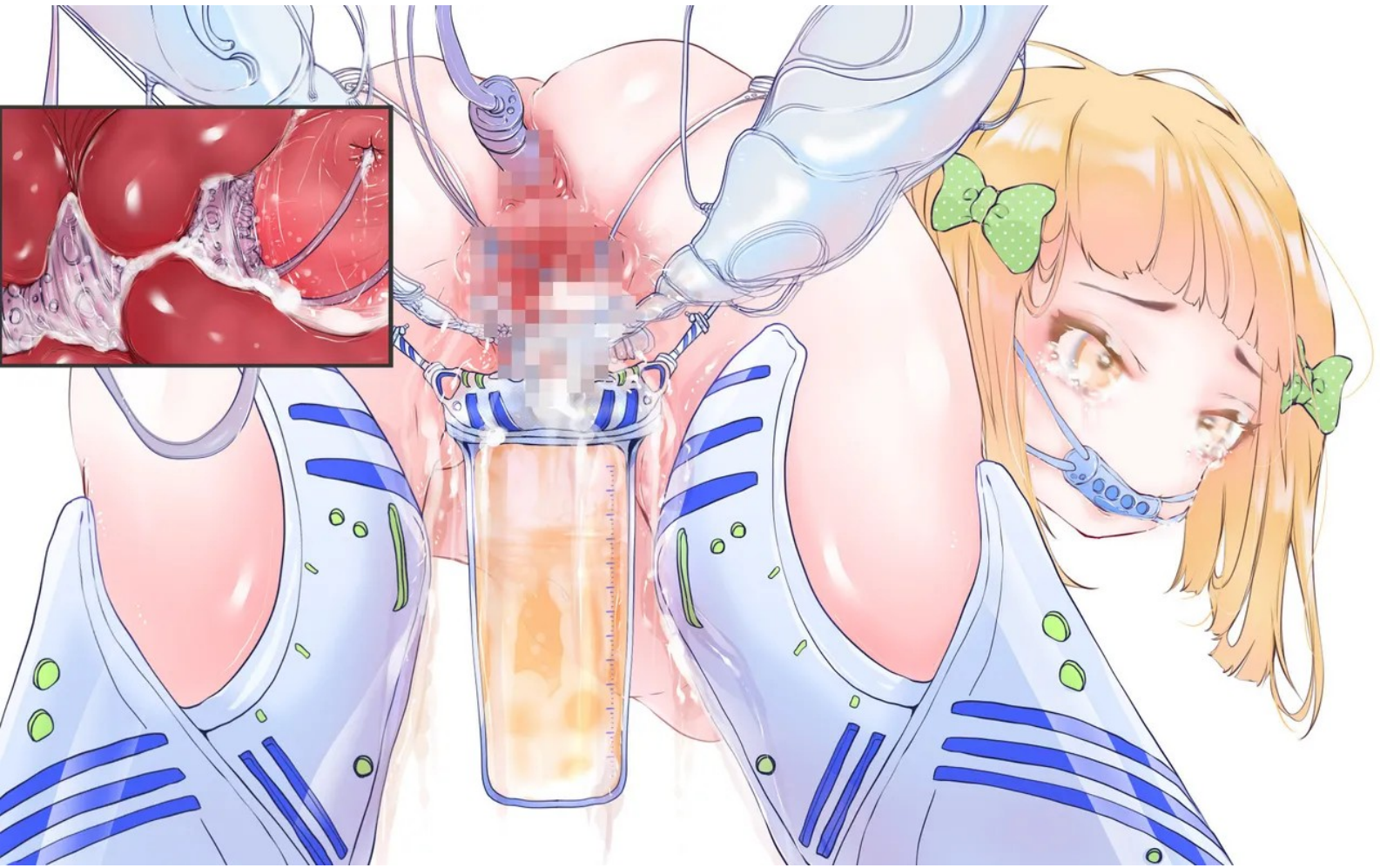


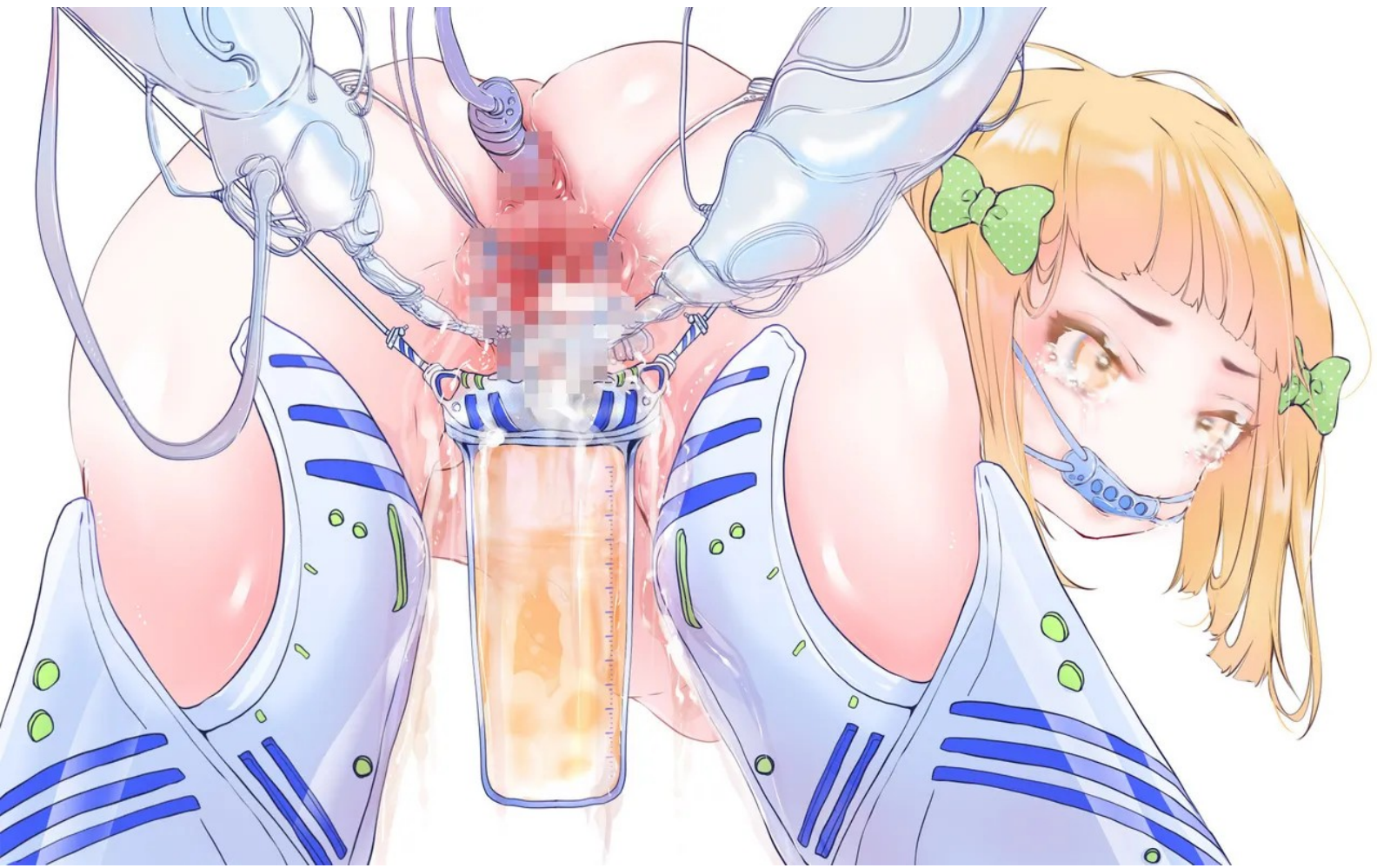


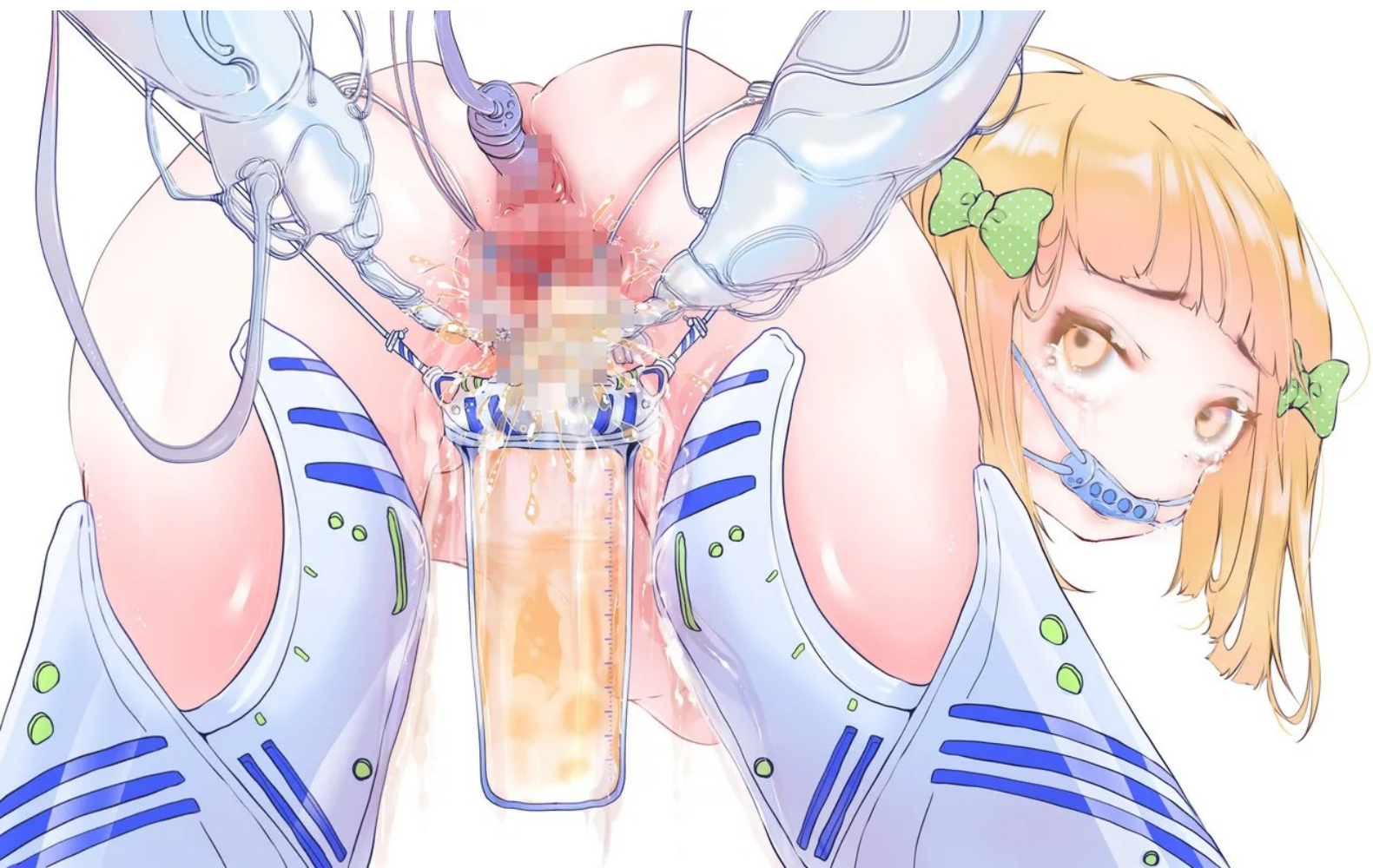


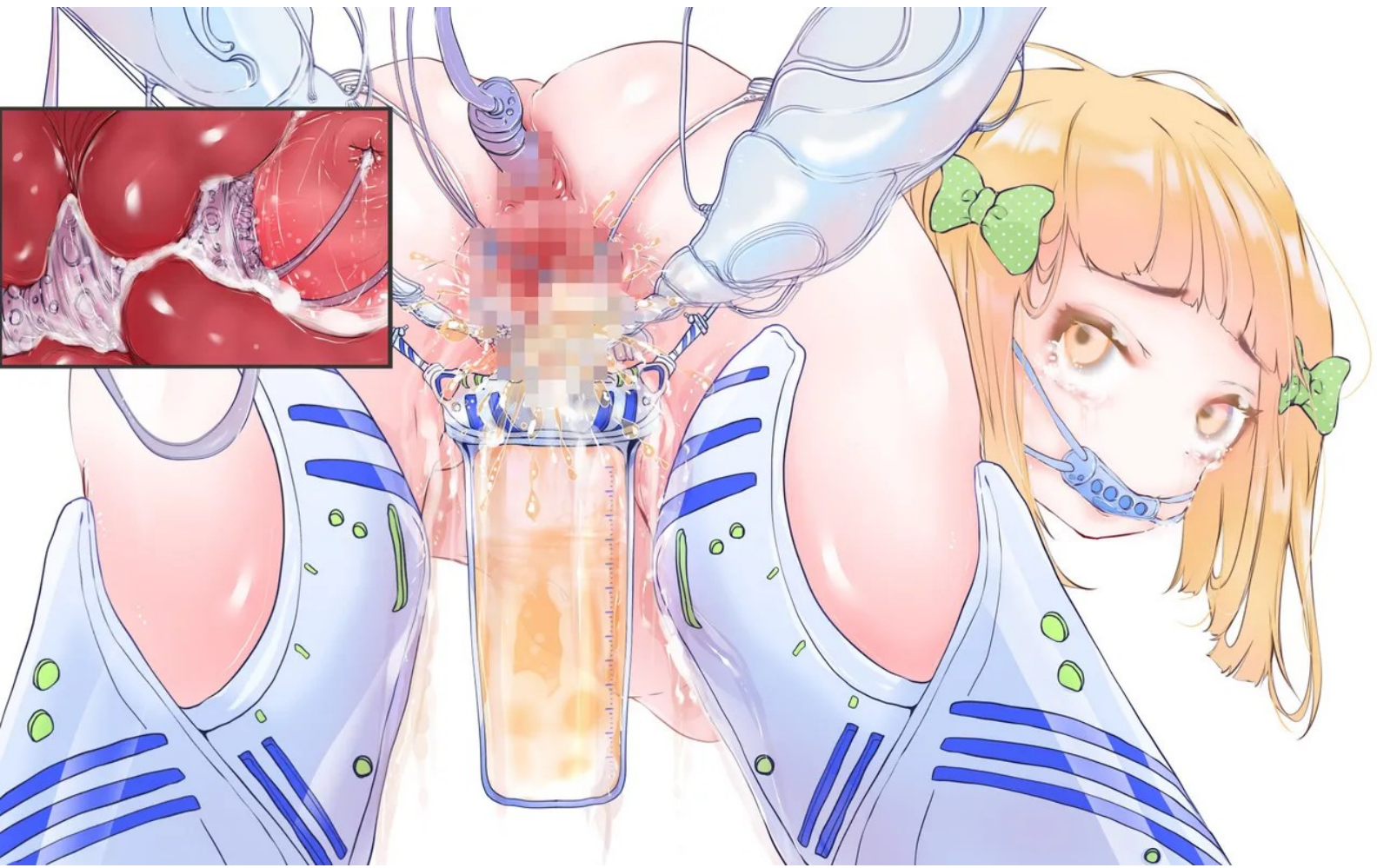


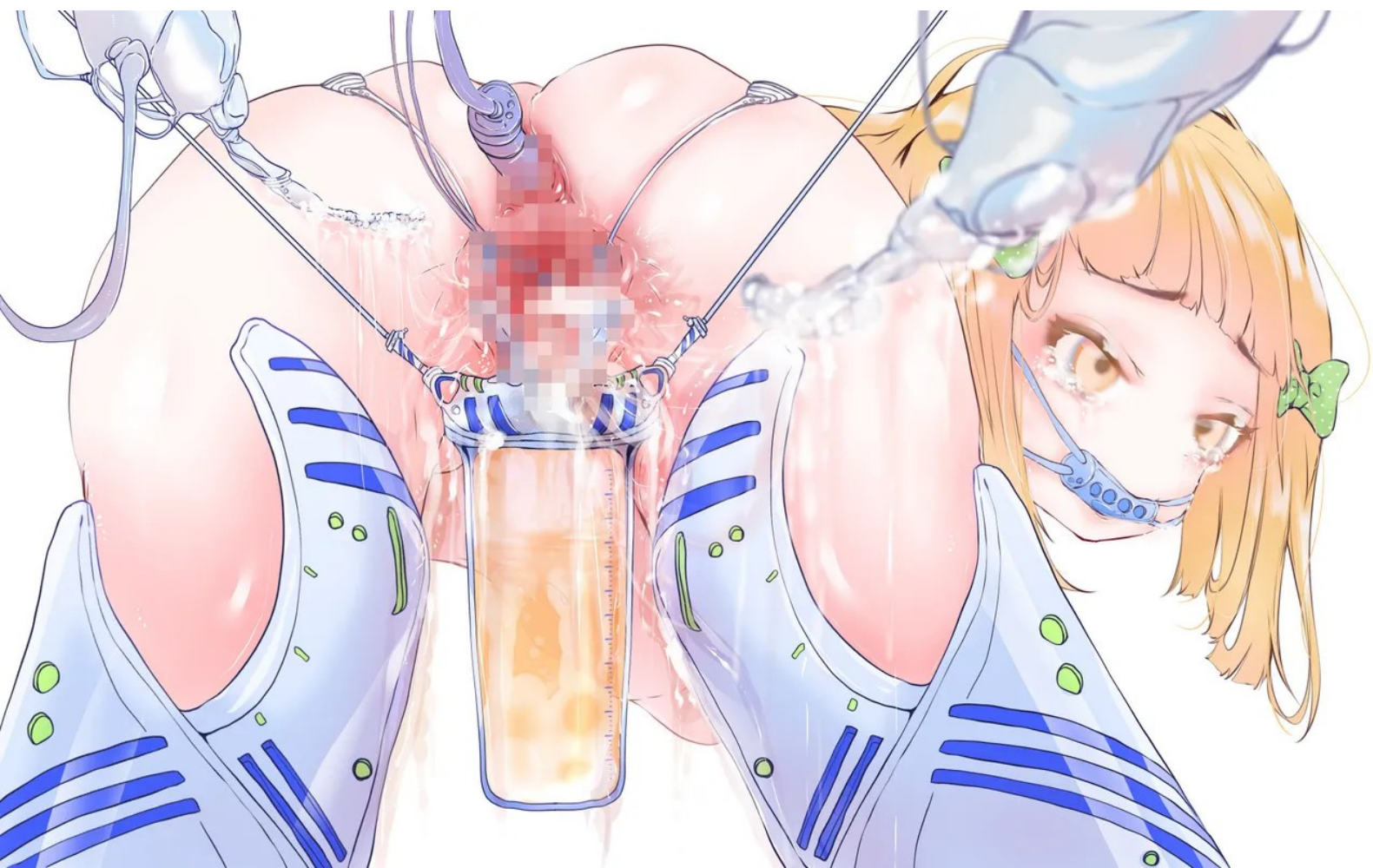


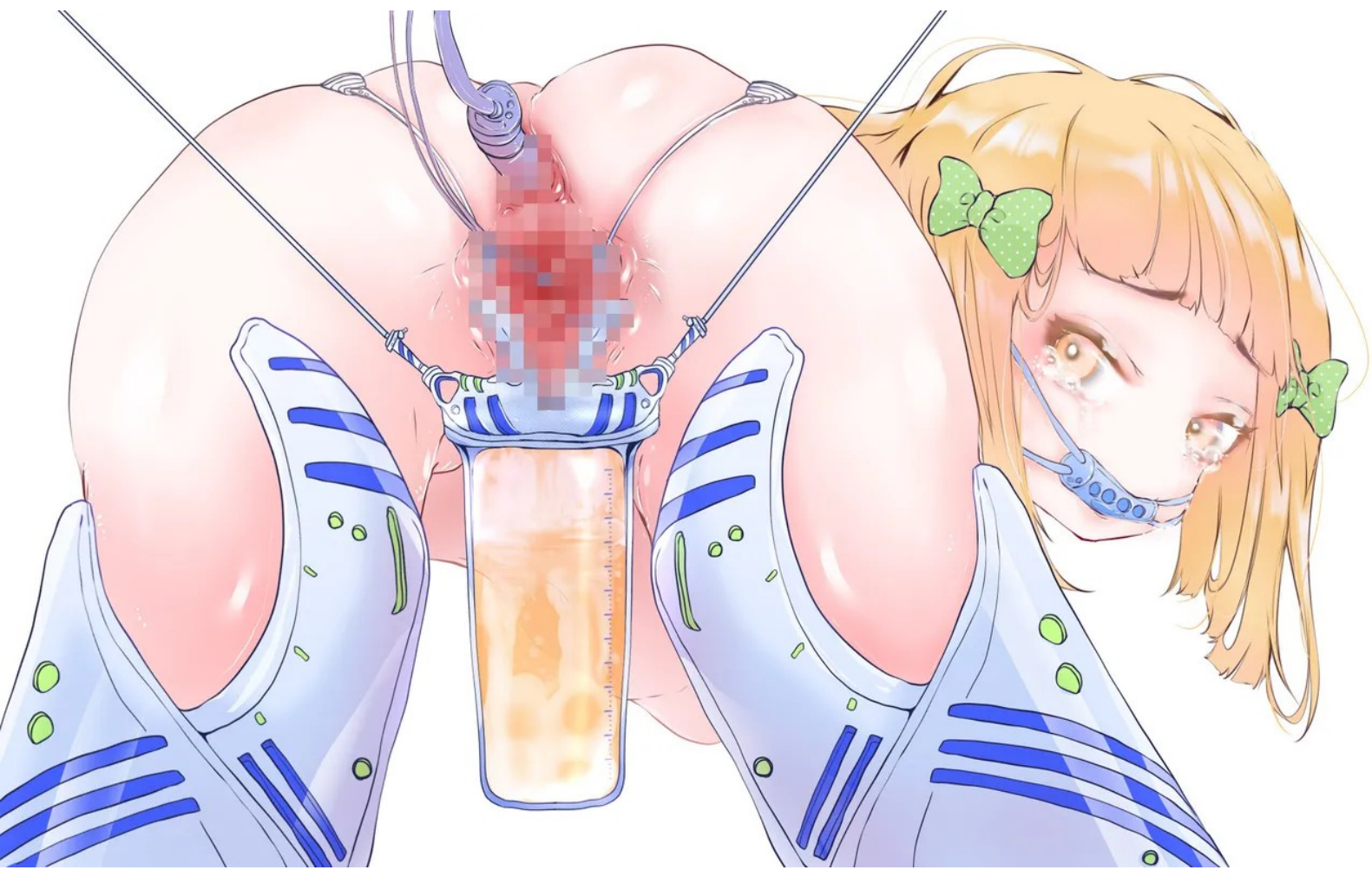


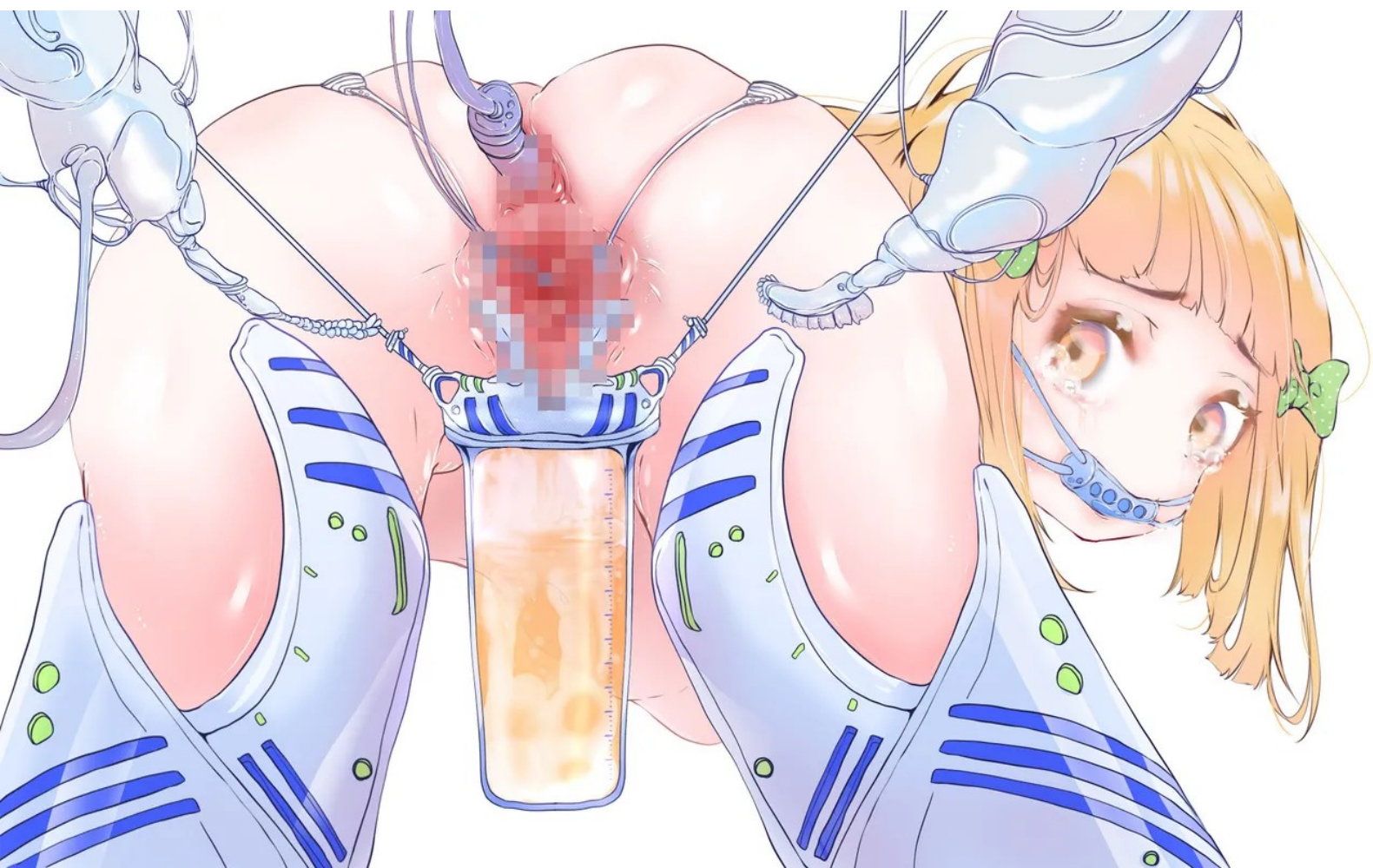


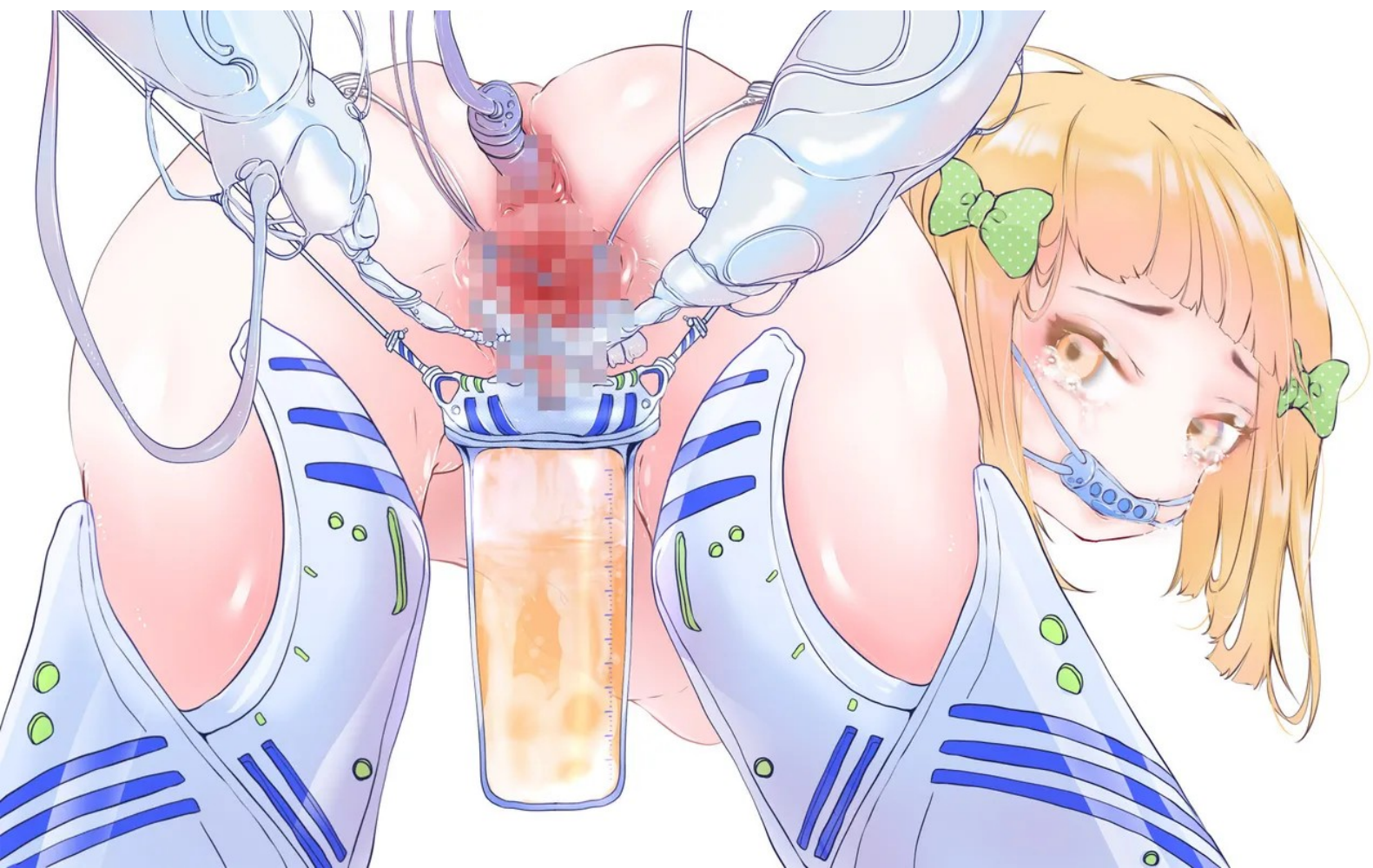


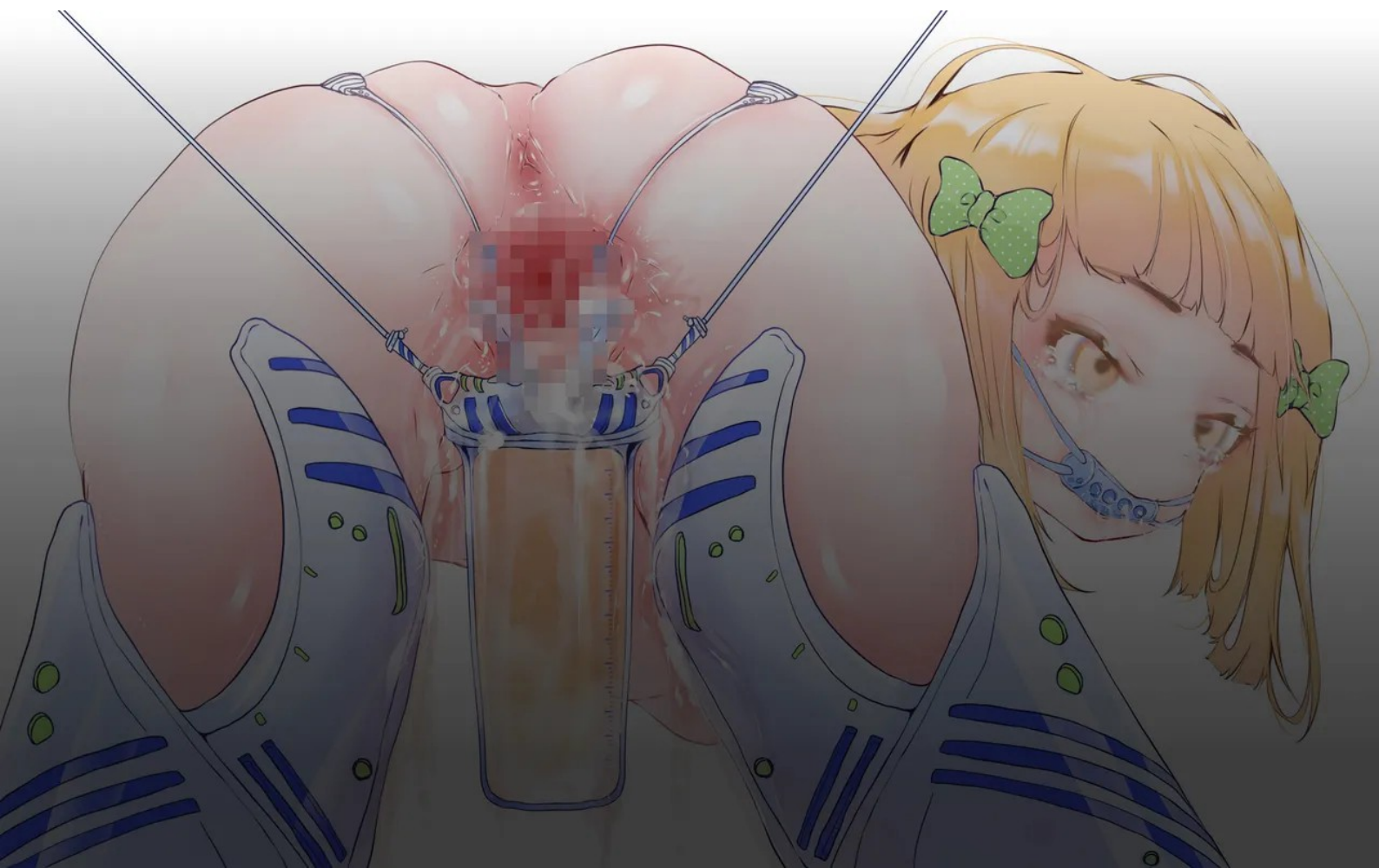


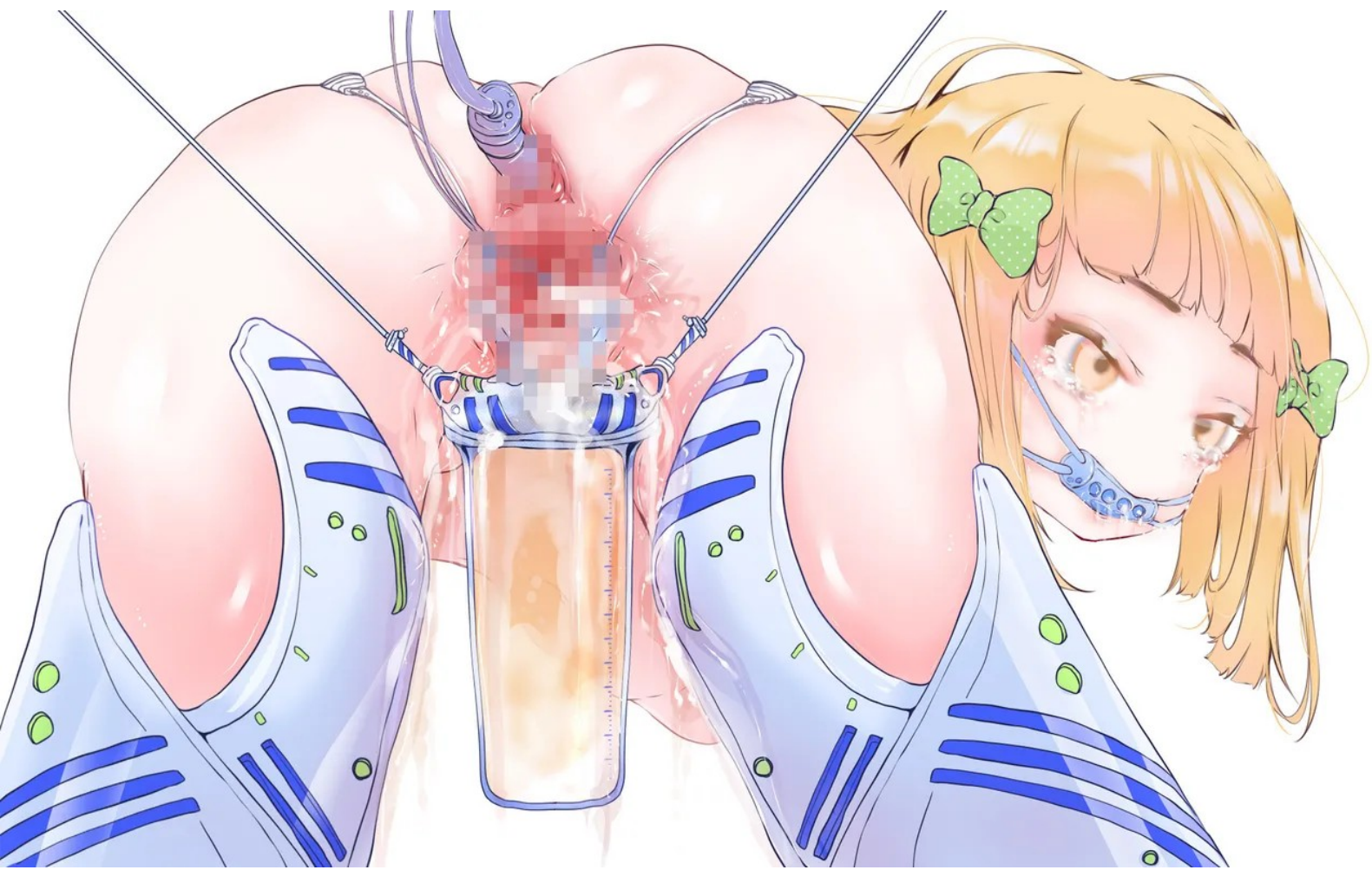


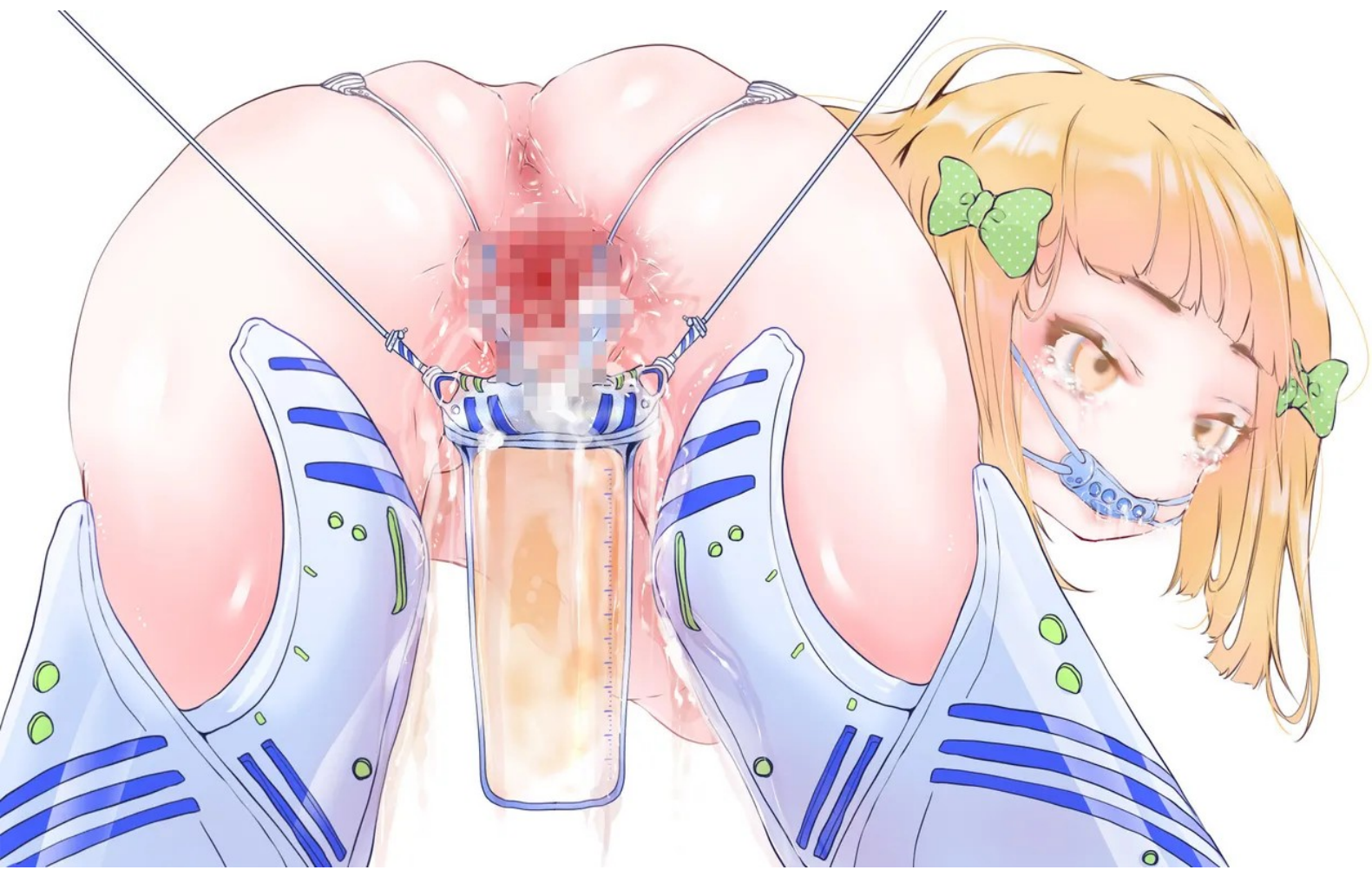


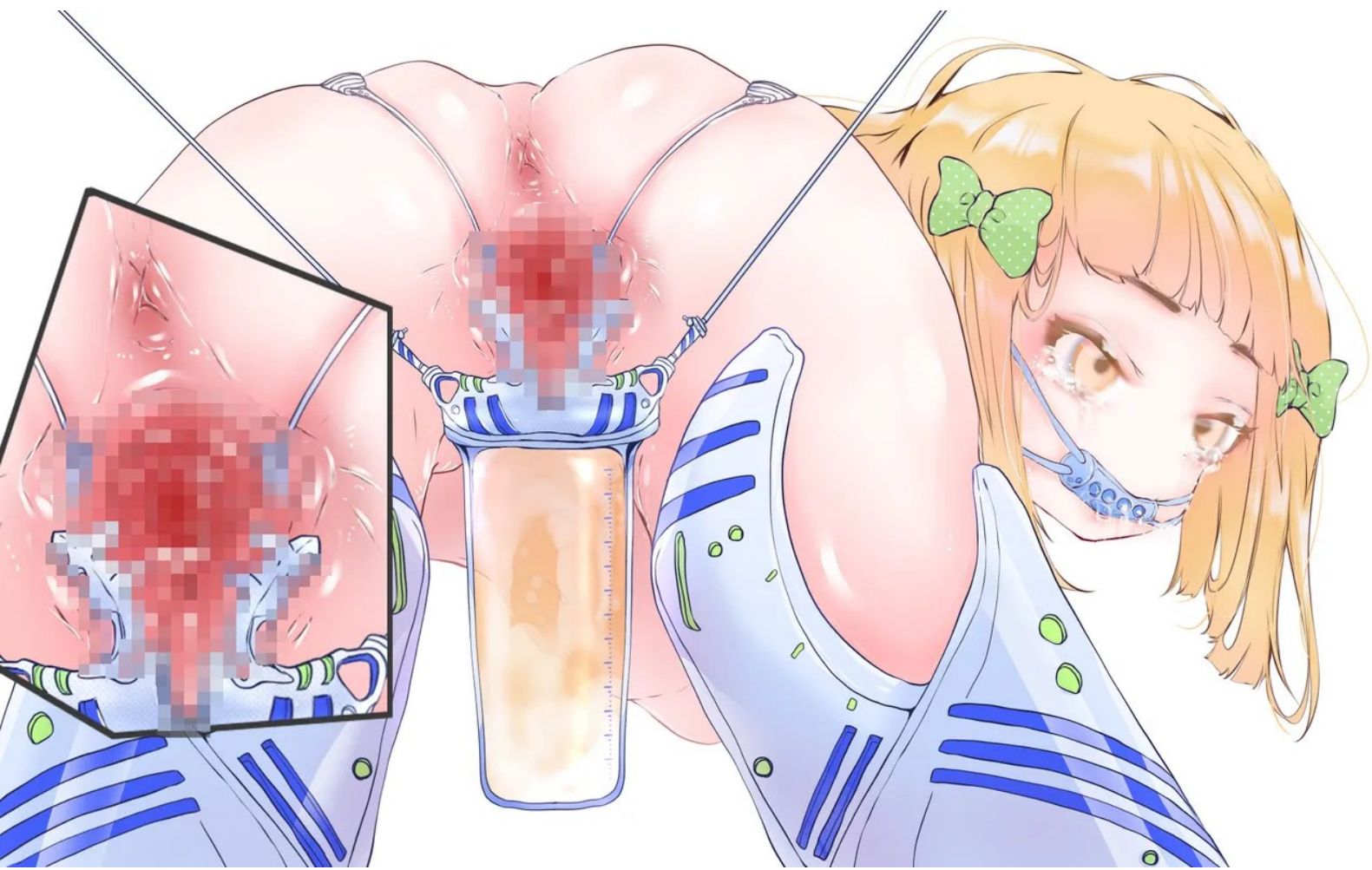


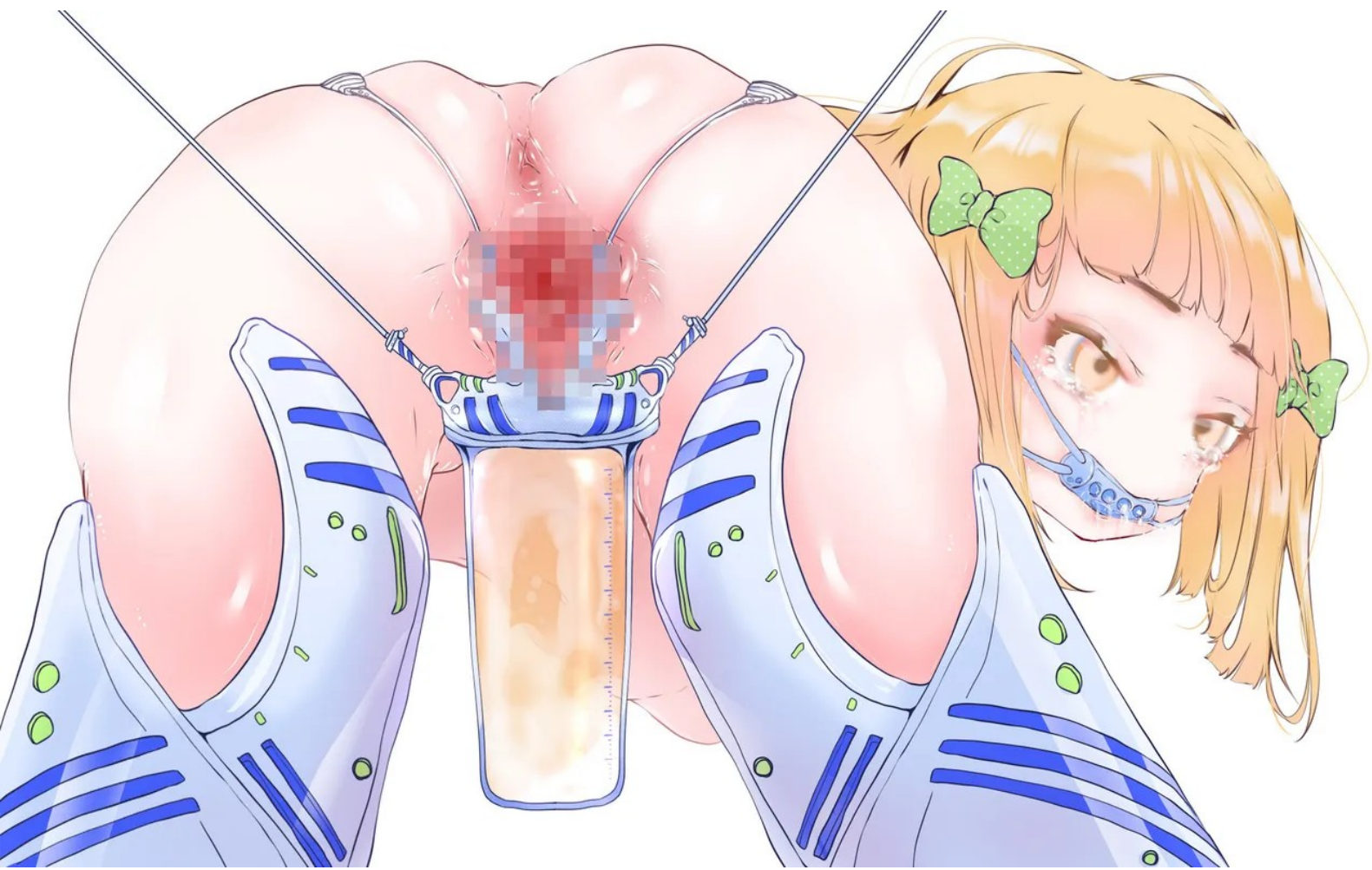


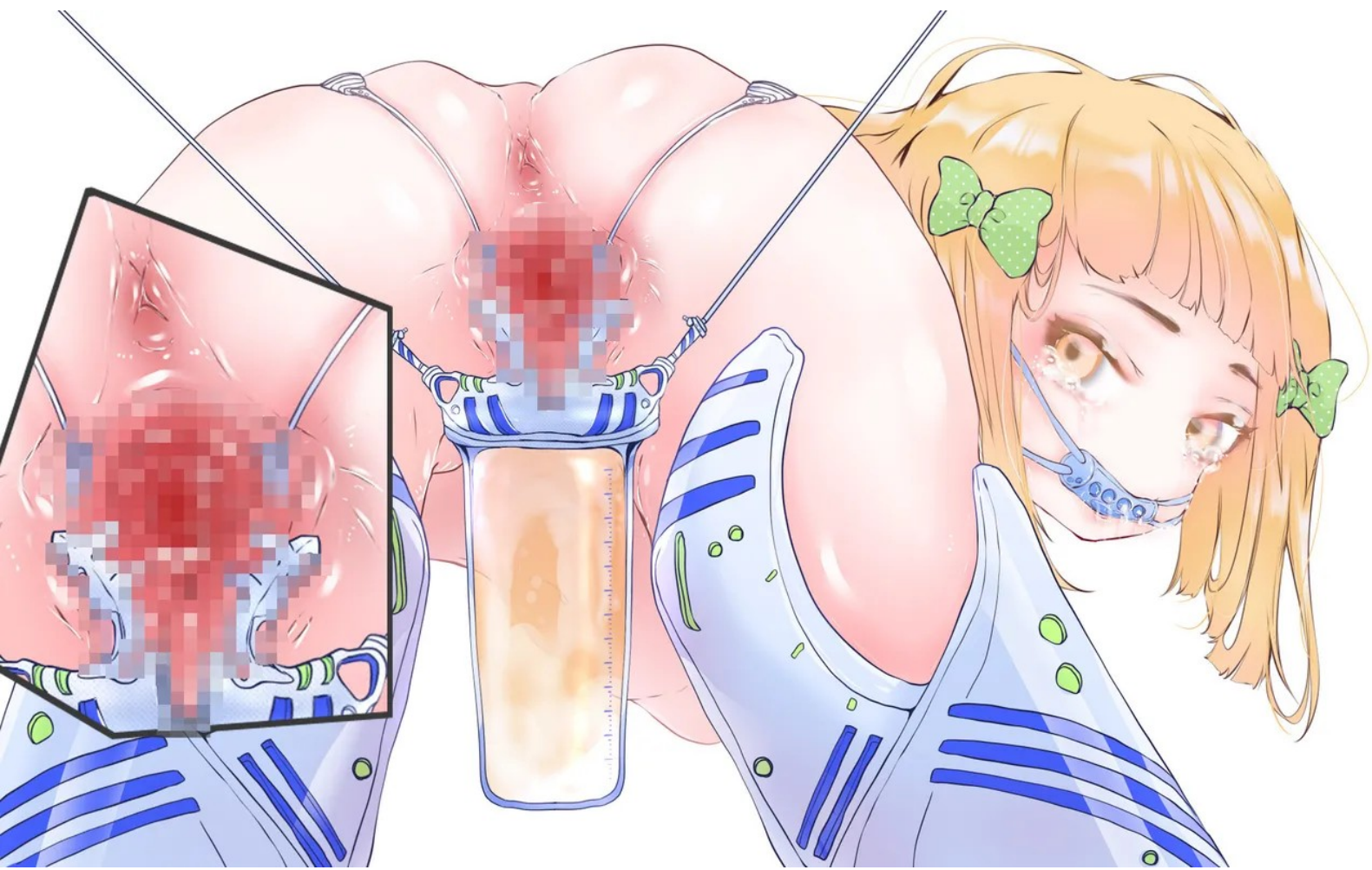


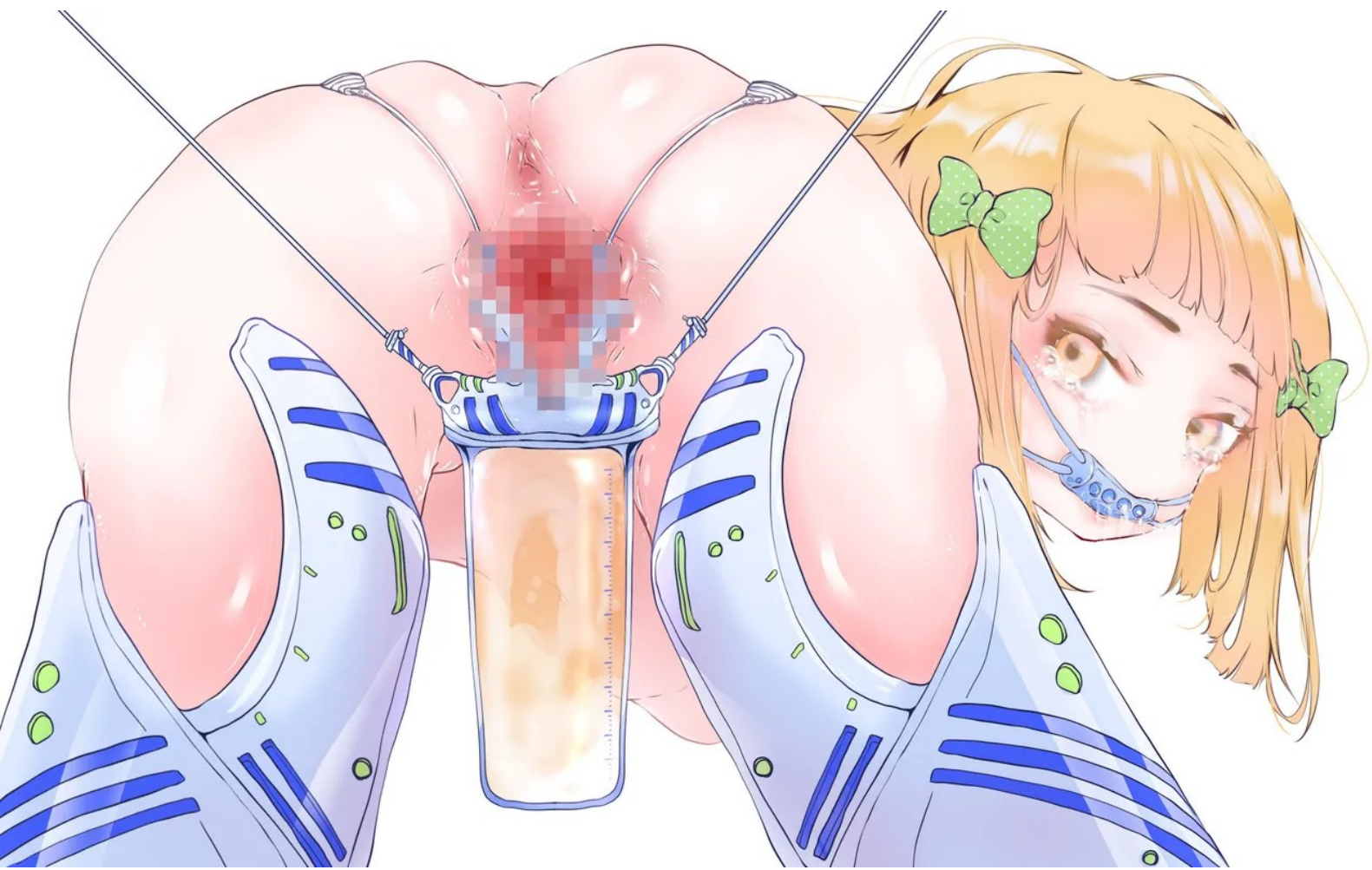


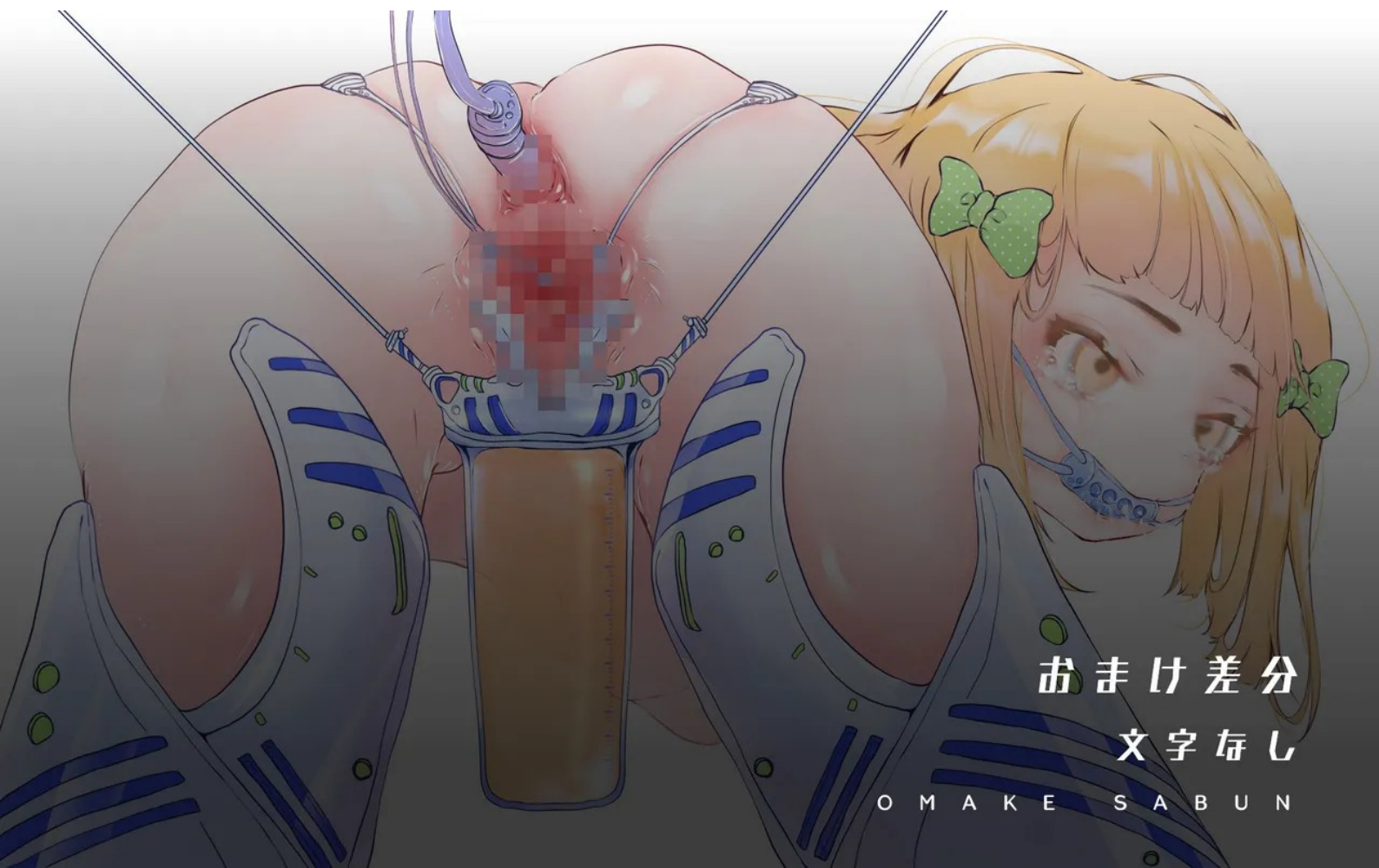












おまけ差分

文字存し

O M A K E S A B U N

